



元総社蒼海遺跡群(24)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 9. 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査團



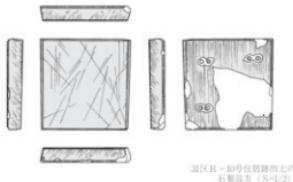






元總社蒼海遺跡群 (24)

前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



31KII-10号位周辺の
石製施設 (S-1/2)

2 0 0 9. 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団





1 31区全景（中央・東側、下が南）



2 32区全景（下が西面）



3 31区J-2号住居跡全景（南東より）



4 31区H-7号住居跡出土遺物



はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所に人々の息吹を感じられる歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ山王古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連縄と築かれ、上毛野の国を中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王庵寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中核をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社蒼海遺跡群（24）は古代上野国の中核地域の調査であります。上野国府推定区域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めています。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、古墳時代から平安時代にいたる多くの堅穴式住居跡を検出しました。今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。残念ながら、現状のまでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成21年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 依田三次郎



例　　言

1. 本報告書は、前橋市都市計画事業元総社若海土地区画整理事業に伴う元総社若海遺跡群（24）発掘調査報告書である。
2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調　　査　　場　　所　群馬県前橋市元総社町 1715-2 番地、1574 番地ほか

遺　　跡　　コ　　ード　20A130-24

発　　掘　　調　　査　　期　　間　平成 21 年 1 月 6 日～平成 21 年 2 月 12 日

整理・報告書作成期間　平成 21 年 2 月 13 日～平成 21 年 3 月 19 日

発　　掘　　担　　当　　者　前田和昭・閑 健吾（技研測量設計株式会社）

整　理　担　当　者　前田和昭

4. 本書の編集は前田が行った。原稿執筆は I を山下誠信（前橋市教育委員会）、II を佐野良平（技研測量設計株式会社）、他を前田が担当した。

5. 発掘調査・整理作業に関わった方々は次のとおりである。

宇佐美義春 高林真人 佐野良平 山田誠司 中村岱彦 大川明子 土屋一未 坂田裕之（以上、調査員）

飯塚常子 石田てい子 井上 等 今井忠勇 内鷲恭義 生方秀子 大久保修二 大和田幸宏 囲野 茂 片桐 登

神谷英孝 金田マスミ 木村 哲 木村広美 木暮孝一 小阪定一 後藤孝文 小林清次 斎藤英雄 佐藤和子

品田理恵 篠田貞子 鳥居主子 下田順子 関口ケサミ 関根卓美 曾我部鉄一 高野繁雄 高橋鉄一 高山 愛

瀧澤佳子 田辺信治 田丸さち子 田丸幸子 鳥山浪江 水田 薫 水田光子 南雲誠一 萩原廣子 平岩丈夫

平方廣樹 平方正廣 福島祿子 藤田 保 堀越晴子 町田花子 町田英子 間庭啓治 水野さかえ 三原一重

望月百合子 山根一郎（以上、作業員・整理補助員）

6. 発掘調査で出土した遺物および、図面等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

7. 以下の機関に有益な御指導、御協力を賜った。記して謝意を表します。（順不同、敬称略）

山下工業株式会社 株式会社測研 井上測量設計株式会社

凡　　例

1. 採図中に使用した北は、座標北である。

2. 採図に国土地理院発行 1/200,000 「宇都宮」「長野」、1/25,000 「前橋」、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。

3. 遺構、および遺構施設の略称は次のとおりである。

J …繩文時代の堅穴住居跡 H …古墳・奈良・平安時代の堅穴住居跡 T …堅穴状造構 W …溝跡

J D …繩文土坑 D …主坑 I …井戸跡 P …ピット X …性格不明遺構

4. 土層および遺物の色調は「新版標準土色図」（農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所色票監修）に掲げる。

5. 造構・遺物実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

造構 住居跡・溝跡・井戸跡・土坑…1/60, 1/80 置…1/30 全体図…1/200

遺物 土器・石製品…1/3 瓦…1/6

6. トーン は地山、太線は造構面を示す。

7. 計測値については（ ）は現存値、〔 〕は復元値を表す。

8. 遺物実測図、造構図のトーン表現は以下の通りである。

領軸器（還元焼成） 灰釉陶器 石器磨面 灰・焼土・粘土

9. 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。As-B（浅間 B 軽石：供給火山・浅間山、1108 年）、Hr-FP（榛名ニツ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、6 世紀中葉）、Hr-FA（榛名ニツ岳洪湯テフラ：供給火山・榛名山、6 世紀初頭）、As-C（浅間 C 軽石：供給火山・浅間山、4 世紀前半～中葉）



目 次

口絵1
口絵2
序
例言・凡例

I 調査に至る経緯	1
II 道路の立地と環境	1
III 調査の方針と経過	5

IV 基本層序	5
V 掘出された遺構・遺物	9
VI まとめ	29

挿図目次

Fig. 1 道跡の位置	
Fig. 2 前橋の地形	1
Fig. 3 周辺道路図	2
Fig. 4 基本層序	5
Fig. 5 元松社着海道跡群位置図とグリッド設定図	6
Fig. 6 調査区全図	7・8
Fig. 7 元松社着海道跡群の堅穴状居住跡時期別分布図	29
Fig. 8 31区J-1・2号住居跡	31
Fig. 9 31区J-1・2号住居跡	32
Fig. 10 31区H-3～5・8号住居跡	33
Fig. 11 31区H-6・7・11号住居跡、D-2・3号土坑	34
Fig. 12 31区H-9・10・12号住居跡	35
Fig. 13 31区H-13・14・17号住居跡、D-12・13号土坑	36
Fig. 14 31区H-15・16・18号住居跡、D-11・18号土坑	37
Fig. 15 31区H-19～22号住居跡、D-19～22号土坑	38
Fig. 16 31区H-23～25号住居跡	39
Fig. 17 31区H-26・27号住居跡、T-1・2号堅穴状遺構	40
Fig. 18 31区C-3～5号堅穴状遺構、D-10号土坑	41
Fig. 19 31区W-1号溝	42
Fig. 20 31区W-2～4号溝	43
Fig. 21 31区W-5～7号溝	44
Fig. 22 31区W-8号溝、J-1～5号土坑	45
Fig. 23 31区H-6～7・D-4～9・14～23号土坑	46
Fig. 24 31区P-1～22号ビット、32区H-1・2号住居跡	47
Fig. 25 32区H-3～5・7号住居跡	48
Fig. 26 32区H-4号住居跡	49
Fig. 27 32区H-6・10号住居跡	50
Fig. 28 32区H-8号住居跡	51
Fig. 29 32区H-9号住居跡、W-1号溝	52
Fig. 30 32区H-11号住居跡、I-1・2号井戸	53
Fig. 31 32区H-12号住居跡、D-10・11号土坑	54
Fig. 32 32区T-1号堅穴状遺構、W-2・3号溝	55
Fig. 33 32区X-1号溝、D-1～9・12・13号土坑	
Fig. 34 32区D-14～20号土坑、P-1～15号ビット	57
Fig. 35 32区X-16・17・20～45号ビット	58
Fig. 36 32区Y-46～56号ビット	59
Fig. 37 31区J-1・2号住居跡出土遺物	60
Fig. 38 31区J-2号住居跡、JD-1号土坑出土遺物	61
Fig. 39 31区JD-1・7号土坑、 H-1～3号住居跡出土遺物	62
Fig. 40 31区H-4～7号住居跡出土遺物	63
Fig. 41 31区H-7・8号住居跡出土遺物	64
Fig. 42 31区H-9・10・12号住居跡出土遺物	65
Fig. 43 31区H-12号住居跡出土遺物	66
Fig. 44 31区H-12・13号住居跡出土遺物	67
Fig. 45 31区H-14・16号住居跡出土遺物	68
Fig. 46 31区H-17～19・21号住居跡出土遺物	69
Fig. 47 31区H-22号住居跡出土遺物	70
Fig. 48 31区H-23・24号住居跡出土遺物	71
Fig. 49 31区H-25～27号住居跡、 T-1・3・4・5号堅穴状遺構、 W-1～3号溝、D-14号土坑、 P-2号ビット出土遺物	72
Fig. 50 31区遺構外出土遺物	73
Fig. 51 31区遺構外、32区H-1～2号住居跡出土遺物	74
Fig. 52 32区H-3～6・8・10・11・12号住居跡、 I-1号井戸出土遺物	75
Fig. 53 32区T-1号堅穴状遺構、W-2号溝、I-2号井戸、 X-1号機、D-12・17号土坑、遺構外出土遺物	76

表目次

Tab. 1 元松社着海道跡群周辺道路概要一覧表	3
Tab. 2 調査経過	5
Tab. 3 土坑・ビット計測表	19
Tab. 4 出土遺物観察表	21

写真図版目次

PL. 1 31区調査区全景	
PL. 2 31区調査区全景	
PL. 3 31区J-1・2・H-1号住居跡	
PL. 4 31区H-1～8号住居跡	
PL. 5 31区H-8～12号住居跡	
PL. 6 31区H-12～18号住居跡	
PL. 7 31区H-19～24号住居跡	
PL. 8 31区H-24～27号住居跡、D-24号土坑、W-1・7号溝	
PL. 9 W-7号溝、P-1～5号ビット、JD-4～7号土坑 調査風景	
PL. 10 32区調査区全景	
PL. 11 32区H-1～8号住居跡	
PL. 12 32区H-9～12号住居跡、W-1・2号溝、 I-2号井戸、調査風景	
PL. 13 出土遺物	
PL. 14 出土遺物	
PL. 15 出土遺物	
PL. 16 出土遺物	
PL. 17 出土遺物	
PL. 18 出土遺物	
PL. 19 出土遺物	
PL. 20 出土遺物	

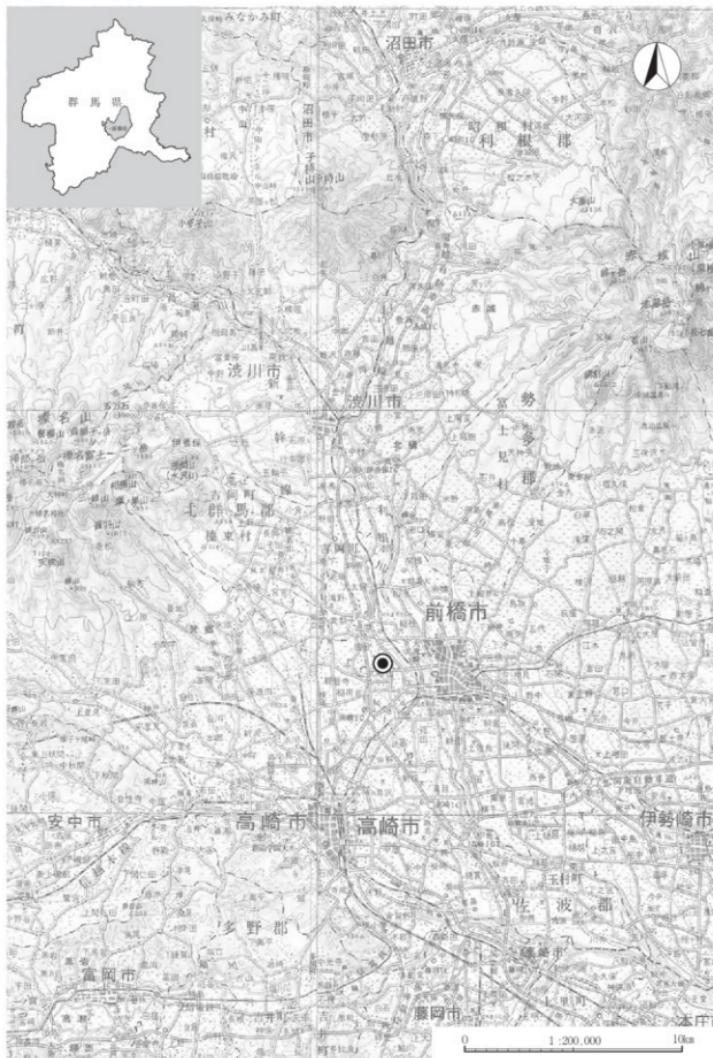


Fig. 1 遺跡の位置



I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、9年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に亘って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成20年4月1日付けで、前橋市長高木政夫（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会ではこれを受けて、内部で組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団へ調査実施の協議を行った。調査団では直営による本調査の実施が困難であるため、民間調査機関に調査業務を委託したいと回答した。民間調査機関の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成20年12月24日付けで前橋市埋蔵文化財発掘調査団と前橋市との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。

それを受けて調査団は民間調査機関である技研測量設計株式会社と12月26日付けで業務委託契約を締結し、平成21年1月7日より発掘調査を開始した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群(24)」(遺跡コード：20 A 130-24)の「元総社蒼海」は区画整理事業名を採用し、数字の「(24)」はすでに実施した調査と区別するために連番を付したものである。

II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置

本調査地は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3.6kmの地点、前橋市元総社地内に所在し、西約0.4kmには関越自動車道が南北に、南には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また東約0.5kmには市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。本調査地の立地する地形は、前橋台地上、榛名山麓を源にする牛池川、染谷川が開析し形成した細長い微高地との比高3~5mを測る。遺跡が立地する台地上は主として桑畠などの畠地として利用されているが、本道路地の所在する位置は南東に向く緩やかな谷地形を呈しており、水田として利用されていた。

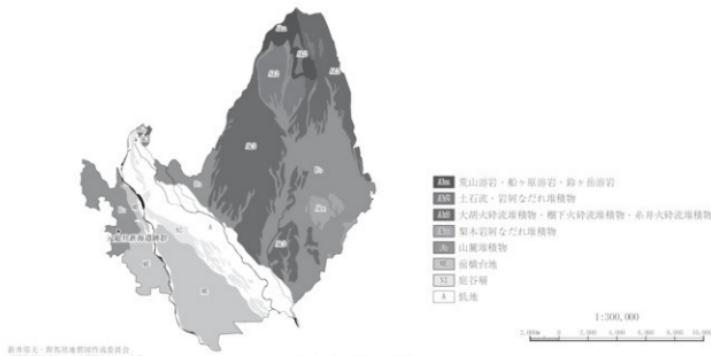


Fig. 2 前橋の地形

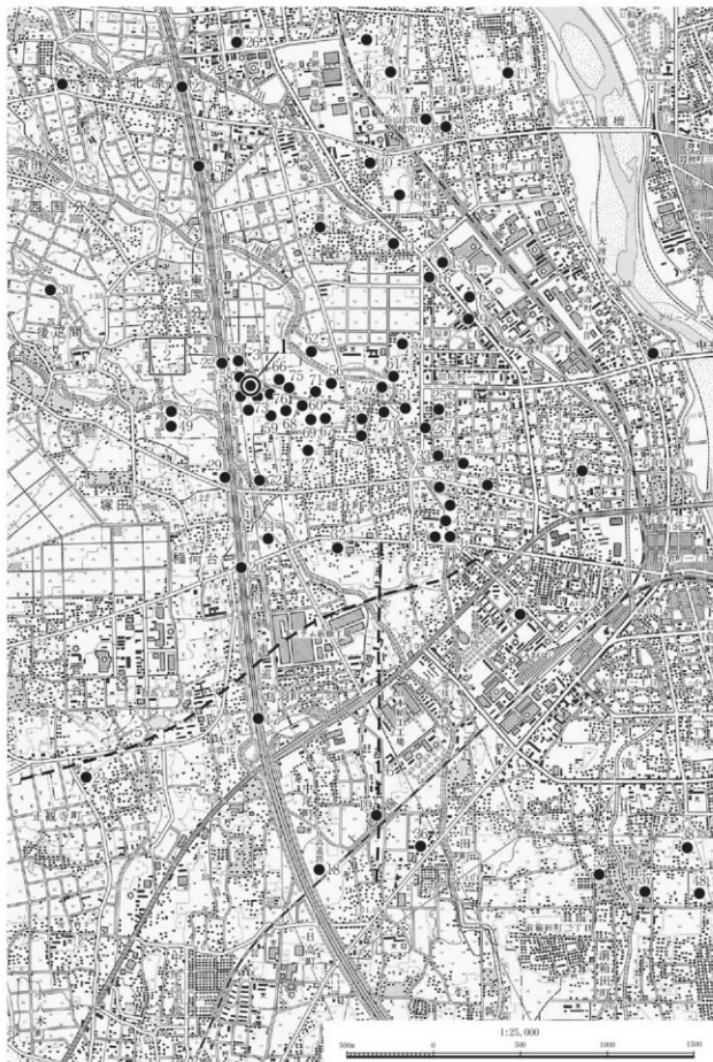


Fig. 3 周辺遺跡図



2 歴史的環境

本遺跡が立地する元総社地域には上野国府推定地や上野国分寺を中心に連続と遺跡が広がる地域である。周辺では関越自動車道建設や区画整理事業等に伴う発掘調査が行われており、多くの遺物・遺構が確認されている。本遺跡周辺地域における時代ごとの遺跡の概要是以下の通りである。

概期の遺跡は八幡川右岸の微高地上に産業道路東（15）・産業道路西（16）・總社開泉明神北三遺跡（61）、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域（22）・元総社小見三遺跡（59）などが挙げられる。

弥生時代に遺跡としては日高遺跡（18）・（19）、上野国分僧寺・尼寺中間地域（22）、正觀寺遺跡（21）等があるがその分布は散漫である。

古墳時代になると本遺跡周辺の区域は県内でも中心的な地域であったことが窺われる。それを示すものとして總社古墳群が上げられ、古墳時代後期・終末期に至り、王山古墳（7）、二子山古墳（12）、愛宕山古墳（10）、宝塔山古墳（13）、蛇穴山古墳（8）等の首長墓が多数築造された。

奈良・平安時代に至ると、本遺跡周辺は上野国府・国分寺（2）、国分尼寺（3）、山王庵寺（4）の建設に示されるように古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は本遺跡の南東の区域におよそ 900 m 四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡（14）、元総社寺田遺跡（43）、元総社宅地遺跡（55）などがある。また元総社明神道路（24）では南北方向の溝跡、園泉橋遺跡（25）では東西方向の大溝が確認され、国府城の東外郭線が想定された。

国分寺は昭和 55 年以降の調査により、主要伽藍の礎石、基壇、堀等が確認されている。国分尼寺は昭和 44・45 年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成 12 年の前橋市埋蔵文化財発掘調査団の確認調査により、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。関連遺跡として中尾遺跡（17）、鳥羽遺跡（20）、上野国分僧寺・尼寺中間地域（22）などが挙げられる。

山王庵寺は昭和 3 年に日枝神社境内が「山王塔跡」として国指定史跡となり、その後昭和 49～56 年にかけて 7 次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」匾書の平瓦出土により山王庵寺が「山ノ上碑」「上野交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。また平成 9～11 年の調査でも土坑から大量の塑像が出土し、平成 18・19 年の調査では北・東・西面の回廊を検出していいる。

また本遺跡の南約 1.5 km には N - 64° - E 方向に東山道（国府ルート）が、日高遺跡（19）では幅約 4.5 m の推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。これらは当時の交通網を物語る重要な遺構である。

室町時代になると上野国守護の上杉氏から上野国守護代に任命された長尾氏が永享元年（1429）に蒼海城を築き、これを本拠地とした。蒼海城は県内でも最古級の城郭に位置づけられ、縄張りは国府の割据と関連深いと考えられている。本遺跡周辺には屋敷に堀を巡らした城館跡が数多く認められる。

Tab. 1 元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代・主な遺構・出土遺物
1	元総社蒼海遺跡群（24）	—	本遺跡
2	上野国分寺跡（現教委）	1960～88	奈良・企业文化・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	1990	奈良・西南隅・東南隅基壇
4	王山古墳	1974	奈良・華心磚・根石石・金堂基壇・講堂施石・回廊石
5	東山道（発見）	—	
6	日高道（発見）	—	
7	王山古墳	1972	古墳・前方後円墳（6 C 中）
8	桃穴山古墳	1975	古墳・方墳（8 C 初）
9	相原山古墳	1988	古墳・円墳（6 C 後半）
10	愛宕山古墳	1990	古墳・円墳（7 C 初）
11	滝見山古墳	4,800 年	古墳・前方後円墳（5 C 後半）
12	鶴見山古墳	4,800 年	古墳・前方後円墳（5 C 後半～7 C 初）
13	大野山古墳	—	古墳・方墳（7 C 初）
14	文藏寺小学校庭遺跡	1962	奈良・複合柱頭施石・柱穴塞・周濠跡
15	産業道路実録跡	1996	道路・舟跡



番号	遺跡名	調査年度	時代・主な構造・出土遺物
16	東京府西御所跡	1976	縄文・住居跡
17	中尾遺跡（季美田）	1976	台地・平野・住居跡
18	江戸堀遺跡（季美田）	1977	台地・木田跡・瓦利堆溝渠・住居跡・木製器具・平安・奈良型水田跡
19	島根堀跡（奈良型）	(1978)	台地・木田跡
20	鳥引堀跡（季美田）	1978～83	古墳・住居跡・廻廊場所・台地・平野・住居跡・廻立柱建物跡
21	正鶴寺遺跡（高崎市）	1979～81	古墳・住居跡・瓦壇・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・溝跡
22	上野回分寺跡・尼寺中間地域（季美田）	1980～83	縄文・住居跡・配石壺蓋・赤土・住居跡・瓦利堆溝渠・古墳・住居跡・台地・平野・住居跡・廻立柱建物跡・中世・廻立柱建物跡・溝跡・住居跡
23	北原遺跡（群馬町）	1982	縄文・土坑・集落跡・古墳・木田跡・台地・平安・住居跡・廻立柱建物跡
24	元祐村御遺跡 I・II・III	1982～96	六角形・住居跡・水田跡・廻跡・奈良・平安・住居跡・溝跡・中世・住居跡・溝跡
25	南泉寺跡	1983	台地・平野・住居跡
26	大和・玉置跡	1983	縄文・住居跡・住居跡・溝跡
27	作谷遺跡	1984	大和・玉置跡・奈良・住居跡・中世・井戸跡
28	須見横穴墓群	1985	六角形・住居跡・奈良・平安・溝跡
29	東村田遺跡（群馬町）	1985	六角形・住居跡
30	鷹尾開拓跡 I・II（群馬町）	1985～87	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・道路伏道遺構
31	寺田遺跡	1986	台地・溝跡
32	天神遺跡・玉造跡	1986, 88	台地・平野・住居跡
33	原敷遺跡・玉造跡	1986, 95	古墳・住居跡・平安・住居跡・中世・廻跡・石敷道場
34	駿越遺跡	1987	台地・平野・住居跡・溝跡
35	人気原遺跡・玉造跡	1987	古墳・住居跡・平安・住居跡・溝跡・池子式土坑
36	伊豆風船	1987	平野・木田跡
37	村前遺跡	1987	台地・古墳・廻道構造・糸田跡
38	伊豆御所跡	1987	台地・古墳・廻道構造
39	境野谷遺跡	1988	縄文・住居跡・平安・住居跡・溝跡
40	東村遺跡	1988	六角形・住居跡・溝跡・奈良・平安・住居跡・中世・廻跡
41	馬来今里遺跡・玉造跡	1988	台地・平野・住居跡
42	伊賀玉造跡	1988	平安・住居跡
43	元祐村川道跡 I・II（季美田）	1988～91	古墳・木田跡・溝跡・奈良・平安・住居跡・中世・溝跡
44	熊野谷跡・玉造跡	1989	古墳・住居跡
45	因分塙跡（季美田）	1990	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡
46	因分塙跡・通跡	1991	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡
47	因分塙跡（群馬町）	1991	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・通跡・中世・土壁窓
48	伊豆御所跡 I・II	1995～2000	古墳・住居跡・古墳・住居跡・中世・廻道構造・地下式土坑・溝跡
49	元祐村川道跡（季美田）	1995	古墳・木田跡
50	大友毛佐山遺跡	1998	平安・木田跡
51	越社御所明神社遺跡	1999	古墳・高床・木田跡・溝跡・中世・溝跡
52	鶴田川遺跡	1999	古墳・溝跡・古墳・平安・木田跡
53	元祐村川道跡（季美田）	2000	古墳・住居跡・高床・奈良・平安・住居跡・溝跡
54	元祐村川見跡	2000	縄文・住居跡・古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・廻立柱建物跡・溝・道路伏道遺構
55	元祐村川地跡 I・II・23トレンチ	2000	古墳・住居跡・平安・住居跡
56	元祐村川見内人道跡	2001	古墳・住居跡・中世・廻道構造
57	元祐村川見内人道跡	2001	古墳・住居跡・中世・廻道構造・廻立柱建物跡・溝跡
58	越社御所高床・通路内人道跡	2001	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・溝跡・中世・溝跡
59	越社御所通路定之口道跡	2001	古墳・住居跡・溝跡・奈良・平安・住居跡・溝跡
60	元祐村川見見跡	2002	縄文・住居跡
61	元祐村川見内人道跡	2002	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・溝跡
62	越社御所明神社・玉造跡	2002	縄文・住居跡・古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡
63	元祐村川見通路（季美田）	2002～04	古墳・木田跡・奈良・平安・住居跡・溝跡・廻立柱建物跡・井戸跡
64	高荷塚跡（季美田）	2003	古墳・木田跡・奈良・平安・住居跡・溝跡
65	大友毛佐山遺跡	2003	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・廻道構造
66	越社川見内人道跡	2003	古墳・住居跡・中世・高床
67	元祐村川見内人道跡	2003	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・廻立柱建物跡・中世・溝跡
68	元祐村川見通路	2004	縄文・住居跡・古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡
69	元祐村川見通路跡	2004	古墳・住居跡・古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡
70	元祐村川見内人道跡	2004	古墳・住居跡・中世・溝跡
71	元祐村川見内人道跡（6）	2004	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・溝跡・廻立柱建物跡・中世・溝跡
72	越社御所高床・通路内人道跡	2004	古墳・住居跡・中世・溝跡
73	元祐村川見内人道跡	2004	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・溝跡
74	元祐村御通路（1）	2005	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡
75	元祐村御通路（4）	2005	縄文・住居跡・古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡
76	元祐村御通路（5）	2005	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・溝跡・中世・廻溝上遺構・土壁窓
77	元祐村御通路（7）	2005	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・溝跡
78	元祐村御通路（8）	2006	古墳・住居跡・中世・溝跡
79	元祐村御通路内人道跡	2006	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・廻立柱建物跡・溝跡
80	元祐村御通路内人道跡（6）	2006	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・工房跡・粘土保険構造・中世・溝跡・土壁窓
81	越社御所高床・通路内人道跡	2006	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・溝跡
82	元祐村御通路内人道跡	2006	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・廻道構造
83	元祐村御通路（1）	2006	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡
84	元祐村御通路（4）	2006	縄文・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・溝跡
85	元祐村御通路（5）	2006	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・溝跡
86	元祐村御通路（7）	2006	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・溝跡
87	元祐村御通路（8）	2006	古墳・住居跡・中世・溝跡
88	元祐村御通路（9）～（10）	2006	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・廻立柱建物跡・溝跡
89	元祐村御通路（11）	2006	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・溝跡
90	元祐村御通路（12）	2006	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・廻道構造
91	元祐村御通路（13）	2006	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・廻道構造
92	元祐村御通路（14）	2006	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・廻道構造
93	元祐村御通路（15）	2006	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・溝跡
94	元祐村御通路（16）	2008	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・廻立柱建物跡・中世・溝跡・聖火式壇場・月井跡
95	元祐村御通路（17）	2008	古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・溝跡
96	元祐村御通路（18）	2008	古墳・住居跡・奈良・高床・中世・溝跡
97	元祐村御通路（19）	2008	古墳・小石井本跡・中世・井戸跡



III 調査の方針と経過

1 調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、31区（北側）、32区（南側）合わせての総調査面積は約1,665 m²である。グリッド座標については国家座標（日本測地系）X = + 44000.000 m・Y = - 72200.000 を基点とする4 mピッチのものを使用し、経線をX、緯線をYとして、北西隅を基点に番付して呼称とした。

本道路31区のX 40・Y 105の公共座標は以下のとおりである。

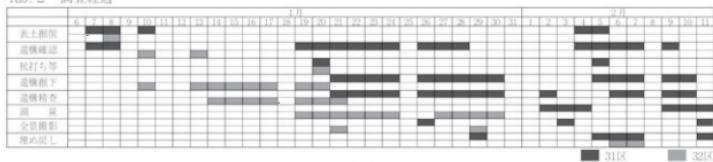
日本測地系	X = + 43580.000	Y = - 72040.000
世界測地系	X = + 43934.9060	Y = - 72331.7518

調査方法は表土掘削・道構確認・方眼杭打ち等測量・道構掘り下げ・道構精査・測量および全景撮影の順序で行うこととし、状況に応じて両調査区を平行して作業を行った。図面作成についてはトータルステーションによる測量を主に使用し、造り方測量を併用した。写真記録は35mm モノクロ・リバーサル、デジタルカメラの3種類を使用し、ラジコンヘリコプターによる空中撮影も実施した。なお、整理作業にあたっては、DTPの手法を用いて本文・図面・図版にわたるすべての作業をパソコンコンピューターを使用したデジタル編集によって報告書を作成した。

2 調査経過

本道路の発掘調査は、平成20年12月26日付けで業務委託契約を締結し、現地調査は平成21年1月6日から2月11日まで行った。調査経過は以下のとおりである（Tab. 2）

Tab. 2 調査経過



IV 基本層序

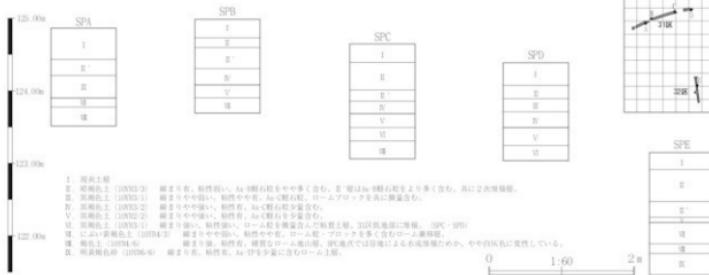




Fig. 5 元總社蒼海道路群位置図とグリッド設定図

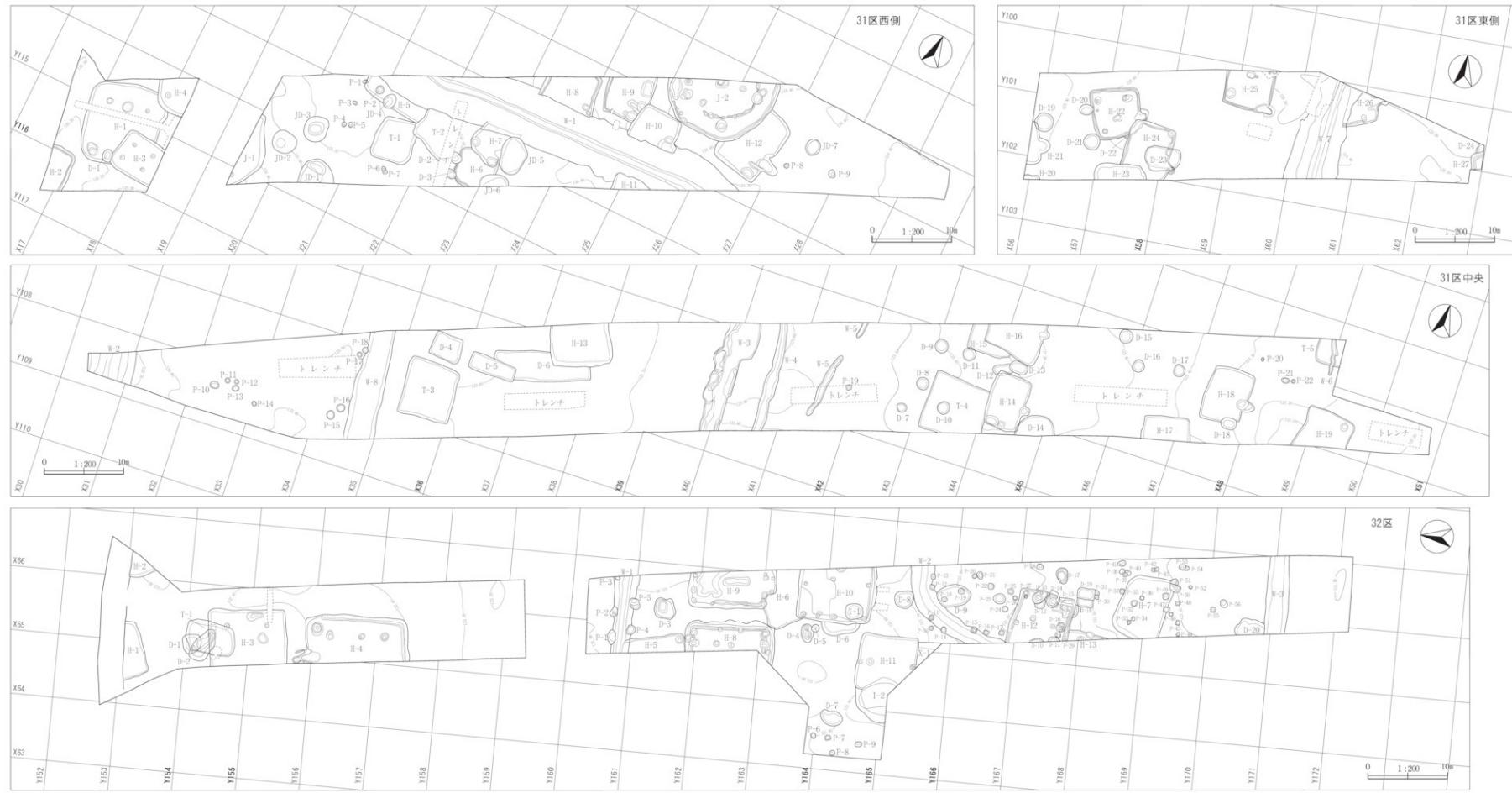


Fig. 6 調査区全体図



V 遺構と遺物

31区

(1) 竪穴住居跡

J-1号住居跡 (Fig. 8・37, PL. 3・13)

位置 X 19、Y 114・115 グリッド 主軸方向 N - 22° - W 規模 東西 (1.52) m、南北 (4.96) m、壁現高 28.2cm。面積 (3.59) m² 床面 ほぼ平坦で硬化は弱い。出土遺物 繩文土器、石皿。時期 出土遺物から縄文時代前期後半（諸磯c期）と考えられる。

J-2号住居跡 (Fig. 8・37・38, PL. 3・13)

位置 X 25・26、Y 110・111 グリッド 主軸方向 N - 17° - E 規模 東西 (6.12) m、南北 (6.06) m、壁現高 48.3cm。面積 (19.46) m² 床面 ほぼ平坦で堅緻。炉 中央やや西寄りに地床炉を検出する。長軸方向 N - 17° - E。長軸 79cm、短軸 78cm、深さ 15cm。重複 H-12 と重複しており、新旧関係は本遺構→H-12の順である。出土遺物 繩文土器、凹石、石棒、石皿。時期 出土遺物から縄文時代中期後半（加曾利E3期）と考えられる。

H-1号住居跡 (Fig. 9・39, PL. 3・4・13)

位置 X 16～18・26、Y 110・111 グリッド 主軸方向 N - 16° - W 規模 東西 5.16 m、南北 5.27 m、壁現高 59.9cm。面積 [20.22] m² 床面 全体的にやや起伏があるが堅緻。重複 H-3・4 と重複しており、新旧関係は本遺構→H-3・4の順である。出土遺物 坪、高坏。時期 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig. 9・39, PL. 4・14)

位置 X 16～17、Y 116 グリッド 主軸方向 N - 90° - E 規模 東西 (1.79) m、南北 (3.07) m、壁現高 40.7cm。面積 (3.37) m² 床面 ほぼ平坦で堅緻。出土遺物 土師器坪、軒平瓦。時期 出土遺物から9世紀代と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig. 10・39, PL. 4・14)

位置 X 17・18、Y 115 グリッド 主軸方向 N - 99° - E 規模 東西 (3.06) m、南北 (2.74) m、壁現高 27.0cm。面積 (6.30) m² 床面 ほぼ平坦で堅緻。重複 H-1 と重複しており、新旧関係はH-1→本遺構の順である。出土遺物 灰釉陶器壺、壺、土師質高台壺、軒丸瓦、鉄製品。時期 出土遺物から10世紀代と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig. 10・40, PL. 4・14)

位置 X 17・18、Y 113・114 グリッド 主軸方向 N - 83° - E 規模 東西 (2.32) m、南北 (2.72) m、壁現高 39.8cm。面積 (3.70) m² 床面 ほぼ平坦で堅緻。重複 H-1 と重複しており、新旧関係はH-1→本遺構の順である。出土遺物 丸瓦、平瓦。時期 図示には至らなかったが、覆土遺物（羽釜）から10世紀代と考えられる。



H-5号住居跡 (Fig.10・40, PL. 4・14)

位置 X 20・21、Y 112・113 グリッド 主軸方向 N-6°-E 規模 東西(4.34)m、南北(1.32)m、壁現高30.6cm。面積 (3.59)m² 床面 ほぼ平坦で硬化は弱い。重複 T-2、W-1と重複しており、新旧関係は本造構→T-2→W-1の順である。出土遺物 小型壺 時期 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.11・40, PL. 4・14)

位置 X 16～17、Y 116 グリッド 主軸方向 N-90°-E 規模 東西(2.65)m、南北(2.47)m、壁現高17.8cm。面積 (4.10)m² 床面 ほぼ平坦でやや堅緻。重複 H-7と重複しており、新旧関係は本造構→H-7の順である。竈 不明。出土遺物 土師質壺 時期 重複関係から10世紀以前と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig.11・40・41, PL. 4・14)

位置 X 22・23、Y 113 グリッド 主軸方向 N-112°-E 規模 東西(2.9)m、南北(2.39)m、壁現高17.7cm。面積 (4.10)m² 床面 ほぼ平坦でやや堅緻。重複 H-6、W-1と重複しており、新旧関係はH-6→本造構→W-1の順である。竈 東壁中央やや南寄りに位置する。全長67.7cm、最大幅49.1cm、焚口部幅23.5cm、袖部に凝灰岩、構築材として天井部に平瓦を用いる。出土遺物 土師質壺・高台壠、羽釜、丸瓦、平瓦 時期 出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig.10・41, PL. 4・5)

位置 X 23・24、Y 111 グリッド 主軸方向 N-91°-E 規模 東西(3.62)m、南北(2.60)m、壁現高66.0cm。面積 (6.00)m² 床面 ほぼ平坦で堅緻。重複 W-1と重複しており、新旧関係は本造構→W-1の順である。竈 不明。出土遺物 須恵器壺、土錐、平瓦 時期 出土遺物から8世紀中頃～9世紀と考えられる。

H-9号住居跡 (Fig.12・42, PL. 5・15)

位置 X 24、Y 110・111 グリッド 主軸方向 N-89°-E 規模 東西(2.97)m、南北(3.26)m、壁現高41.9cm。面積 (6.41)m² 床面 ほぼ平坦で堅緻。重複 H-10と重複しており、新旧関係は本造構→H-10の順である。竈 不明。出土遺物 土師質高台壠(墨書「吉」)、鉄製品、砥石 時期 出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-10号住居跡 (Fig.12・42, PL. 5・15)

位置 X 24・25、Y 111 グリッド 主軸方向 N-90°-E 規模 東西(2.99)m、南北(2.36)m、壁現高45.2cm。面積 (5.29)m² 床面 ほぼ平坦で堅緻。重複 H-9、W-1と重複しており、新旧関係はH-9→本造構→W-1の順である。竈 不明。出土遺物 灰釉陶器壺、土師質高台壠、土製品、鉄製品、巡方。 時期 出土遺物から10世紀代と考えられる。

H-11号住居跡 (Fig.11, PL. 5)

位置 X 24・25、Y 112 グリッド 主軸方向 N-97°-E 規模 東西(2.36)m、南北(1.29)m、壁現高60.7cm。面積 (1.46)m² 床面 ほぼ平坦で堅緻。重複 W-1と重複しており、新旧関係は本造構→W-1の順である。竈 不明。出土遺物 なし。 時期 出土遺物がないため、詳細は不明である。



H-12号住居跡 (Fig.12・42～44, PL. 5・6・15)

位置 X 26・27、Y 110・111 グリッド 主軸方向 N - 104° - E 規模 東西(4.53)m、南北(3.36)m、壁現高 40.0cm。 面積 10.49 m² 床面 ほぼ平坦でやや堅緻。 重複 J-2と重複しており、新旧関係は本遺構→J-2の順である。 窓 東壁中央やや南寄りに位置する。全長 145cm、最大幅 51.3cm、構築材として両側壁内側縫道寄りに 2 枚、両側袖付け根に 1 枚、計 3 枚の丸瓦を用いる。 出土遺物 須恵器壺・高台皿、土師質高台塊、土鍾、釘、皇朝十二銭「承和昌呂」 時期 出土遺物から 9 世紀後半と考えられる。 備考 南東隅において確認された貯藏穴では、穴上面を覆うように丸瓦が凸部を上にして 2 枚並べて置かれた状態で出土した。さらにその直上には、須恵器高台皿が伏せた状態で出土している。

H-13号住居跡 (Fig.13・44, PL. 6・16)

位置 X 37・38、Y 105・106 グリッド 主軸方向 N - 20° - W 規模 東西(3.92)m、南北(2.72)m、壁現高 64.2cm。 面積 (7.96) m² 床面 ほぼ平坦でやや堅緻。 窓 不明。 出土遺物 須恵器盤・土師器壺・甕 時期 出土遺物から 8 世紀前半と考えられる。

H-14号住居跡 (Fig.13・45, PL. 6・16)

位置 X 44、Y 104・105 グリッド 主軸方向 N - 93° - E 規模 東西(2.42)m、南北(3.53)m、壁現高 30.2cm。 面積 6.43 m² 床面 ほぼ平坦でやや堅緻。 重複 T-4と重複しており、新旧関係は本遺構→T-4の順である。 窓 東壁中央に位置する。全長 51.4cm、最大幅 54.5cm。 出土遺物 須恵器高台塊、土師質高台塊、羽釜、釘、砾石、軒丸瓦、平瓦 時期 出土遺物から 10 世紀前半と考えられる。

H-15号住居跡 (Fig.14, PL. 6)

位置 X 43・44、Y 103・104 グリッド 主軸方向 N - 90° - E 規模 東西(2.72)m、南北(1.90)m、壁現高 13.0cm。 面積 (2.31) m² 床面 ほぼ平坦で堅緻。 重複 H-16と重複しており、新旧関係は本遺構→H-16の順である。 窓 不明。 出土遺物 土師質壺・丸瓦等出土したが、いずれも小破片で図示には至らなかった。 時期 覆土遺物から 9 世紀後半と考えられる。

H-16号住居跡 (Fig.14・45, PL. 6・16)

位置 X 43・44、Y 103・104 グリッド 主軸方向 N - 92° - E 規模 東西(3.63)m、南北(2.84)m、壁現高 21.1cm。 面積 (6.14) m² 床面 ほぼ平坦でやや堅緻。 重複 H-15と重複しており、新旧関係は H-15 → 本遺構の順である。 窓 東壁に位置する。全長 54.7cm、最大幅 50.1cm。 出土遺物 土師質壺・羽釜・丸瓦 時期 出土遺物から 10 世紀前半と考えられる。

H-17号住居跡 (Fig.13・46, PL. 6・16)

位置 X 46・47、Y 104 グリッド 主軸方向 N - 104° - E 規模 東西(3.13)m、南北(1.52)m、壁現高 31.4cm。 面積 (3.71) m² 床面 ほぼ平坦で堅緻。 窓 不明。 出土遺物 砥石・紡錘車 時期 覆土遺物から 9 世紀～10 世紀代と考えられる。

H-18号住居跡 (Fig.14・46, PL. 6・16・17)

位置 X 47・48、Y 103・104 グリッド 主軸方向 N - 93° - E 規模 東西(2.79)m、南北(3.65)m、壁現高 19.4cm。 面積 [10.64] m² 床面 ほぼ平坦でやや堅緻。 窓 東壁中央やや南寄りに位置する。全長



116.9cm、最大幅73.4cm。 出土遺物 灰釉陶器壇、須恵器高台壇、土師質坏・甕、丸瓦、平瓦。 時期 出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H-19号住居跡 (Fig.15・46, PL. 7)

位置 X 48・49、Y 103・104 グリッド 主軸方向 N-97°-E 規模 東西(3.32)m、南北(3.00)m、壁現高20.7cm。 面積 (6.52)m² 床面 ほぼ平坦でやや堅緻。 窓 不明。 出土遺物 灰釉陶器壇、土師質高台壇、羽釜 時期 出土遺物から10世紀代と考えられる。

H-20号住居跡 (Fig.15, PL. 7)

位置 X 55・56、Y 102 グリッド 主軸方向 N-93°-E 規模 東西(1.11)m、南北(0.41)m、壁現高44.0cm。 面積 (0.19)m² 床面 ほぼ平坦で硬化は弱い。 窓 不明。 出土遺物 覆土遺物を含めてなし。 時期 出土遺物・重複がないために詳細は不明である。

H-21号住居跡 (Fig.15・46, PL. 7)

位置 X 55・56、Y 101・102 グリッド 主軸方向 N-76°-E 規模 東西(1.01)m、南北(2.91)m、壁現高48.7cm。 面積 (1.29)m² 床面 ほぼ平坦でやや堅緻。 窓 東壁中央やや南寄りに位置する。全長80.6cm、最大幅104.7cm、焚口部幅21.3cm、袖部・焚口上部に川原石、構築材に粘土を用いる。 出土遺物 土師器壇 時期 出土遺物から8世紀代と考えられる。

H-22号住居跡 (Fig.15・47, PL. 7・17)

位置 X 56・57、Y 100・101 グリッド 主軸方向 N-71°-E 規模 東西(3.12)m、南北(3.23)m、壁現高18.1cm。 面積 [8.18]m² 床面 ほぼ平坦でやや堅緻。 重複 H-24と重複しており、新旧関係は本造構→H-24の順である。 窓 東壁中央やや南寄りに位置する。全長69.6cm、最大幅47.9cm、構築材として丸瓦、平瓦を用いる。 出土遺物 須恵器蓋、土師器甕、丸瓦、平瓦。 時期 出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

H-23号住居跡 (Fig.16・48, PL. 7・17)

位置 X 57、Y 101・102 グリッド 主軸方向 N-101°-E 規模 東西(3.31)m、南北(1.07)m、壁現高58.7cm。 面積 (2.20)m² 床面 ほぼ平坦で堅緻。 重複 H-24と重複しており、新旧関係はH-24→本造構の順である。 窓 不明。 出土遺物 須恵器壇、こも網石 時期 出土遺物から8世紀中頃と考えられる。

H-24号住居跡 (Fig.16・48, PL. 7・8・17・18)

位置 X 57・58、Y 101・102 グリッド 主軸方向 N-98°-E 規模 東西(3.09)m、南北(3.54)m、壁現高26.5cm。 面積 (7.96)m² 床面 ほぼ平坦で堅緻。 重複 H-22、H-23と重複しており、新旧関係はH-22・23→本造構の順である。 窓 東壁中央やや南寄りに位置する。全長48.3cm、最大幅33.7cm、構築材として丸瓦、平瓦、粘土を用いる。 出土遺物 灰釉陶器壇、須恵器高台壇、土師質高台壇・坏、羽釜、土釜、丸瓦、平瓦 時期 出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-25号住居跡 (Fig.16・49, PL. 8・18)

位置 X 58・59、Y 100 グリッド 主軸方向 N-92°-E 規模 東西(3.13)m、南北(2.77)m、壁現高



10.0cm。 面積 (6.52) m² 床面 ほぼ平坦で堅緻。 窓 東壁南隅に位置する。主軸方向N - 104° - E、全長105.0cm、最大幅38.3cm、支脚に凝灰岩、構築材として粘土を用いる。 出土遺物 土師質高台塊・坏、砥石、平瓦。

時期 出土遺物から11世紀前半と考えられる。

H - 26号住居跡 (Fig.17・49, PL. 8・18)

位置 X 60・61、Y 100 グリッド 主軸方向 N - 67° - E 規模 東西(2.41)m、南北(2.50)m、壁現高28.1cm。 面積 (7.64) m² 床面 ほぼ平坦で堅緻。 重複 W - 7 と重複しており、新旧関係は本遺構→W - 7の順である。 窓 東壁に位置する。全長137.5cm、最大幅55.0cm、構築材として粘土を用いる。 出土遺物 須恵器蓋、土師器坏・甕 時期 出土遺物から8世紀前半と考えられる。

H - 27号住居跡 (Fig.17・49, PL. 8)

位置 X 62、Y 100 グリッド 主軸方向 N - 82° - E 規模 東西(0.81)m、南北(1.20)m、壁現高50.9cm。 面積 (0.50) m² 床面 ほぼ平坦で堅緻。 重複 D - 27 と重複しており、新旧関係はD - 27→本遺構の順である。 窓 不明。 出土遺物 須恵器坏 時期 出土遺物から7世紀末～8世紀初頭と考えられる。

(2) 穴状遺構

T - 1号竪穴状遺構 (Fig.17・49)

位置 X 21、Y 113 グリッド 主軸方向 N - 10° - W 規模 東西(2.60)m、南北(2.79)m、壁現高28.6cm。 面積 [5.11] m² 床面 ほぼ平坦。 重複 T - 2 と重複しており、新旧関係は本遺構→T - 2の順である。 出土遺物 土師器坏 時期 出土遺物から9世紀代と考えられる。

T - 2号竪穴状遺構 (Fig.17)

位置 X 21・22、Y 112・113 グリッド 主軸方向 N - 21° - E 規模 東西(3.68)m、南北(3.57)m、壁現高31.3cm。 面積 (3.89) m² 床面 ほぼ平坦。 重複 T - 1 と重複しており、新旧関係はT - 1→本遺構の順である。 出土遺物 土師坏・甕等が出土したが、いずれも小破片で図示には至らなかった。 時期 重複関係から9世紀以降と考えられる。

T - 3号竪穴状遺構 (Fig.18・49)

位置 X 35・36、Y 106・107 グリッド 主軸方向 N - 0° - E 規模 東西(3.47)m、南北(3.71)m、壁現高42.4cm。 面積 (9.63) m² 床面 ほぼ平坦。 出土遺物 須恵器高台塊・坏 時期 出土遺物から9世紀後半と考えられる。

T - 4号竪穴状遺構 (Fig.18・49)

位置 X 43・44、Y 104・105 グリッド 主軸方向 N - 4° - E 規模 東西(4.07)m、南北(3.79)m、壁現高9.29cm。 面積 (12.55) m² 床面 ほぼ平坦。 重複 H - 14 と重複しており、新旧関係はH - 14→本遺構の順である。 出土遺物 鉄製品 時期 覆土遺物および重複関係から10世紀前半以降と考えられる。

T - 5号竪穴状遺構 (Fig.18)

位置 X 48・49、Y 102 グリッド 主軸方向 N - 4° - E 規模 東西(1.73)m、南北(1.66)m、壁現高25.4cm。 面積 (2.40) m² 床面 ほぼ平坦。 重複 W - 6 と重複しており、新旧関係は本遺構→W - 6の順



である。 出土遺物 土師質壺等が出土したが、いずれも小破片で図示には至らなかった。 時期 出土遺物から9世紀以降と考えられる。

(3) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.19・49, PL. 8・18)

位置 X 20 ~ 26 Y 111・112 主軸方向 N - 87° - E 長さ (19.41)m 最大幅 上幅 3.53m、下幅 1.44m。 深さ 0.92 m 形状等 U字形。 重複 H-5・7~11、T-2と重複しており、新旧関係はH-5・7~11、T-2→本道構の順である。 出土遺物 覆土中より置き甌、瓦、板磚、五輪塔（水輪）、石塔片、人骨片 時期 出土遺物はいずれも流れ込みによるものであるが、As-B 軽石2次堆積層の混入から、中世以降と考えられる。 備考 覆土中にはAs-B 軽石が流れ込みで混入し、やや厚い層の上に軽石混入が多い薄く硬化した層が堆積しており、断面では3回にわざって順次堆積していることが認められた。また溝底面北側には硬化面、南側にはやや掘り窪めた面が底面と平行して構築されており、通水の痕跡が認められないことからも、道としても使用されたことが想定できる。

W-2号溝跡 (Fig.20・49)

位置 X 30 Y 109 主軸方向 N - 175° - E 長さ (21.6)m 最大幅 上幅 3.04m、下幅 0.37m。 深さ 1.37 m 形状等 U字形。 出土遺物 覆土中より板磚 時期 覆土の状況から、As-B 軽石降下以前と考えられる。 備考 通水の痕跡は認められない。

W-3号溝跡 (Fig.20・49)

位置 X 39・40 Y 104 ~ 106 主軸方向 N - 179° - E 長さ (7.65)m 最大幅 上幅 1.91m、下幅 1.58 m。 深さ 0.73 m 形状等 逆台形。 出土遺物 覆土中より軒平瓦 時期 覆土の状況から、As-B 軽石降下以前と考えられる。 備考 通水による壁面崩落が北東際および西側中央部に多く、本来の形状は不明である。

W-4号溝跡 (Fig.20)

位置 X 40 Y 104 ~ 106 主軸方向 N - 183° - E 長さ (7.11)m 最大幅 上幅 0.79 m、下幅 0.49 m。 深さ 0.31 m 形状等 逆台形。 出土遺物 なし。 時期 覆土の状況から、As-B 軽石降下以前と考えられる。 備考 通水の痕跡は認められない。

W-5号溝跡 (Fig.21)

位置 X 41 Y 104・105 主軸方向 N - 167° - W 長さ (1.19)・(4.37)m 最大幅 上幅 0.47 m、下幅 0.27 m。 深さ 0.45 m 形状等 逆台形。 出土遺物 なし。 時期 覆土の状況から、As-B 軽石降下以前と考えられる。 備考 通水の痕跡は認められない。

W-6号溝跡 (Fig.21)

位置 X 48・49 Y 102 主軸方向 N - 166° - E 長さ (2.25)m 最大幅 上幅 0.37 m、下幅 0.20 m。 深さ 0.53 m 形状等 逆台形。 重複 T-5と重複しており、新旧関係はT-5→本道構の順である。 出土遺物 なし。 時期 重複および覆土の状況から、9世紀以降、As-B 軽石降下以前と考えられる。 備考 通水の痕跡は認められない。



W-7号溝跡 (Fig21、PL. 8・9)

位置 X 59・60 Y 99～101 主軸方向 N-174°-W 長さ 7.08m 最大幅 上幅3.27m、下幅0.26m。
深さ 1.45m 形状等 葉研状。重複 H-26と重複しており、新旧関係はH-26→本遺構の順である。
出土遺物 なし。 時期 覆土の状況から、中世以降と考えられる。 備考 通水の痕跡は認められない。

W-8号溝跡 (Fig21)

位置 X 34 Y 106～108 主軸方向 N-82°-E 長さ (7.4)m 最大幅 上幅1.93m、下幅1.41m。 深さ 0.35m 形状等 U字形。 出土遺物 灰釉陶器壇、土師器壺等が出土しているが、いずれも少破片で図示には至らなかった。 時期 覆土の状況から、As-B軽石降下以前と考えられる。 備考 通水の痕跡は認められない。

(4) 土坑・ピット (Fig21・24・38・39・49、PL. 9)

土坑・ピットについては、Tab. 3 土坑・ピット計測表を参照のこと。

32区

(1) 積穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig24・51、PL.11)

位置 X 64・65、Y 153グリッド 主軸方向 N-71°-E 規模 東西(3.62)m、南北(1.46)m、壁現高22.8cm。 面積 (3.59)m² 床面 ほぼ平坦でローム混入の貼床。 出土遺物 須恵器壺類 時期 本遺跡の調査では遺物が少なく判断しかねるが、隣接した9区ではH-4住居跡として報告されており、出土遺物から8世紀後半と考えられている。

H-2号住居跡 (Fig24・51、PL.11)

位置 X 65・66、Y 153グリッド 主軸方向 N-27°-W 規模 東西(1.73)m、南北(1.70)m、壁現高25.6cm。 面積 (1.32)m² 床面 ほぼ平坦でやや堅緻。 出土遺物 須恵器壺類 時期 本遺跡の調査では遺物が少なく判断しかねるが、隣接した9区ではH-3住居跡として報告されており、出土遺物から8世紀中葉と考えられている。

H-3号住居跡 (Fig25・52、PL.11・19)

位置 X 64・65、Y 154グリッド 主軸方向 N-97°-W 規模 東西(3.67)m、南北4.97m、壁現高46.1cm。 面積 (12.31)m² 床面 ほぼ平坦で堅緻。 重複 T-1と重複しており、新旧関係は本遺構→T-1の順である。 出土遺物 土師器壺・小型壺・壺 時期 出土遺物から6世紀中葉と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig26・52、PL.11)

位置 X 64・65、Y 155～157グリッド 主軸方向 N-4°-W 規模 東西(3.07)m、南北6.56m、壁現高56.7cm。 面積 (16.40)m² 床面 ほぼ平坦で堅緻。 壁 北壁に位置する。全長172.9cm、最大幅64.6cm、構築材として粘土を用いる。 出土遺物 土師器壺・壺 時期 出土遺物から7世紀初頭と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig25・52、PL.11)

位置 X 65、Y 160・161グリッド 主軸方向 N-9°-W 規模 東西(1.17)m、南北(4.05)m、壁現高



19.7cm。 面積 (3.32) m² 床面 ほぼ平坦で堅緻。 重複 H-8、W-1と重複しており、新旧関係は本遺構→H-8→W-1の順である。 出土遺物 須恵器壺 時期 出土遺物から9世紀代と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.27・52, PL.11・20)

位置 X 66・67、Y 164 グリッド 主軸方向 N-65°-E 規模 東西(3.55) m、南北(3.14) m、壁現高 29.1cm。 面積 (5.79) m² 床面 ほぼ平坦でやや堅緻。 重複 H-8～10と重複しており、新旧関係は本遺構→H-8～10の順である。 罹 不明。 出土遺物 土師賀坪 時期 重複関係から6世紀中葉と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig.25, PL.11)

位置 X 66・67、Y 168・169 グリッド 主軸方向 N-16°-E 規模 東西(4.26) m、南北 3.11 m、壁現高 18.6cm。 面積 (9.60) m² 床面 ほぼ平坦で堅緻。 罹 不明。 出土遺物 覆土より灰釉陶器壺、土師器壺・甕等が出土しているが、いずれも小破片のため図示には至らなかった。 時期 覆土遺物から9世紀後半～10世紀代と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig.28・52, PL.11)

位置 X 65・66、Y 161～163 グリッド 主軸方向 N-2°-W 規模 東西(2.82) m、南北 5.67 m、壁現高 63.8cm。 面積 (8.98) m² 床面 ほぼ平坦で非常に堅緻。 重複 H-5・6と重複しており、新旧関係はH-5・6→本遺構の順である。 出土遺物 覆土より須恵器壺、鉄津 時期 本遺構は南北方向3間の壁柱穴構造となっており、覆土中の遺物は時期が混在し、いずれも小破片でやや摩滅していることを考え合わせると、中世の方形堅穴の可能性も考慮しなければならない。

H-9号住居跡 (Fig.29、PL.12)

位置 X 66・67、Y 161～163 グリッド 主軸方向 N-3°-E 規模 東西(2.56) m、南北 5.58 m、壁現高 62.4cm。 面積 (10.28) m² 床面 ほぼ平坦で非常に堅緻。 重複 H-6と重複しており、新旧関係はH-6→本遺構の順である。 出土遺物 他に灰釉陶器壺、須恵器壺・甕、土師器壺・甕、平瓦等が出土しているが、いずれもやや摩滅した小破片で時期は混在している。 時期 本遺構は南北に柱間3間の壁柱穴で南側に張り出し部を持つ構造となっている。床面直上遺物がないために断定はできないが、中世の方形堅穴である可能性が高い。また、H-8とは住居規模がほぼ同じで、位置関係も並列となっていることから、何らかの関連性を想定せざるを得ない。

H-10号住居跡 (Fig.27・52、PL.12・20)

位置 X 66・67、Y 163・164 グリッド 主軸方向 N-2°-E 規模 東西(3.85) m、南北 4.98 m、壁現高 97.37cm。 面積 (14.76) m² 床面 ほぼ平坦で非常に堅緻。 重複 H-6、I-1と重複しており、新旧関係はH-6→本遺構→I-1の順である。 出土遺物 常滑窯、鉄釘 時期 本遺構は柱間3間の壁柱穴構造となっており、出土遺物からも中世の方形堅穴と考えられる。

H-11号住居跡 (Fig.30・52, PL.12)

位置 X 65・66、Y 164・165 グリッド 主軸方向 N-2°-W 規模 東西(3.59) m、南北 3.77 m、壁現高 44.5cm。 面積 (9.42) m² 床面 ほぼ平坦で非常に堅緻。 重複 I-2、X-1と重複しており、新旧関係は本遺構→I-2・X-1の順である。 出土遺物 灰釉陶器壺、須恵器壺・甕、土師器壺・甕が出土している



が、いずれもやや摩滅した小破片で時期は混在している。 時期 本遺構は南北壁中央に壠柱穴を持つ構造となっており、床面直上遺物がないために断定はできないが、覆土の状況、他遺構との比較から中世の方形竪穴である可能性が高い。

H-12号住居跡 (Fig.31・52, PL.12)

位置 X 66・67, Y 166・167 グリッド 主軸方向 N-11°-E 規模 東西(386)m、南北382m、壁現高46.4cm。 面積 10.31 m² 床面 ほぼ平坦で非常に堅緻。 重複 H-13と重複しており、新旧関係はH-13→本遺構の順である。 出土遺物 茶臼 時期 本遺構は南北に柱間3間の壠柱穴を持つ構造であり、出土遺物からも中世の方形竪穴と考えられる。

H-13号住居跡 (Fig.31)

位置 X 66, Y 167・168 グリッド 主軸方向 N-5°-E 規模 東西(0.84)m、南北(284)m、壁現高29.4cm。 面積 0.78 m² 床面 ほぼ平坦でやや堅緻。 窓 不明。 出土遺物 覆土中より須恵器壺・甕、土師器甕が出ているが、いずれも小破片のために図示には至らなかった。 時期 詳細な時期は不明である。

(2) 竪穴状遺構

T-1号竪穴状遺構 (Fig.32・53)

位置 X 64・65, Y 154 グリッド 主軸方向 N-5°-E 規模 東西 2.06m、南北 3.17m、壁現高 24.5cm。 面積 4.25 m² 床面 ほぼ平坦。 重複 H-3と重複しており、新旧関係はH-3→本遺構の順である。 出土遺物 灰釉陶器壺、須恵器高台壺・环・蓋、釘 時期 出土遺物から9世紀後半と考えられる。

(3) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.29, PL.12)

位置 X 65・66 Y 160・161 主軸方向 N-88°-W 長さ (5.11)m 最大幅 上幅 1.64m、下幅 0.26m。 深さ 0.59m 形状等 逆台形。 重複 H-5、P-1～5と重複しており、新旧関係はH-5→本遺構→P-1～5の順である。 出土遺物 覆土中より須恵器蓋・环・甕、土師質環・瓦等が出土しているが、小破片のみで図示には至らなかった。 時期 重複関係から9世紀以降と考えられる。 備考 通水の痕跡は認められない。

W-2号溝跡 (Fig.32・53, PL.12・20)

位置 X 66・67 Y 165・166 主軸方向 N-89°-W、N-206°-W 長さ (6.92)m 最大幅 上幅 1.49m、下幅 0.38m。 深さ 0.58m 形状等 U字形。 出土遺物 覆土中より石臼 時期 覆土の状況から、中世以降と考えられる。 備考 通水の痕跡は認められない。

W-3号溝跡 (Fig.32)

位置 X 66～68 Y 170・171 主軸方向 N-87°-E 長さ (5.09)m 最大幅 上幅 1.40m、下幅 0.63m。 深さ 0.40m 形状等 U字形。 出土遺物 覆土中より須恵器壺・甕、土師器壺等が出土しているが、小破片のため図示には至らなかった。 時期 覆土の状況から、As-B軽石降下以降と考えられる。 備考 通水の痕跡は認められない。



(4) 井戸跡

I-1号井戸跡 (Fig.30・52、PL.12)

位置 X 66、Y 164 形状等 円形。上幅(1.10) × (1.01) m、深さ (3.17) m。重複 H-10と重複しており、新旧関係はH-10→本遺構の順である。出土遺物 かわらけ、常滑窯、茶臼、骨片、他古代遺物混入。備考 出土遺物、重複から中世以降と考えられる。

I-2号井戸跡 (Fig.30・53、PL.12・20)

位置 X 64・65、Y 164・165 形状等 円形。断面漏斗状。上幅 (2.88) × (2.67) m、深さ (3.86) m。重複 H-11と重複しており、新旧関係はH-11→本遺構の順である。出土遺物 青磁折縁皿、鉢、石臼、銅製留金具 備考 出土遺物、重複から中世以降と考えられる。

(5) 土坑・ビット (Fig.33～36・53)

土坑・ビットについては、Tab.○土坑・ビット計測表を参照のこと。

(6) その他

X-1号跡 (Fig.33・53・20)

位置 X 65・66、Y 165 形状等 隅丸長方形。長軸 (1.89) m、短軸 (1.84) m、深さ (0.25) m。重複 H-11と重複しており、新旧関係はH-11→本遺構の順である。出土遺物 骨片、北宋錢「天禧通寶」 備考 覆土は灰層を主体として、砂粒や微量の骨片が混入した土層であり、その下層に焼土層は認められない。中世以降の葬送に関連する遺構と考えられる。



Tab. 3 土坑・ピット調査表
31区

遺構名	位置	長軸	短軸	深さ	形状	出土遺物	備考
J.D.-1	X20・21、Y114・115	(2.28)	(1.53)	0.47	楕円形	網22、石4	加賀利E.3
J.D.-2	X20、Y114・115	1.54	1.47	0.52	楕円形		
J.D.-3	X20・21、Y114	1.62	1.51	0.72	楕円形	網14	加賀利E.3
J.D.-4	X21・22、Y114	0.96	0.74	0.41	楕円形	網5	加賀利E.3
J.D.-5	X23・24、Y113	2.37	1.68	0.74	楕円形	網79、土1	
J.D.-6	X23、Y113・114	1.82	(0.74)	(0.62)	楕円形	網5	
J.D.-7	X27・28、Y110・111	1.04	0.91	0.22	楕円形	網14、石2	加賀利E.3、埋甕
D-1	X17・18、Y115・116	0.81	0.59	0.26	楕円形	土1、網11	
D-2	X22・23、Y113・114	0.72	(0.72)	0.21	楕円形	土1	
D-3	X22・23、Y113・114	(0.63)	0.60	0.21	楕円形		
D-4	X35・36、Y106・107	1.96	1.62	0.25	長方形		
D-5	X36・37、Y106・107	2.99	1.15	0.33	長方形		
D-6	X36・38、Y106・107	6.12	1.95	0.33	長方形	網21、土206、須40、灰2、瓦3	
D-7	X42・43、Y105・106	0.66	0.58	0.18	円形		
D-8	X43、Y105	0.78	0.76	0.24	円形	土8、須1、龜1	
D-9	X43、Y104・105	0.87	0.83	0.17	円形	龜3	
D-10	X43・44、Y105・106	0.82	0.79	0.20	円形	須1	
D-11	X43・44、Y104・105	0.82	0.82	0.23	円形	土7、須5、灰1	
D-12	X43、Y104・105	(1.33)	0.72	0.25	楕円形		
D-13	X44・45、Y104・105	1.23	0.81	0.18	楕円形	土3、須1、龜3	10世紀
D-14	X45・Y105	2.54	(1.30)	0.17	楕円形	土3、須1、灰1	
D-15	X45・46、Y103・104	0.88	0.84	0.14	円形	須1	
D-16	X46・47、Y103・104	0.79	0.75	0.12	円形	土5、須4、灰1、瓦2	
D-17	X46・47、Y103・104	0.79	0.74	0.13	円形		
D-18	X47・48、Y103・104	1.06	0.80	0.34	椭円形	土15、須5、瓦3	
D-19	X56、Y104・105	1.18	1.15	0.26	円形	土22、須6、瓦1、石1	
D-20	X56・57、Y101・102	0.93	0.90	0.17	楕円形		
D-21	X56・57、Y101・102	1.12	1.08	0.40	円形	土36、須3	
D-22	X57・58、Y101・102	(0.28)	(0.26)	0.16	不明		
D-23	X58、Y101・102	2.26	1.60	0.15	楕円形	土1、須2、瓦2、龜3	
D-24	X62・63、Y100・101	(0.44)	(0.63)	(0.49)	不明		
P-1	X20・21、Y112・113	0.32	0.21	0.19	楕円形		
P-2	X20・21、Y112・113	0.54	0.49	0.46	円形	網1、土7、石1	
P-3	X20・21、Y113・114	0.31	0.22	0.27	楕円形		
P-4	X20・21、Y113・114	0.32	0.28	0.33	円形	土1、須1	
P-5	X20・21、Y113・114	0.34	0.31	0.23	円形	土1、須1、灰2	
P-6	X21・22、Y114	(0.27)	0.27	0.19	円形		
P-7	X21・22、Y114	0.28	0.23	0.26	円形		
P-8	X27・28、Y111・112	0.33	0.30	0.58	円形	土1	
P-9	X27・28、Y111	0.50	0.41	0.61	楕円形		
P-10	X32・33、Y108・109	0.57	0.45	0.16	楕円形		
P-11	X32・33、Y108・109	0.32	0.32	0.15	円形		
P-12	X32・33、Y108・109	0.30	0.28	0.12	円形		
P-13	X32・33、Y108・109	0.43	0.38	0.15	円形		
P-14	X33、Y108・109	0.33	0.28	0.12	楕円形		
P-15	X34・35、Y108・109	0.55	0.59	0.23	円形		
P-16	X34・35、Y108・109	0.53	0.49	0.23	円形		
P-17	X34・35、Y108	0.32	0.31	0.16	円形	石1	
P-18	X34・35、Y107	0.39	0.36	0.17	円形	土1、須1	
P-19	X41・42、Y105・106	0.40	0.37	0.30	長方形		
P-20	X47・48、Y103	0.24	0.20	0.07	円形		
P-21	X48・49、Y103・104	0.49	0.33	0.13	楕円形	黒曜石1	
P-22	X48・49、Y103・104	0.26	0.24	0.11	円形	須1	

32区

遺構名	位置	長軸	短軸	深さ	形状	出土遺物	備考
D-1	X65、Y154	1.38	1.23	0.61	円形	土3	
D-2	X65、Y154・155	2.27	1.18	(0.55)	楕円形	須1	
D-3	X66・67、Y161・162	1.31	1.39	0.58	長方形		
D-4	X66、Y163・164	1.18	0.77	0.44	楕円形		
D-5	X66・67、Y163・164	0.48	0.48	0.29	円形		
D-6	X66・67、Y164	2.43	2.29	0.57	楕円形	須1	
D-7	X64・65、Y164・165	1.43	0.98	0.25	楕円形		
D-8	X66・67、Y165・166	1.28	1.17	0.29	円形		
D-9	X67、Y166	2.11	1.40	0.21	楕円形	土2	
D-10	X66・67、Y167・168	(0.93)	(0.23)	(0.44)	楕円形	土4、須9	
D-11	X66・67、Y167・168	(0.78)	(0.29)	(0.50)	楕円形		
D-12	X67、Y167・168	0.68	0.65	0.40	円形	土1、須3	
D-13	X67、Y167・168	1.07	0.85	0.77	楕円形		
D-14	X67、Y167・168	1.09	0.84	1.00	楕円形		
D-15	X66・67、Y167・168	1.13	0.98	0.72	楕円形		
D-16	X66・67、Y167・168	0.59	0.49	0.61	円形	土2、須1	
D-17	X67、68、Y167・168	1.02	0.73	0.57	楕円形	土3、須2、龜1	
D-18	X67、Y168	1.03	(0.54)	0.22	長方形	土3、須1、石1	

註) 圖…圓土器片、土…土器片、灰…灰燒器片、石…石器、灰…灰燒陶器片を表す。



遺構名	位置	長軸	短軸	深さ	形状	出土遺物	備考
P - 19	X67・68、168	(1.13)	0.74	0.29	長方形		
D - 20	X66・67、Y170・171	(1.88)	(1.10)	0.97	橢円形		
P - 1	X65・66、Y160・161	0.94	0.52	0.31	不整形		
P - 2	X66・67、Y160・161	0.65	0.47	0.45	橢円形		
P - 3	X65・66、Y160・161	0.31	(0.24)	0.24	橢円形		
P - 4	X65・66、Y161	0.49	0.32	0.26	橢円形		
P - 5	X66・67、Y161	0.72	0.64	0.55	橢円形		
P - 6	X64・65、Y164	0.38	0.32	0.18	橢円形		
P - 7	X64・65、Y164・165	0.37	0.32	0.13	橢円形		
P - 8	X64・65、Y164・165	0.37	0.32	0.64	橢円形		
P - 9	X64・65、Y164・165	0.44	0.33	0.22	橢円形		
P - 10	X66・67、Y165・166	0.26	0.26	0.22	円形		
P - 11	X66・67、Y165・166	0.38	0.31	0.60	橢円形		
P - 12	X67、Y165・166	0.32	0.32	0.57	橢円形		
P - 13	X67・68、Y165・166	0.35	0.28	0.59	橢円形		
P - 14	X66・67、Y165・166	0.41	0.32	0.38	橢円形		
P - 15	X66・67、Y166・167	0.39	0.36	0.83	長方形		
P - 16	X66・67、Y166・167	0.34	0.30	0.42	橢円形		
P - 17	X66・67、Y166・167	0.32	0.31	0.34	長方形		
P - 18	X66・67、Y165・166	0.36	0.32	0.50	円形		
P - 19	X67、Y166・167	0.40	0.36	0.33	円形		
P - 20	X67・68、Y166・167	0.30	0.29	0.18	円形		
P - 21	X67・68、Y166・167	0.48	0.37	0.28	橢円形		
P - 22	X67・68、Y167・168	0.37	0.38	0.79	橢円形		
P - 23	X67・68、Y167・168	0.39	0.63	0.52	橢円形		
P - 24	X67・68、Y166・167	0.38	0.27	0.24	橢円形		
P - 25	X67・68、Y166・167	0.36	0.33	0.67	長方形		
P - 26	X67、Y166・167	0.26	0.25	0.25	円形		
P - 27	X67、Y167・168	0.22	0.19	0.61	橢円形		
P - 28	X67・68、Y167・168	0.39	0.36	0.71	橢円形		
P - 29	X66・67、Y167・168	0.34	0.28	0.60	橢円形		
P - 30	X67・68、Y168・169	0.28	0.27	0.28	橢円形		
P - 31	X67・68、Y168・169	(0.30)	0.29	0.19	不整形		
P - 32	X66・67、Y168・169	0.23	(0.11)	0.46	橢円形		
P - 33	X66・67、Y168・169	0.22	(0.17)	0.44	橢円形		
P - 34	X66・67、Y168・169	0.26	0.22	0.45	長方形		
P - 35	X67・68、Y168・169	0.42	0.39	0.40	長方形		
P - 36	X67・68、Y168・169	0.30	0.29	0.39	長方形		
P - 37	X67・68、Y168・169	0.34	0.32	0.67	円形		
P - 38	X67・68、Y168・169	0.37	0.36	0.45	橢円形		
P - 39	X67・68、Y168・169	0.28	0.27	0.32	橢円形		
P - 40	X67・68、Y168・169	(0.39)	0.26	0.30	長方形		
P - 41	X67・68、Y168・169	0.51	0.36	0.63	不整形		
P - 42	X67・68、Y169・170	0.27	0.24	0.21	橢円形		
P - 43	X67・68、Y169・170	0.30	0.25	0.20	橢円形		
P - 44	X66・67、Y169・170	0.39	0.34	0.32	長方形		
P - 45	X66・67、Y169・170	0.31	0.26	0.24	長方形		
P - 46	X66・67、Y169・170	0.29	0.29	0.20	長方形		
P - 47	X67、Y169・170	0.46	0.37	0.36	長方形		
P - 48	X67・68、Y169・170	0.31	0.30	0.38	長方形		
P - 49	X67・68、Y169・170	0.44	0.41	0.50	橢円形		
P - 50	X67・68、Y169・170	0.72	0.47	0.31	橢円形		
P - 51	X67・68、Y169・170	0.50	(0.40)	0.52	橢円形		
P - 52	X67・68、Y169・170	0.24	0.23	0.19	橢円形		
P - 53	X67・68、Y169・170	0.40	0.36	0.17	橢円形		
P - 54	X67・68、Y169・170	0.29	(0.27)	0.13	橢円形		
P - 55	X67・68、Y170・171	0.37	0.35	0.37	長方形		
P - 56	X67・68、Y170・171	0.53	0.43	0.80	橢円形		



Tab. 4 31区出土遺物観察表

J-1

番号	出土位置	種別、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土色	焼成	色調	器物、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	米原上	陶文大器 踏	-	-	-	白・黒・赤色鉄	良好	黒褐色 明赤褐色	J1脚部付近集落式陶器。J1D1・中間に地衣の陶文施文を有する。J1D2・内側に地衣の陶文施文を有する。	脚下部・脚部裏面部 脚部裏面部 脚部裏面部
2	米原上	陶文大器 踏頭	-	-	-	赤鉄	良好	褐色	J1脚部付近・中間に地衣の陶文を有する。J1D1・脚部裏面部	脚下部 (脚底部)・ 脚部裏面部 (脚底部)
3	米原上	陶文大器 踏	-	-	-	赤鉄、チーク	良好	褐色	J1脚部付近・J1D1内側に地衣文。器形を上とすと扁平な。J1D2・内側に地衣文。J1D3・脚部裏面部	J1脚部付近・ 脚部裏面部
番号	出土位置	種別、基準	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	石質	焼成	色調	器物、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
4	米原上	有製品 石質	(3.0)	(9.4)	(1.2)	安山岩	-	-	(402.1)	無

J-2

番号	出土位置	種別、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土色	焼成	色調	器物、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	米原上	陶文大器 深窪	(26.5)	-	(22.1)	白・青色鉄 水色・赤色斑	良好	明褐色	J1腹部付近・脚部裏面部に地衣文。J1D1・内側に地衣の陶文施文を有する。J1D2・中間に地衣の陶文施文を有する。	J1脚部裏面・ 脚部裏面
2	復土	陶文大器 踏頭	(18.0)	-	(6.0)	白色鉄	良好	灰青色	J1脚部付近・脚部裏面部に地衣文。J1D1・内側に地衣の陶文施文を有する。J1D2・脚部裏面部	J1脚部裏面 (脚底部)・ 脚部裏面
3	米原上	陶文大器	-	-	-	白・黒・赤色鉄	良好	黒褐色	J1脚部付近・脚部裏面部に地衣文。J1D1・内側に地衣の陶文施文を有する。J1D2・脚部裏面部	J1脚部裏面 (脚底部)・ 脚部裏面
4	米原上	陶文大器 深窪	(20.0)	(20.0)	(1.2)	安山岩	-	-	J1腹部付近・J1D1内側に地衣文。J1D2・内側に地衣の陶文施文を有する。	J1脚部裏面 (脚底部)・ 脚部裏面
5	米原上	陶文大器 深窪	-	-	-	白・黒・赤色鉄	良好	黒褐色	J1脚部付近・J1D1内側に地衣文。J1D2・内側に地衣の陶文施文を有する。	J1脚部裏面 (脚底部)・ 脚部裏面
6	米原上	陶文大器 深窪	-	-	-	白・黒・赤色鉄	良好	黒褐色	J1脚部付近・J1D1内側に地衣文。J1D2・内側に地衣の陶文施文を有する。	J1脚部裏面 (脚底部)・ 脚部裏面
7	米原上	陶文大器 深窪	-	-	-	白・黒・赤色鉄	良好	灰青色	J1腹部付近・J1D1内側に地衣文。J1D2・内側に地衣の陶文施文を有する。J1D3・脚部裏面部	J1脚部裏面 (脚底部)・ 脚部裏面
8	米原上	陶文大器 深窪	-	-	-	赤鉄	良好	灰青色	J1脚部付近・J1D1内側に地衣文。J1D2・内側に地衣の陶文施文を有する。	J1脚部裏面 (脚底部)・ 脚部裏面
9	米原上	陶文大器 深窪	-	-	-	白・黒・赤色鉄	良好	灰青色	J1脚部付近・J1D1内側に地衣文。J1D2・内側に地衣の陶文施文を有する。	J1脚部裏面 (脚底部)・ 脚部裏面
10	米原上	陶文大器 深窪	-	-	-	白・黒・赤色鉄	良好	灰青色	J1脚部付近・J1D1内側に地衣文。J1D2・内側に地衣の陶文施文を有する。	J1脚部裏面 (脚底部)・ 脚部裏面
11	米原上	陶文大器	-	-	-	白・黒・赤色鉄	良好	灰青色	J1脚部付近・J1D1内側に地衣文。J1D2・内側に地衣の陶文施文を有する。	J1脚部裏面 (脚底部)・ 脚部裏面
12	米原上	陶文大器 深窪	-	-	-	白・黒・赤色鉄	良好	灰青色	J1脚部付近・J1D1内側に地衣文。J1D2・内側に地衣の陶文施文を有する。	J1脚部裏面 (脚底部)・ 脚部裏面
13	米原上	陶文大器 深窪	-	-	-	白・黒・赤色鉄	良好	灰青色	J1脚部付近・J1D1内側に地衣文。J1D2・内側に地衣の陶文施文を有する。	J1脚部裏面 (脚底部)・ 脚部裏面
番号	出土位置	種別、基準	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	石質	焼成	色調	器物、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
14	米原上	有製品 石質	(11.0)	(20.0)	(7.4)	安山岩	-	-	4300	無
15	米原上	石質 石斧	11.6	3.6	1.2	白黄色	-	-	45.5	研磨形
16	米原上	有製品 石質	(10.0)	3.3	2.5	黄褐色砂岩	-	-	123.0	無
17	米原上	有製品 石質	17.5	13.2	9.1	安山岩	-	-	4200	表面凹凸 表面凹凸

J-D-1

番号	出土位置	種別、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土色	焼成	色調	器物、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	米原上	陶文大器 踏	(39.2)	-	(22.5)	白・黒・赤色鉄	良好	褐色	J1脚部付近・J1D1内側に地衣文。J1D2・内側に地衣の陶文施文を有する。J1D3・内側に地衣の陶文施文を有する。	J1脚部・J1D1内側 J1D2・J1D3内側
番号	出土位置	種別、基準	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	石質	焼成	色調	器物、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	米原上	石質 石斧	12.3	5.9	2.1	黑色頁岩	-	-	123.5	無

J-D-7

番号	出土位置	種別、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土色	焼成	色調	器物、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	米原上	陶文大器 踏	18.3	-	(12.1)	白色鉄・赤鉄 水色・赤鉄	中好	灰褐色 にぼい褐色	J1脚部付近・J1D1内側に地衣文。J1D2・内側に地衣の陶文施文を有する。J1D3・内側に地衣の陶文施文を有する。	J1脚部・J1D1内側 J1D2・J1D3内側
2	米原上	陶文大器 踏頭	(20.3)	-	(9.0)	白・赤色鉄	良好	褐色	J1脚部付近・J1D1内側に地衣文。J1D2・内側に地衣の陶文施文を有する。J1D3・内側に地衣の陶文施文を有する。	J1脚部付近・J1D1内側 J1D2・J1D3内側
番号	出土位置	種別、基準	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	石質	焼成	色調	器物、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
3	復土	石質 石斧	(21.4)	(15.0)	(5.8)	安山岩	-	-	3500	表面凹凸 表面凹凸
4	復土	石質 石斧	24.8	19.6	13.6	安山岩	-	-	8100	表面凹凸 表面凹凸

H-1

番号	出土位置	種別、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土色	焼成	色調	器物、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	米原上	土器部 墓	7.9	-	5.3	白・黒・赤色鉄	良好	褐色	外側は暗褐色ハケ土風色、内部は白土。	ほぼ完
2	米原上	土器部 墓	7.1	2.4	6.1	白・黒色鉄	良好	褐色	外側は暗褐色ハケ土風色、内部は白土。	完
3	米原上	土器部 墓	11.6	-	6.9	白・黒色鉄	良好	灰褐色	外側は暗褐色ハケ土風色、内部は白土。	ほぼ完
4	米原上	土器部 墓	9.0	-	5.0	白・黒色鉄、黒 斑	良好	オフホワイト	外側は暗褐色ハケ土風色、内部は白土。	ほぼ完

H-2

番号	出土位置	種別、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土色	焼成	色調	器物、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	米原上	土器部 墓	11.6	6.7	3.2	白・黒色鉄	良好	褐色	外側は暗褐色ハケ土風色、内部は白土。	完



番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
2	陶土	土器器 壺	(10.9)	(7.5)	3.1	白・黑色。	真好	褐色	内面1周輪郭線ナガリアリ。底部ハラタズリ。	2/3残存。
3	陶土	瓦、軒平瓦	-	-	-	白・黑色。	真好	褐色	内面輪郭線ナガリアリ。表面有目ナガリアリ。	破片。
H-3										
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	陶器壺上	灰陶器 壺	-	8.1	(3.1)	0.5-1.5厘米の小 粒を少々含む	真顔	白色	内面にも回転アリ。	保存-底面。
2	陶器壺上	灰陶器 壺	-	(11.3)	(8.2)	軽い	真顔	白色	内面1周輪郭線アリ。	削り半-底面1/3。
3	陶器壺上	土器質 瓦	10.9	5.9	4.9	白・黑色。	真好	淡青褐色	内面回転アリ。土器質ナガリアリ。	1/3生存。
4	陶器壺上	土器質 瓦	(10.3)	(7.0)	5.6	白・黑色。	真好	褐色	内面1周輪郭線アリ。	2/3残存。
5	陶器壺上	灰陶器 壺	-	7.0	3.8	白・黑色。	真好	褐色	内面1周輪郭線アリ。	1/3生存。
6	陶器壺上	灰陶器 壺	-	6.9	3.8	-	-	-	-	1/3生存欠損。
7	陶器壺上	灰陶器 壺	(2.8)	1.6	1.1	-	-	-	-	上部。
8	陶器壺上	灰陶器 刀子	-	1.1	0.5	-	-	-	-	削り分?
9	陶器壺上	灰陶器 不明	(11.3)	3.2	1.3	-	-	-	-	上部-先端欠損。
10	陶器壺上	瓦、軒平瓦	16.25	2.4	0.6	白・黑色。	真顔	灰・淡青色	表面有目。中間に平手。内面有目。外側輪郭アリ。	2/3残存。 削りこみあり。
H-4										
番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅さ(cm)	厚さ(cm)	胎土	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
5	陶器壺上	灰陶器 不明	(2.0)	(1.1)	0.8	-	-	-	-	一部欠損。
6	陶器壺上	灰陶器 不明	(6.9)	0.9	0.8	-	-	-	-	先端欠損。
7	陶器壺上	灰陶器 不明	(2.8)	1.6	1.1	-	-	-	-	上部。
8	陶器壺上	灰陶器 刀子	-	1.1	0.5	-	-	-	-	削り分?
9	陶器壺上	灰陶器 不明	(11.3)	3.2	1.3	-	-	-	-	上部-先端欠損。
10	陶器壺上	瓦、軒平瓦	16.25	2.4	0.6	白・黑色。	真顔	灰・淡青色	表面有目。中間に平手。内面有目。外側輪郭アリ。	2/3残存。 削りこみあり。
H-5										
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	陶器壺上	瓦、瓦片	-	-	-	白・黑色。	真顔	褐色	凸面ハラタズリから表面有目ナガリアリ。一部有目残る。	剥離。穴打あり。
2	陶器壺上	瓦、瓦片	-	-	-	白・黑色。	真顔	褐色	凸面輪郭アリ。表面有目ナガリアリ。一部有目残る。	剥離。
H-6										
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	陶器壺上	丁字器 小型器	8.3	2.8	4.6	白・黑色。	真好	オリーブ色	内面ヨコリニアリ。	2/3残存。
H-7										
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	カマド	土器質 壺	12.3	4.9	3.8	白・黑色。	真顔	褐色リップ。	内面1周輪郭線アリ。底面にあり色が濃い。	1/3生存。
2	カマド	土器質 壺	11.7	4.5	3.9	白・黑色。	真好	オリーブ色	内面1周輪郭線アリ。	2/3残存。
3	カマド	土器質 壺	11.6	-	(4.6)	白・黑色。	真好	淡青褐色	内面1周輪郭線アリ。内面黒色化處理。	1/3生存-先端。
4	カマド	土器質 壺	11.3	4.0	3.3	白・黑色。	真好	褐色	内面1周輪郭線アリ。底面にあり色が明るい。	1/3生存。
5	カマド	土器質 壺	14.0	5.4	4.5	白・黑色。	真好	褐色	内面1周輪郭線アリ。底面にあり色が明るい。	1/3生存。
6	カマド	土器質 壺	12.7	5.5	5.0	白・黑色。	真好	褐色	内面1周輪郭線アリ。底面に不明瞭な有目ナガリアリ。	1/3生存-先端。
7	陶器壺上	土器質 壺	12.6	5.1	5.1	白・黑色。	真好	褐色	内面1周輪郭線アリ。底面に不明瞭な有目ナガリアリ。	1/3生存。
8	カマド	土器質 壺	12.3	5.7	5.2	白・黑色。	真好	褐色	内面1周輪郭線アリ。	2/3生存。
9	陶器壺上	土器質 壺	12.2	5.5	5.2	白・黑色。	真好	褐色	内面1周輪郭線アリ。	1/3生存-先端。
10	カマド	土器質 壺	16.5	2.9	6.6	白・黑色。	真好	褐色	内面1周輪郭線アリ。	1/3生存。
11	カマド	土器質 壺	13.2	7.5	5.4	白・黑色。	真好	褐色	内面1周輪郭線アリ。	1/3生存。
12	カマド	土器質 壺	(13.6)	6.3	5.2	白・黑色。	真好	褐色	内面1周輪郭線アリ。	1/3生存。
13	カマド	土器質 壺	13.6	6.2	5.7	白・黑色。	真好	褐色	内面1周輪郭線アリ。	2/3生存。
14	カマド	土器質 壺	13.4	6.7	5.3	白・黑色。	真好	褐色	内面1周輪郭線アリ。	完形。
15	カマド上	土器質 壺	13.3	6.7	5.3	白・黑色。	真好	褐色	内面1周輪郭線アリ。	1/3生存。
16	陶器壺上	土器質 壺	18.6	6.4	28.1	白・黑色。	真好	褐色	内面1周輪郭線アリ。	内・外皆黒。
17	カマド	土器質 壺	18.8	7.3	24.4	白・黑色。	真好	褐色	内面1周輪郭線アリ。	1/3生存-先端。
18	カマド	土器質 壺	-	-	-	白・黑色。	真好	褐色	内面1周輪郭線アリ。	1/3生存-先端。
19	カマド	瓦、丸瓦	36.5	(27.1)	(13.6)	白・黑色。	真好	褐色	内面輪郭線ナガリアリ。	削り欠。
20	カマド	瓦、平瓦	-	-	-	白・黑色。	真好	褐色	内面輪郭線ナガリアリ。	1/3生存。
H-8										
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	陶土	土器器 壺	(6.7)	-	(2.9)	白・黑色。	真好	褐色	内面1周輪郭線アリ。	保存中-底面。



番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	土色	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	備考状況、調査
2	床面土上	土製品 瓦棒	5.0	2.1	0.5	白・黒色糊結	焼成	土褐色	18.6	上層灰陶。
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土色	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	備考状況、調査
3	床面土上	瓦 平瓦	-	-	-	白・黑色糊結	小口	黒色	凸面部ナメ、底部ナメ。	約2.3cm厚。
4	床面土上	瓦 平瓦	-	-	-	白・黑色糊結	蓋縁	灰黑色	凸面部ナメ(リム)と底面(リム)に糊結。	約1.4cm厚。
5	床面土上	瓦 平瓦	-	-	-	白・黑色糊結	蓋縁	灰黑色	凸面部ナメ(リム)と底面(リム)に糊結。	約1.4cm厚。
6	床面土上	瓦 平瓦	-	-	-	白・黑色糊結	蓋縁	灰黑色	凸面部ナメ(リム)と底面(リム)に糊結。	約1.4cm厚。

H-9

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土色	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴		備考状況、調査
									基物	成・整形	
1	床面土上	土製品 瓦棒	17.5	6.6	3.6	白・黑色糊結	焼成	灰褐色	内面部とも糊結ナメ。底面に糊結り。	2.4cm厚。	
2	床面土上	土製品 瓦棒	14.8	7.0	3.4	白・黑色糊結	焼成	灰黑色	内面部とも糊結ナメ。底面に糊結り。	2.5cm厚。	
3	床面土上	土製品 瓦棒	15.0	6.6	3.6	白・黑色糊結	焼成	灰褐色	内面部とも糊結ナメ。底面に糊結り。	1.9cm厚。	
4	床面土上	土製品 瓦棒	12.0	4.0	2.6	白・黑色糊結	焼成	灰褐色	内面部とも糊結ナメ。底面に糊結り。	1.9cm厚。	
5	床面土上	土製品 瓦棒	12.4	5.8	3.6	白・黑色糊結	焼成	灰白色	内面部とも糊結ナメ。底面に糊結り。	1.9cm厚。	
番号	出土位置	種別、器種	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	土色	焼成	基物	成・整形	備考状況、調査
6	床面土上	瓦製品 瓦	7.2	3.1	1.5	-	-	-	36.0	完形。	
7	床面土上	瓦製品 瓦	14.0	10.0	9.0	-	-	-	3.7	上層灰陶。	
番号	出土位置	種別、器種	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	土色	焼成	基物、成・整形、文様等の特徴	備考状況、調査	
8	獨立	瓦製品 瓦石	8.5	4.8	3.5	糊結有	-	-	150.1	傾斜位置で個體を他の瓦は、糊結によると想われる。保有者。	一層灰陶。
9	床面土上	瓦製品 瓦石	15.5	2.7	2.3	糊結有	-	-	116.4	糊結有。	一層灰陶。
10	獨立	瓦製品 瓦石	10.4	3.8	2.0	糊結有	-	-	125.7	(欠損部以外)全周使用。	一層灰陶。

H-10

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土色	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴		備考状況、調査
									基物	成・整形	
1	床面土上	瓦製品 瓦	13.4	6.4	4.5	白・黑色糊結	糊結	灰白色	内面部とも糊結ナメ。	2.5cm厚。	
2	床面土上	瓦製品 瓦棒	13.1	6.6	5.0	白・黑色糊結	糊結	灰黑色	内面部とも糊結ナメ。	完形。	
番号	出土位置	種別、器種	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	土色	焼成	基物、成・整形、文様等の特徴	備考状況、調査	
3	獨立	瓦製品 不明	13.0	7.0	11.0	-	-	-	14.0	火。	
番号	出土位置	種別、器種	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	土色	焼成	基物、成・整形、文様等の特徴	備考状況、調査	
4	獨立	瓦製品 瓦	4.2	4.5	0.8	黑色糊結	-	-	29.1	ほぼ完形。	
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	孔径(cm)	土色	焼成	基物、成・整形、文様等の特徴	備考状況、調査	
5	床面土上	不明	-	-	-	白・黑・綠色糊	糊結	灰・黃・綠色糊	特殊。最外層部分が他の遺物、而ももつているように見え見え。少しの小穴が開いた状態をうけた可燃性も。	糊片。	

H-11

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土色	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴		備考状況、調査	
									基物	成・整形		
1	床面土上	瓦製品 瓦	13.0	-	12.0	白・黑色糊結	糊結	灰白色	内面部とも糊結ナメ。	2.5cm厚。		
2	対向穴	瓦製品 瓦棒	12.0	7.2	2.5	白・黑色糊結	糊結	黒色	内面部とも糊結ナメ。	2.5cm厚。		
3	対向穴	瓦製品 瓦棒	13.0	6.4	3.2	白・黑色糊結	糊結	灰白色	内面部とも糊結ナメ。	1.9cm厚。		
4	床面土上	土製品 瓦棒	-	-	14.0	白・黑色糊結	糊結	灰褐色	内面部とも糊結ナメ。	1.5cm厚。		
5	床面土上	土製品 瓦棒	-	-	7.3	黑色糊結	糊結	灰褐色	内面部とも糊結ナメ。	1.0cm厚。底灰。		
6	床面土上	土製品 瓦棒	17.0	9.0	9.5	6.5	白・黑色糊結	糊結	灰褐色	内面部とも糊結ナメ。	2.5cm厚。	
7	対向穴	土製品 瓦棒	14.1	6.1	11.5	3.6	白・黑色糊結	糊結	灰褐色	内面部とも糊結ナメ。	3.5cm厚。	
番号	出土位置	種別、器種	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	土色	焼成	基物、成・整形、文様等の特徴	備考状況、調査		
8	獨立	瓦製品 瓦	5.0	3.2	1.9	1.7	-	-	15.4	ほぼ完形。		
番号	出土位置	種別、器種	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	土色	焼成	基物、成・整形、文様等の特徴	備考状況、調査		
9	床面土上	瓦製品 瓦	8.1	0.8	0.7	-	-	-	7.1	完形。		
10	獨立	瓦製品 瓦	4.0	0.5	0.2	-	-	-	2.0	下層灰陶。		
11	獨立	瓦製品 瓦	4.4	0.9	0.5	-	-	-	3.0	上層・先端部灰陶。		

H-12

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土色	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴		備考状況、調査
									基物	成・整形	
12	獨立	土製品 瓦棒	13.0	-	12.0	白・黑色糊結	糊結	灰白色	内面部とも糊結ナメ。	2.5cm厚。	
番号	出土位置	種別、器種	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	土色	焼成	基物、成・整形、文様等の特徴	備考状況、調査	
13	床面土上	瓦 平瓦	36.0	20.9	13.3	白・黒・綠色糊	糊結	灰褐色	凸面部ナメ、底部ナメ。	ほぼ完形。	
番号	出土位置	種別、器種	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	土色	焼成	基物、成・整形、文様等の特徴	備考状況、調査	
14	床面土上	瓦 平瓦	39.7	-	12.7	白・黑色糊結	糊結	灰褐色	凸面部ナメ、底部ナメ。	3.5cm厚。	
15	対向穴	瓦 平瓦	39.4	(27.2)	20.5	2.5	白・黑色糊結	5.0 -10mm(大・小)糊	凸面部ナメ(リム)と底面(リム)に糊結。	対向穴灰陶。	
16	対向穴	瓦 平瓦	-	-	-	白・黑色糊結	糊結	灰褐色	凸面部ナメ(リム)と底面(リム)に糊結。	対向穴灰陶。	



番号	出土位置	種別、器種	全長(cm)	高さ(cm)	径深幅(cm)	地質	構成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考		
17	新闡丸	灰、丸瓦	41.8	23.3	11.5	白色系、チャコール 10mmの小孔	直縫	灰白色	凸面側にテクスチャはなし。凹面側有孔。 内面にハラ書きによる文字「巻」および空押し文字「巻」。	空孔。		
H-13												
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地質	構成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考		
1	新闡丸上	土師器 磁	(21.6)	17.9	2.4	白・黒色系、 チャコール	直縫	黄褐色	内面側にアリゲーター、底面側に凹面側ハラテクス。	2/3程度。		
2	新闡丸上	土師器 磁	11.8	8.6	3.2	砂利、黒墨面	直縫	褐灰色	内面側底部ガラナ、底面側ハラテクス。	1/2程度。		
3	新闡丸上	土師器 磁	11.8	8.6	4.2	白・黒色系、 黒墨面	直縫	にい・褐色	内面側底部ガラナ、底面側ハラテクス。	1/2程度。		
4	新闡丸上	土師器 磁	13.4	8.6	3.6	砂利、小窓	直縫	褐灰色	内面側底部ガラナ、底面側ハラテクス。	3/3程度。		
5	新闡丸上	土師器 磁	(13.8)	8.6	3.2	白・黒色系、 黒墨面	直縫	褐灰色	内面側底部ガラナ、底面側ハラテクス。	2/3程度、局部劣化。		
6	新闡丸上	土師器 磁	(14.3)	—	—	砂利、黒墨面	直縫	褐灰色	内面側底部アリゲーター無し。	1/3程度。		
7	丸生	土師器 磁	(12.9)	9.6	4.1	砂利、黒墨面、 小窓	直縫	にい・褐色	内面側底部ガラナ、底面側ハラテクス。	1/3程度。		
8	丸生	土師器 磁	12.6	—	3.9	白・黒色系、 黒墨面	直縫	小軸質	内面側底部ガラナ、底面側ハラテクス。	3/3程度。		
9	新闡丸上	土師器 磁	(16.1)	—	4.9	白・黒色系、 黒墨面	直縫	褐灰色	内面側底部アリゲーター無し。	2/3程度。		
10	新闡丸上	土師器 磁	(15.7)	—	4.3	白・黒・褐色系、 黒墨面	直縫	褐色	内面側底部ガラナ、底面側ハラテクス。	1/3程度。		
11	新闡丸上	土師器 磁	(17.6)	8.6	4.0	白・黒色系、 黒墨面	直縫	褐灰色	内面側底部ガラナ、底面側ハラテクス。	2/3程度。		
12	新闡丸上	土師器 磁	(18.8)	8.6	4.2	砂利、黒墨面	直縫	にい・褐色	内面側底部ガラナ、底面側ハラテクス。	5/5程度。		
13	新闡丸上	土師器 磁	(18.6)	8.6	4.1	砂利、黒墨面	直縫	褐灰色	内面側底部ガラナ、底面側ハラテクス。	1/2程度。		
14	新闡丸上	土師器 磁	18.9	—	—	白・黒・褐色系、 「巻」	直縫	褐灰色	内面側底部ガラナ、底面側ハラテクス。	2/3程度、外唇部冠彎。		
15	丸生	土師器 磁	(22.1)	—	(9.2)	砂利、黒墨面	直縫	褐灰色	内面側底部ガラナ、底面側ハラテクス。	1/3弱・脚上部丸角。		
H-14												
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地質	構成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考		
1	新闡丸上	土師器 磁	14.0	9.6	3.6	白・黒・褐色系、 チャコール	直縫	灰白色	内面側にも凹面側アリ。	1/2程度。		
2	新闡丸上	土師器 磁	12.8	7.7	3.1	白・黒・褐色系、 チャコール	直縫	褐灰色	内面側ともに凹面側アリ、底面に赤堀り。	5/5程度。		
3	丸生	土師質 磁	12.0	9.1	4.2	白・黒・褐色系、 黒墨面	直縫	灰白色	内面側ともに凹面側アリ、底面に赤堀り。	2/3程度。		
4	新闡丸上	土師質 磁	(19.0)	—	(11.9)	白・黒色系、 黒墨面	直縫	灰白色	内面側ともに凹面側アリ。	1/3弱・脚上部丸角。		
5	丸生	土師質 磁	(18.6)	—	(13.4)	白・黒色系、 黒墨面	直縫	灰褐色	内面側ともに凹面側アリ。	1/3弱・脚上部丸角。		
6	新闡丸上	土師質 磁	(17.8)	—	(14.2)	白・黒・褐色系、 黒墨面	直縫	灰白色	内面側底部アリ。	1/3弱・脚上部丸角。		
番号												
番号	出土位置	種別、器種	全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	地質	孔径(cm)	構成	色調	重さ(g)	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
7	新闡丸上	石製品 磁	(11.6)	0.7	0.6	—	—	—	—	34.9	通透・先端丸角。	保存・先端丸角。
番号											保存状況、備考	
番号	出土位置	種別、器種	全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	地質	孔径(cm)	構成	色調	重さ(g)	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
8	新闡丸上	石製品 磁	(8.0)	4.3	3.4	砾岩	—	—	—	146.0	上面欠損、空洞有り。	上面欠損、空洞有り。
番号											保存状況、備考	
番号	出土位置	種別、器種	全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	地質	構成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考		
9	丸生	灰、丸瓦	(21.2)	—	—	白・黒色系、 黒墨面	直縫	灰白色	内面側有孔、外唇部冠彎、底面カスリ。	1/4程度。		
10	新闡丸上	灰、平瓦	—	—	—	白・黒・褐色系、 黒墨面	直縫	灰白色	内面側有孔、外唇部冠彎。	通透。		
H-16											保存状況、備考	
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地質	構成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考		
1	丸生	土師質 磁	(13.0)	7.4	3.7	白・黒色系、 黒墨面	直縫	灰白色	内面側ともに凹面側アリ。	2/3程度。		
2	新闡丸上	土師質 磁	(21.3)	7.2	20.9	白・黒色系、 黒墨面	直縫	にい・褐色系、 黒墨面	内面側底部アリ。	1/3程度。		
番号											保存状況、備考	
番号	出土位置	種別、器種	全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	地質	構成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考		
3	新闡丸上	灰、丸瓦	—	—	—	白・黒・褐色系、 黒墨面	直縫	灰白色	内面側有孔アリ。	内面側有孔アリ。		
H-17											保存状況、備考	
番号	出土位置	種別、器種	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	地質	構成	色調	重さ(g)	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
1	新闡丸上	石製品 磁	8.2	3.9	2.9	砾岩	—	—	34.8	上面欠損。	上面欠損。	
番号											保存状況、備考	
番号	出土位置	種別、器種	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	地質	構成	色調	重さ(g)	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
2	新闡丸上	石製品 磁	4.8	1.6	0.8	砾岩	—	—	61.5	上面欠損。	上面欠損。	
H-18											保存状況、備考	
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地質	構成	色調	重さ(g)	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
1	新闡丸上	陶陶器 磁	(16.0)	—	4.0	白・黒色系、 チャコール	普通	灰白色	内面側ともに凹面側アリ。	1/3弱・全体丸角。		
2	新闡丸上	陶陶器 磁	—	7.4	(4.2)	白・黒色系、 チャコール	普通	灰白色	内面側底部アリ。	表面・底面丸角。		
番号											保存状況、備考	
番号	出土位置	種別、器種 <th>全長(cm)</th> <th>底径(cm)</th> <th>高さ(cm)</th> <th>地質</th> <th>構成</th> <th>色調</th> <td>重さ(g)</td> <th>基物、成・整形、文様等の特徴</th> <td>保存状況、備考</td>	全長(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地質	構成	色調	重さ(g)	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
3	新闡丸上	陶陶器 磁	(14.4)	6.4	4.7	白・黒色系、 チャコール	陶化層	にい・褐色系	内面側底部アリ。	1/3弱丸角。		
4	新闃丸上	陶陶器 磁	(12.3)	6.3	4.9	白・黒・褐色系、 チャコール	陶化層	にい・褐色系	内面側底部アリ。	2/3弱丸角。		
5	新闢丸上	陶陶器 磁	(12.1)	6.3	4.9	白・黒・褐色系、 チャコール	陶化層	にい・褐色系	内面側底部アリ。	2/3弱丸角。		
6	新闢丸上	陶陶器 磁	(21.2)	—	(18.6)	白・黒・褐色系、 チャコール	陶化層	にい・褐色系	内面側底部アリ。	1/3弱・脚上部丸角。		
番号											保存状況、備考	
番号	出土位置	種別、器種 <th>全長(cm)</th> <th>底径(cm)</th> <th>高さ(cm)</th> <th>地質</th> <th>構成</th> <th>色調</th> <td>重さ(g)</td> <th>基物、成・整形、文様等の特徴</th> <td>保存状況、備考</td>	全長(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地質	構成	色調	重さ(g)	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
7	丸生	灰、丸瓦	—	—	—	砂利、小窓	直縫	褐灰色	内面側アリ。	無。		



番号	出土位置	様式、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	形状	構成	色調	器物、成・整形、文様等の特徴	現存状況、備考		
8	米田原上	灰、平底	40.6	30.4	—	白、黒、褐色系、魚目、黄褐色	黄褐色	黄褐色	凸面ナメ。凹面ナメ。面部にへり書き文字「半國」か。 底部に削り、焼けにによって色調が異なる。後述の「二次焼成」。	少し残存。		
H-19												
番号	出土位置	様式、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	形状	構成	色調	器物、成・整形、文様等の特徴	現存状況、備考		
1	米田原上	灰釉器 壺	—	6.4	(2.5)	白陶器多量、 白、黒、褐色系、魚目	黑褐色	灰白色	内側にもリコリナメ。表面糊紙貼り後は青白(重ね焼)。	丁度一度焼成段階。		
2	米田原上	土師質 壺	—	—	—	白、黒、褐色系、魚目、 黒通身	黑褐色	黑褐色	表面糊紙貼り後は青白。	丁度一度焼成段階。		
3	覆土	土師質 壺	17.0	—	(6.2)	白、黒、褐色系、 黒通身	黑褐色	白、灰褐色	内側にもリコリナメ。	1回焼一回焼成段階。		
H-20												
番号	出土位置	様式、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	形状	構成	色調	器物、成・整形、文様等の特徴	現存状況、備考		
1	米田原上	土師器 壺	(14.0)	—	(4.0)	砂質、灰通身	灰好	褐色	外側糊紙貼り後は灰白色。 内側糊紙コロナメ。	1回一度部分焼成。		
H-21												
番号	出土位置	様式、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	形状	構成	色調	器物、成・整形、文様等の特徴	現存状況、備考		
1	米田原上	土師器 壺	—	—	—	砂質、灰通身	灰好	褐色	外側糊紙貼り後は灰白色。 内側糊紙コロナメ。	1回一度部分焼成。		
H-22												
番号	出土位置	様式、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	形状	構成	色調	器物、成・整形、文様等の特徴	現存状況、備考		
1	覆土	漆器器 直	—	—	(4.6)	白、黒通身、 チャーチ	普通	灰白色	内側にもリコリナメ。表面糊紙貼り後は灰白色。	丁度一度焼成段階。		
2	カツラ	土師器 壺	20.6	4.1	27.1	白、黒、褐色系、 魚目	黑褐色	褐色	内側糊紙タッカメ。底にリコリナメ後は黒。	丁度一度焼成一度火照。		
H-23												
番号	出土位置	様式、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	形状	構成	色調	器物、成・整形、文様等の特徴	現存状況、備考		
1	米田原上	灰、灰	—	—	—	白、黒、褐色系、 魚目	黑褐色	灰白色	凸面ナメ。凹面ナメ。	1回一度焼成。		
2	カツラ	灰、灰	—	—	—	白、黒、褐色系、 魚目	黑褐色	灰白色	凸面ナメ。底面にタッカメ後糊紙脱り。内側糊紙。	1回一度焼成。		
3	覆土	灰、灰	—	—	—	白、黒、褐色系、 魚目	黑褐色	灰白色	凸面ナメ。内側糊紙有り。「()」内ハラカ号しきもの丸印。	1回一度焼成。		
4	米田原上	灰、平底	38.4	26.7	16.9	灰通身、小縫	灰好	灰白色	内側糊紙有り。内側糊紙有り。内側糊紙有り。	1回一度焼成。		
H-24												
番号	出土位置	様式、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	形状	構成	色調	器物、成・整形、文様等の特徴	現存状況、備考		
1	米田原上	漆器器 直	(14.2)	(10.4)	2.8	白、黒通身、 小縫	漆器	灰白色	内側にもリコリナメ。	2/3残存。		
H-25												
番号	出土位置	様式、基準	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	形状	構成	色調	重さ(g)	器物、成・整形、文様等の特徴	現存状況、備考	
2	覆土	石製品 二重筒	13.9	4.4	2.7	縦断面直	石質	—	—	294.7	完存。	
3	覆土	石製品 瓢	13.8	4.4	3.15	縦断面直	石質	—	—	356.6	完存。	
H-26												
番号	出土位置	様式、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	形状	構成	色調	器物、成・整形、文様等の特徴	現存状況、備考		
1	米田原上	漆器器 直	13.8	7.4	4.7	白、黒通身、 チャーチ	漆器	灰白色	内側にもリコリナメ。内側に糊紙接着。	2/3残存。		
2	米田原上	灰釉器 壺	—	7.3	2.3	白、黒通身、 チャーチ	黑褐色	灰白色	内側にもリコリナメ。糊紙下に灰白色が見られる。内側糊紙脱り。丁度一度焼成段階。	1回一度焼成。		
3	米田原上	漆器器 灰陶瓶	12.9	6.4	5.1	白、黒通身、 チャーチ	中や軽	灰白色	内側糊紙脱り。丁度一度火照したと思われる四みぞ有り。	3/4残存。		
4	米田原上	土師質 壺	—	7.3	4.5	白、黒、褐色系、 魚目	黑褐色	白、灰褐色	内焉高井山の鉢底有り。内焉高井山の鉢底有り。	1/2残存。		
5	米田原上	土師質 壺	(13.6)	(7.6)	(3.6)	白、灰、 白通身、 小縫	中や軽	白、灰褐色	内側にもリコリナメ。底に糊紙脱り。	1/2残存。		
6	米田原上	土師質 壺	(12.8)	—	(11.3)	白、灰、 白通身、 小縫	白、灰	白、灰褐色	内側糊紙脱りワタリ。底にタッカメ。	1回一度焼成段階。		
7	米田原上	土師質 直口	18.0	—	(11.2)	白、灰、 白通身、 小縫	白、灰	白、灰褐色	内焉糊紙脱りワタリ。 内焉糊紙脱り。	1回一度焼成段階。		
H-27												
番号	出土位置	様式、基準	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	形状	構成	色調	器物、成・整形、文様等の特徴	現存状況、備考		
8	米田原上	灰、灰	43.0	—	—	白、黒、 チャーチ	漆器	黄褐色	凸面ナメおよびタッカメ。西面糊紙。	2/3残存。		
9	米田原上	灰、灰	—	—	—	白、黒、褐色系、 魚目	黑褐色	灰白色	凸面糊紙脱り。糊紙脱り有り。上部不明。	糊片。		
10	米田原上	灰、平底	32.9	—	—	白、灰通身、 チャーチ	漆器	白、灰褐色	凸面ナメ。内部に糊紙脱り。糊紙脱り。	2/3残存。		
H-28												
番号	出土位置	様式、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	形状	構成	色調	重さ(g)	器物、成・整形、文様等の特徴	現存状況、備考	
1	米田原上	土師質 壺	(15.1)	7.3	6.1	白、黒、褐色系、 魚目	黑褐色	白、灰褐色	内側にもリコリナメ。表面糊紙脱り後糊紙脱り。	2/3残存。		
2	米田原上	土師質 壺	8.8	4.9	2.3	白、黒、褐色系、 魚目	黑褐色	白、灰褐色	内側にもリコリナメ。表面糊紙脱り。	完存。		
3	米田原上	土師質 壺	9.2	6.0	2.1	白、黒、褐色系、 魚目	黑褐色	深褐色	内側にもリコリナメ。表面糊紙脱り。	完存。		
H-29												
番号	出土位置	様式、基準	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	形状	構成	色調	重さ(g)	器物、成・整形、文様等の特徴	現存状況、備考	
4	米田原上	石製品 瓢	6.8	3.5	3.5	純口直	石質	—	—	142.3	表、裏、内側糊紙脱り。丁度一度火照。	ほぼ完存。
H-30												
番号	出土位置	様式、基準	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	形状	構成	色調	重さ(g)	器物、成・整形、文様等の特徴	現存状況、備考	
5	米田原上	灰、平底	(13.0)	(12.0)	1.9	白、黒、褐色系、 魚目	漆器	黄褐色	凸面糊紙脱りタッカメ。内焉糊紙脱り。	糊片。		
H-31												
番号	出土位置	様式、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	形状	構成	色調	重さ(g)	器物、成・整形、文様等の特徴	現存状況、備考	
1	米田原上	漆器器 直	16.2	7.2	2.9	白、黒、褐色系、 魚目	漆器	白、灰褐色	内側にもリコリナメ。表面糊紙脱り後糊紙脱り。	1/2残存。		
2	覆土	漆器器 直	—	7.3	2.9	白、黒、褐色系、 魚目	漆器	白、灰褐色	内側にもリコリナメ。表面糊紙脱り。	完存。		
3	米田原上	土師器 壺	(12.2)	4.0	(3.0)	白、黒、褐色系、 魚目	黑褐色	白、灰褐色	内側糊紙脱りタッカメ。底に糊紙脱り。	1/4残存。		
4	カツラ	土師器 壺	13.0	4.0	4.1	白、黒、褐色系、 魚目	黑褐色	白、灰褐色	内側糊紙脱りタッカメ。底に糊紙脱り。	ほぼ完存。		
5	カツラ	土師器 壺	11.4	4.0	3.1	白、黒、褐色系、 魚目	黑褐色	白、灰褐色	内側糊紙脱りタッカメ。底に糊紙脱り。	1/4残存。		
6	米田原上	土師器 壺	22.4	—	(10.4)	白、黒、褐色系、 魚目	黑褐色	白、灰褐色	内側糊紙脱りタッカメ。	内側糊紙脱りタッカメ。		



H-27

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	陶土 須恵器 壺	(32.4)	(11.6)	2.9	白・黒色粒 粗面	灰面	灰面	内面部ともに回転コナギ、当面に自然釉付着。	1:3現存。	

T-1

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	陶土 土細器 壺	12.0	7.9	(3.5)	織紋、直身 直肩	灰面	灰面	内面部ともに回転コナギ、底面に自然釉付着。	1:3現存。	

T-3

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	須恵器上 須恵器 壺	-	(27.8)	(2.9)	白・黑色粒 粗面	灰面	灰面	内面部ともに回転コナギ、底面に自然釉付着。	底面・瓶底残存。	
2	須恵器上 須恵器 壺	-	(4.7)	(3.6)	黑色織紋 粗面	灰面	灰面	内面部ともに回転コナギ、底面に自然釉付着。	1:3現存。	

T-4

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	孔径(cm)	造成	色調	重さ(g)	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	須恵器上 須恵器 壺	(36.3)	1.7	1.4	-	-	-	-	21.3	瓶底欠損。	

W-1

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	陶土 瓦	-	-	-	黑・白色粒 粗面	灰面	灰面	ナガおよび端面カスリ。 造瓦の一部と見われるが確認は不明。	瓶底・瓶底欠損。	

番号	出土位置	種別、器種	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	石質	造成	色調	重さ(g)	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
2	陶土 瓦製品 板鏡	(9.0)	(21.1)	13.0	葛原山田村	-	-	-	426.8	瓶底欠損。	
3	陶土 瓦製品 板鏡	(20.5)	(13.0)	8.0	安曇山	-	-	-	2700	瓶底欠損。	はり穴。
4	陶土 瓦製品 板鏡	(20.8)	(7.8)	2.3	葛原山田村	-	-	-	481.0	瓶底欠損。	

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
5	陶土 瓦	瓦カタドリ	-	-	白・黑色粒 粗面	灰面	灰面	瓦上部・明褐色 全体的にナガ。 瓶底部分にシミ有る。	26.0	瓶底欠損。	

W-2

番号	出土位置	種別、器種	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	石質	造成	色調	重さ(g)	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	陶土 瓦製品 板鏡	(32.1)	(9.7)	(2.1)	縁無所有	-	-	-	268.0	瓶底欠損。	

W-3

番号	出土位置	種別、器種	全高(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	陶土 瓦・瓦製 瓦	-	-	-	白・黑色粒 粗面	灰面	灰面	内面部ともにナガ。底面マツラ。	瓶底欠損。	

D-14

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
1	須恵器上 須恵器 壺	16.0	8.1	5.5	粘土質 粗面	-	-	-	24.0	瓶底欠損。	

P-2

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	須恵器上 須恵器 壺	(11.2)	-	(10.0)	白・黑色粒 直身	直肩	平滑面	粗面	外面部回転コナギ。側面マツラ。一部ハメ接合欠け。内面部回転コナギ。瓶底欠損。	1:3現存・瓶底欠損。

道器外

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	須恵器上 須恵器 壺	(39.6)	-	(17.2)	白・黑色粗粒 小継	直身	内面部明褐色 全体的にナガ。	瓶底直上部。内面部に有る微細な凹凸(凹部)。底面マツラ。	1:3現存・瓶底直上部・瓶底マツラ。	

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
2	-	打型 石斧	1.6	1.35	0.4	黑色粗粒	-	-	0.7	内面部多溝。全面加工。	完形。

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
3	-	打型 石斧	(2.0)	1.7	0.55	黑色粗粒	-	-	2.2	凸面部多溝。全面加工。	先端部・基部欠損。

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
4	-	打型 石斧	3.2	3.2	1.0	黑色粗粒	-	-	30.4	子孫が望む所で削り取った後、刃部を磨き上げた。表面に研磨跡を有する。	完形。

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
5	-	打型 石斧	9.1	6.0	4.25	砾石・安曇山	-	-	121.7	直面部・側面部・底面部を削り取った後、刃部を磨き上げた。表面に研磨跡を有する。	完形。

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
6	-	打型 石斧	12.4	4.8	2.1	安曇山	-	-	134.4	斜削面。傾斜した面が複数あり、斜削面と水平面との間に隙間有り。両斜削面下部を斜めに削り取った後、刃部を磨き上げた。表面に研磨跡を有する。	完形。

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
7	-	打型 石斧	17.3	9.3	2.8	黑色粗粒	-	-	302.1	斜削面。傾斜した面が複数あり、斜削面と水平面との間に隙間有り。両斜削面下部を斜めに削り取った後、刃部を磨き上げた。表面に研磨跡を有する。	完形。

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
8	-	打型 石斧	(9.3)	4.7	2.0	砂質	-	-	112.8	斜削面。直面部・側面部・底面部を削り取った後、刃部を磨き上げた。表面に研磨跡を有する。	下部（左端）欠損。

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
9	-	打型 石斧	(9.0)	4.8	2.1	ホルンフェルス	-	-	96.1	斜削面。直面部は欠損しているが、側面部・底面部は削り取った後、刃部を磨き上げた。表面に研磨跡を有する。	下部（右端）欠損。

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
10	-	打型 石斧	(8.2)	4.3	1.95	黑色粗粒	-	-	104.2	斜削面。直面部・側面部・底面部を削り取った後、刃部を磨き上げた。表面に研磨跡を有する。	下部欠損。

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
11	-	打型 石斧	(7.9)	3.9	1.45	黑色粗粒	-	-	55.1	斜削面。直面部・側面部・底面部を削り取った後、刃部を磨き上げた。表面に研磨跡を有する。	下部（右端）欠損。



番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	土質	焼成	色調	重さ(g)	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
12	-	漆製 石斧	8.8	4.0	1.9	粘土質	-	褐色	110.3	表・裏・上面に漆膜を施すが剥離を含む。両側にははげきと崩れがある。裏面は漆膜剥離による凹凸を形成している。	保存。
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土質	焼成	色調		器物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
13	-	灰陶器 甌	10.0	5.0	3.2	白・黒色灰土少泥	普通	灰白色		内部面クロロナイト、表面は白糞。内面は灰化。	1/3程度。
番号	出土位置	種別、器種	全長(cm)	口径(cm)	底径(cm)	土質	焼成	色調		器物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
14	灰 A.灰	石斧	38.2	10.0	14.7	白・黒色灰土少泥	崩壊	褐色		内部ナガ・表面ナガおよび表面凹。	ほぼ完存。
15	-	灰 A.灰	39.25	19.5	12.6	白・黒色灰土少泥	良好	灰褐色		内部面クロロナイト、表面は白糞。	ほぼ完存。
16	-	灰 平底	43.3	-	-	白・黒・褐色灰土少泥、小破	凸・凹・灰褐色	褐色		内部ナガテキシカキ、凹部有孔。	ほぼ完存。
										内部にヘラ書き文字「？」有。	完存。

32区出土遺物観察表

H-1

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土質	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
1	灰土	灰陶器 盆	-	-	-	黄褐色	崩壊	暗灰色		崩壊状況・残存。	

H-2

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土質	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
1	灰土	灰陶器 盆	-	-	(10.2)	白・黒色灰土少泥	崩壊	褐色	内部面ともに剥離ナガ。底部は右斜面か。	崩壊状況・底部。	

H-3

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土質	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
1	灰陶器上	土師器 甌	12.2	-	14.2	白・黒色灰土少泥	崩壊	褐色	内部面クロロナイト。底部は3mm程度のクラック有。内部面剥離ナガ。	1/4程度。	
2	灰陶器上	土師器 甌	13.2	-	14.0	白・黒色灰土少泥	崩壊	褐色	内部面クロロナイト。底部は3mm程度のクラック有。	1/3程度。	
3	灰土	土師器 甌	13.0	-	14.2	白・黒・褐色灰土少泥	崩壊	褐色	内部面クロロナイト。底部は3mm程度のクラック有。内部面剥離ナガ。	1/4程度。	
4	灰陶器上	土師器 甌	11.0	-	3.5	白・黒・褐色灰土少泥	崩壊	褐色	内部面クロロナイト。底部は3mm程度のクラック有。	1/3程度。	
5	灰陶器上	土師器 甌	11.0	-	(3.5)	白・黒色灰土少泥	やや崩壊	褐色	内部面も少し剥離ナガ。	1/3程度。	
6	灰陶器上	土師器 甌	12.0	-	(3.0)	白・褐色灰土少泥	崩壊	褐色	内部面底はクラック有。見られるが壁部はより不明。	1/3程度。	

H-3

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土質	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
7	灰陶器上	土師器 甌	12.3	-	4.1	黑・赤色灰土少泥	崩壊	褐色	内部面クロロナイト。底部は3mm程度のクラック有。内部面剥離ナガ。底部はビリヤ。	3/5程度。	
8	灰陶器上	土師器 甌	11.3	-	3.9	白・赤色灰土少泥	崩壊	褐色	内部面クロロナイト。底部は3mm程度のハラナガ。	2/3程度。	
9	灰陶器上	土師器 小甌	12.0	-	9.2	白・黒色灰土少泥	良好	褐色	内部面クロロナイト。底部は3mm程度のハラナガ。	2/3程度。	
10	灰陶器上	土師器 甌	11.3	-	12.5	黑・褐色灰土少泥	崩壊	褐色	内部面クロロナイト。底部は3mm程度のハラナガ。内部面底はオサク有。	1/3程度・瓶底欠損。	
11	灰陶器上	土師器 甌	16.0	-	(14.0)	白・黄・黒色	良好	浅黃褐色	内部面クロロナイト。底部は3mm程度のハラナガ。	1/3程度・瓶中2/3程度。	

H-4

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土質	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
1	灰陶器上	土師器 甌	17.5	-	(5.5)	黑・褐	崩壊	褐色	内部面クロロナイト。底部はクラック有。	1/3程度・瓶底内凹。	
2	灰陶器上	土師器 甌	10.0	-	(3.0)	白・褐色灰土少泥	崩壊	褐色	内部面クロロナイト。底部は3mm程度のハラナガ。	1/3程度・瓶底内凹。	
3	灰陶器上	土師器 甌	22.0	-	(11.0)	砂質・褐	良好	褐色	内部面クロロナイト。底部は3mm程度のハラナガ。	1/3程度・瓶底内凹。	
4	灰陶器上	土師器 甌	13.2	-	(9.1)	砂質	良好	米白色	内部面クロロナイト。底部は3mm程度のハラナガ。	1/3程度・瓶底内凹。	

H-5

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土質	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
1	灰陶器上	土師器 甌	17.0	-	(3.0)	白・黒色灰土少泥	崩壊	褐色	内部面クロロナイト。底部は3mm程度のクラック有。	1/3程度・瓶底内凹。	

H-6

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土質	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
1	灰土	土師器 甌	13.0	-	(4.0)	白・黒色灰土少泥	良好	褐色	内部面クロロナイト。底部は3mm程度のハラナガ。	1/3程度・瓶底内凹。	
2	灰土	土師器 小型付耳甌	13.0	-	(12.4)	白・黒・褐色灰土少泥・チャコリ	良好	褐色	内部面クロロナイト。底部は3mm程度のハラナガ。	1/3程度・瓶底内凹。	

H-8

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土質	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
1	灰土	灰陶器 甌	12.2	3.9	3.8	白・黒色灰土少泥	普通	灰褐色	内部面クロロナイト。底部は3mm程度のハラナガ。	1/3程度・瓶底内凹。	
2	灰土	灰陶器 甌	12.0	3.9	3.2	白・黒色灰土少泥・チャコリ	普通	灰褐色	内部面クロロナイト。底部は3mm程度のハラナガ。	1/3程度・瓶底内凹。	

H-10

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土質	焼成	色調	基物、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考	
1	灰土	灰陶器 甌	6.0	1.1	2.2	白	崩壊	褐色	内部面クロロナイト。底部は3mm程度のハラナガ。	1/3程度・瓶底内凹。	
2	灰土	灰陶器 甌	6.0	1.1	2.2	白	崩壊	褐色	内部面クロロナイト。底部は3mm程度のハラナガ。	1/3程度・瓶底内凹。	



H-12

番号	出土位置	種別、器種	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	材質	構成	色調	重さ(g)	基物、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	陶土 石製品 基盤	—	—	—	—	粗粒安山岩	—	黒褐色	64.9	—	下部剥片。

T-1

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	材質	構成	色調	重さ(g)	基物、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	陶土 灰陶陶質 壺	—	(7.8)	(2.6)	—	白・黒色細粒	堅頑	灰白色	—	内面凹字を刻む。外側リブナメ、底部リブナメとし斜めスリットナメ。内・外底自然無。	下部一部・底盤1/2弱。
2	陶土 灰陶陶質 壺	—	(7.8)	(2.2)	—	粘土質	堅頑	灰白色	—	内面凹字を刻む。外側リブナメ。	底盤下部・底盤自然。
3	陶土 灰陶質 壺	—	—	(1.6)	—	白色粗	堅頑	灰色	—	内面凹字を刻む。外側リブナメと斜めスリットナメ。内面に施錆跡の発見有り。	—
4	陶土 灰陶陶質 壺	—	(11.5)	—	—	石英・高石	良好	灰白色	—	内面底にも施錆ナメ。底盤に施錆有り。	底盤一部・底盤自然。
5	陶土 灰陶陶質 壺	—	(8.3)	(3.1)	—	石英・高石 小粒	堅頑	灰白色	—	内面テグス状の凹凸有り。内面凹字を刻む。底盤に施錆有り。	底盤一部・底盤自然。
6	陶土 灰陶陶質 壺	(4.2)	—	1.1	1.6	—	—	—	—	—	—
7	陶土 石製品 壺	4.3	—	1.1	—	—	—	—	5.8	—	—

W-2

番号	出土位置	種別、器種	推定径(cm)	厚さ(cm)	材質	構成	色調	重さ(g)	基物、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	陶土 石製品 壺	—	(28.6)	11.0	安山岩	—	—	5200	—	約1/4残存。

I-1

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	材質	構成	色調	重さ(g)	基物、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	陶土 石製品 壺	—	(8.2)	(3.4)	—	石・黒色粗	不規	灰・黒褐色	—	内面凹字を刻む者。底盤のみで。内面施錆、内面施錆により評議不規。	底盤一部・底盤自然。

I-2

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	材質	構成	色調	重さ(g)	基物、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	陶土 石製品 壺	—	(7.8)	(3.4)	—	石・黒色粗	不規	灰・黒褐色	—	内面凹字を刻む者。底盤のみで。内面施錆、内面施錆により評議不規。	底盤一部・底盤自然。

D-12

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	材質	構成	色調	重さ(g)	基物、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	陶土 石質質 壺	7.8	5.5	2.0	—	白・黒色細粒	良好	暗褐色	—	内面底にも施錆ナメ。底盤に施錆有り。	9.10残存。

D-17

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	材質	構成	色調	重さ(g)	基物、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	陶土 石製品 壺	(12.4)	—	(4.1)	—	石・黒・赤色粗	堅頑	灰白色	—	内面底にも施錆ナメ。底盤に施錆ナメ。	2.2残存。

X-1

番号	出土位置	器種名	高さ	年代	材質	外径	穿孔	厚さ	重量	備考		
1	陶土 石経通質	北米	—	1012年	—	—	—	—	24.3mm	6.25mm	1.30mm	3.0g

遺構外

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	材質	構成	色調	重さ(g)	基物、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考	
1	—	石器 石器・器種未定	6.1	6.3	0.9	粗粒安山岩	—	—	50.9	—	表裏に第一回復天風呂を施す。内面に施錆有り。底盤に施錆有り。底盤に施錆有り。	完存。
2	—	石器 石器・器種未定	(10.9)	—	—	—	—	—	—	—	内面底にも施錆ナメ。底盤に施錆有り。	1/4残存。
3	—	石器 石器・器種未定	(10.5)	5.8	4.8	白・黒色粗	良好	明赤褐色	—	内面底にも施錆ナメ。底盤に施錆有り。	3/5残存。	
4	—	石器 石器・器種未定	(12.1)	6.9	5.1	白色粗	良好	明赤褐色	—	内面底にも施錆ナメ。底盤に施錆有り。	2/3残存。	
5	—	石器 石器・器種未定	7.3	5.4	2.3	白・黑色粗	良好	明赤褐色	—	内面底にも施錆ナメ。底盤に施錆有り。	3/3残存。	
6	—	石器 石器・器種未定	13.9	8.3	16.0	白・黑色粗	良好	明赤褐色	—	内面底にも施錆ナメ。底盤に施錆ナメ。	2/2残存。	
7	出土位置	石器 石器・器種未定	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
8	—	石器 石器・器種未定	(26.6)	—	—	粗粒安山岩質	—	—	533.4	—	—	完全残存。



VI まとめ

今回の調査では、縄文時代から古墳・平安・中世に亘る遺構を確認した。ここでは、元總社蒼海遺跡群の從来の時期区分に従い、Ⅰ期（～7世紀前半：律令期以前）、Ⅱ期（7世紀後半～10世紀初頭：律令期）、Ⅲ期（10世紀前半～：律令期以降）の3期に分けて検討し、まとめとしたい。

Ⅰ期（～7世紀前半：律令期以前）

今回の調査において、縄文時代の住居跡はJ-1（諸磯c期）、J-2（加曾利E3期）の2軒を確認した。また、J-2西側では加曾利E4期の埋葬を作う土坑が確認されている（J D-7）。古墳時代では前期の遺構としてH-1、H-5を確認した。縄文から古墳時代前期に亘る住居跡はいずれも31区西側の台地部で検出しており、散発的な検出状況ではあるが、立地に関する一定の傾向を示しているといえよう。古墳時代後期の遺構としては、32区において住居跡が3軒確認されている（H-3・4・6）。

Ⅱ期（7世紀後半～10世紀初頭：律令期）

この時期に該当する住居跡は、16軒確認されている（31区H-2・6・8・9・12・13・15・18・21・22・23・26・27、32区H-1・2・5）。出土遺物から判断すると、8～9世紀後半がが主体となり、立地は本遺跡においては偏ることがなく、散発的な検出となっている。住居跡の主軸方向はN-67°～104°-Eで平均値はN-85°-Eであり、竈は東壁やや南寄りに構築され、構築材として瓦の使用が認められる。

Ⅲ期（10世紀前半～：律令期以降）

この時期に該当する住居跡は、16軒確認されており、10～11世紀代の11軒と中世の5軒に区分できる。平安時代の住居跡に関しては、主軸方向はN-83°～112°-Wで平均値はN-96°-Eとなっており、検出した竈はいずれも東壁に構築され、構築材として瓦の使用も確認されている。

また、中世の方形堅穴と考えられる5軒については、いずれも壁柱穴をもつ構造となっており、主軸方向はN-2°-W-N-11°-Eとなっているが、32区H-8・9・10・11の5軒については軸のブレは僅かに5°であり、南北東西に並ぶ遺構の立地、ほぼ同一の規格を考慮に入れると、出土遺物がないために限定的な判断ではあるが、何かしら

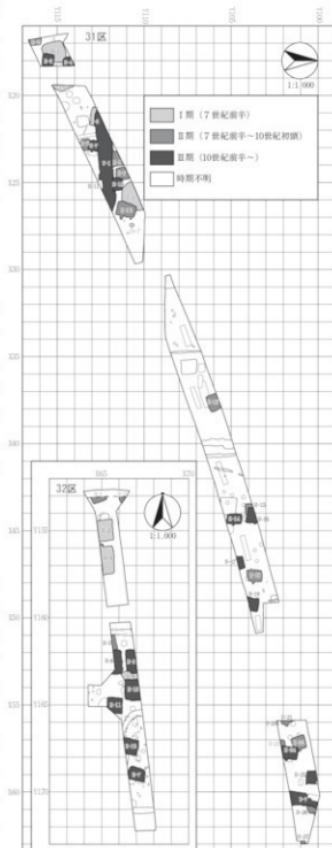


Fig. 7 元總社蒼海遺跡群の堅穴住居跡時期別分布図

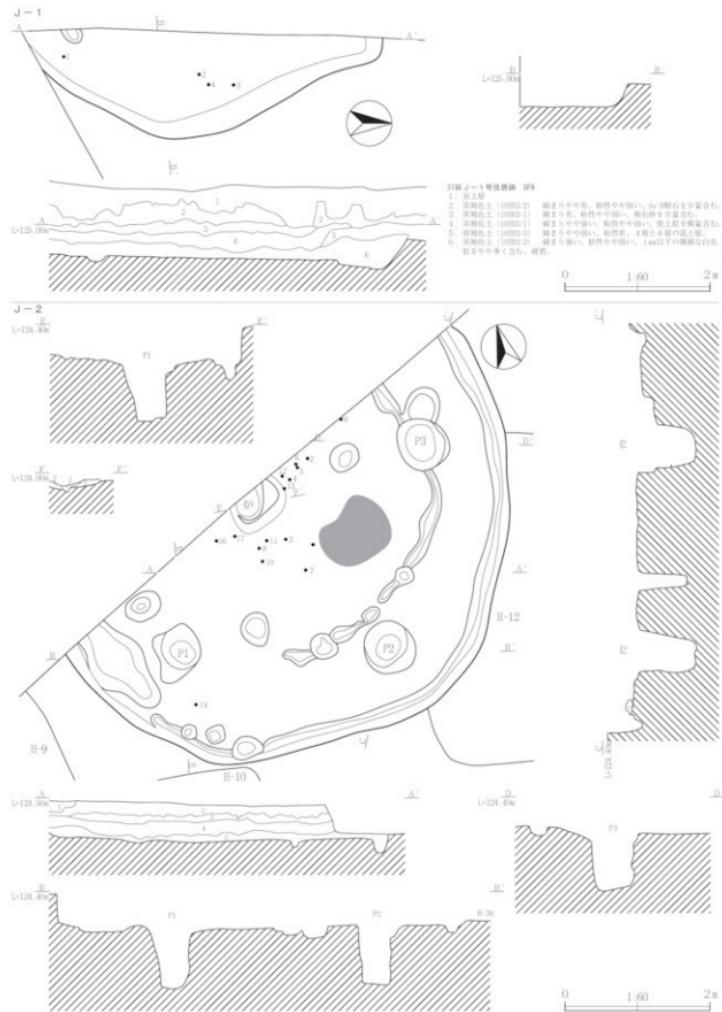


の連続性を窺わせる。

最後ではあるが、元總社蒼海遺跡群の立地する、染谷川と牛池川に挟まれた台地上の土地利用のあり方について、調査の進展に伴う今後の解明を期待し、結びとしたい。

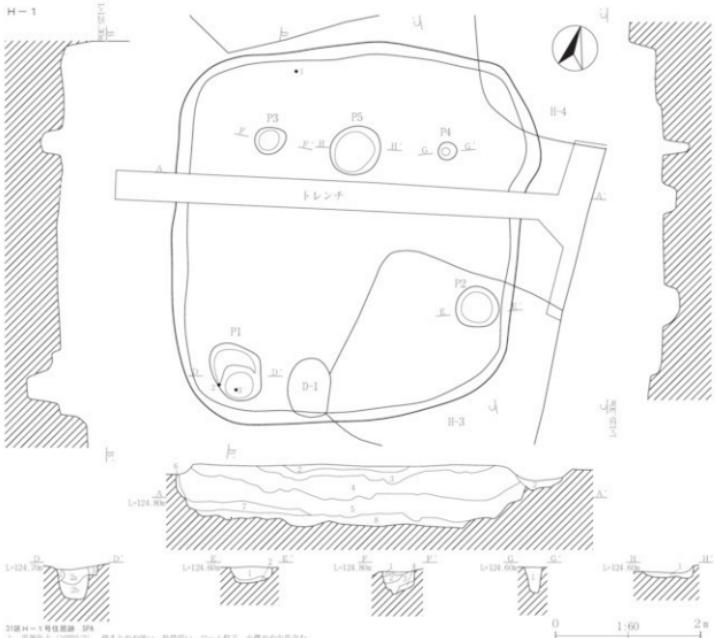
参考文献

- 鈴木雅浩・長谷川一郎・折原洋一・湯原勝美 『元總社小見遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001
- 斎木一敏・長谷川一郎・土生朗治・松川由之 『元總社小見Ⅲ遺跡・元總社草作V』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003
- 斎木一敏・高坂麻子 『元總社蒼海遺跡群 元總社小見内IV遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003
- 近藤雅順・植垣慎太郎 『元總社蒼海遺跡群 元總社小見内VII遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2004
- 近藤雅順・植垣慎太郎 『元總社蒼海遺跡群 元總社小見内VI遺跡・總社甲種荷塚大道西IV遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2004
- 岩崎琢郎・高坂麻子 『元總社蒼海遺跡群 元總社小見内IX遺跡・總社潤泉明神北V遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005
- 近藤雅順・池田史人 『元總社蒼海遺跡群(4)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006
- 高橋亨・高坂麻子 『元總社蒼海遺跡群(5)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006
- 阿久澤真一・神宮聰・清水亮介 『元總社蒼海遺跡群(13)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008
- 近藤雅順・村越純子 『元總社蒼海遺跡群(14)(19)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008
- 梅沢克典・瀬田哲夫 『元總社蒼海遺跡群(15)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008
- 梅沢克典・櫻井和哉・パリノサーヴェイ株式会社 『元總社蒼海遺跡群(16)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008
- 梅沢克典・宇佐美義春 『元總社蒼海遺跡群(18)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008
- 高井佳弘「上野国における一本造り軒丸瓦の導入と展開」『研究紀要』22 (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004



31区 J-2号住居跡 SPA
 1. 黒色粘土 (10B3/2) 帯状りやや薄い、粘性やや弱い。鉄物石を含む。
 2. 黑褐色土 (10B3/3) 帯状りやや薄い、粘性やや弱い。鉄物石を含む。
 3. 黑褐色土 (10B3/4) 帯状りやや薄い、粘性やや弱い。鉄物石を含む。
 4. 黑褐色土 (10B3/5) 帯状りやや薄い、粘性やや弱い。鉄物石を含む。
 5. 黑褐色土 (10B3/6) 帯状りやや薄い、粘性やや弱い。鉄物石を含む。
 6. 黑褐色土 (10B3/7) 帯状りやや薄い、粘性やや弱い。鉄物石を含む。

Fig. 8 31区 J-1・2号住居跡



31区H-1号住居跡 P 1 SPK

1. 黄褐色土 (10B5/4-5) 破片を含む。粘性弱い、ロームブロックを少量含む。
2. 黄褐色土 (10B5/4-5) 破片を含む。粘性弱い、砂質のローム粒をやや多く含む。
3. 黄褐色土 (10B5/4-5) 破片を含む。粘性弱い、ローム粒を含む。

31区H-1号住居跡 P 2 SPK

1. 黄褐色土 (10B5/4-5) 破片を含む。粘性弱い、ローム粒・ロームブロックをやや多く含む。
2. 黄褐色土 (10B5/4-5) 破片を含む。粘性弱い、ローム粒・ロームブロックを多く含む。
3. 黄褐色土 (10B5/4-5) 破片を含む。粘性弱い、ローム粒・ロームブロックを多く含む。
4. にじみ黄褐色土 (10B2/2-3) 破片を含む。粘性弱い、砂質のロームブロックを多く含む。

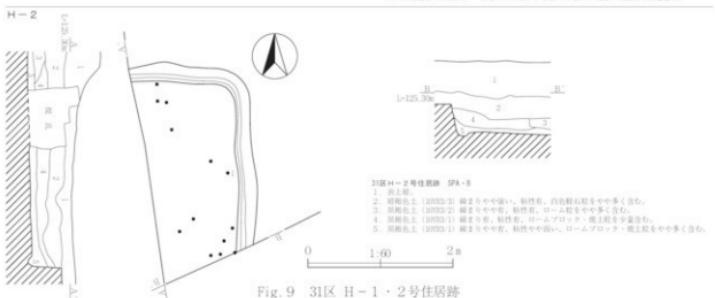


Fig. 9 31区 H-1・2号住居跡

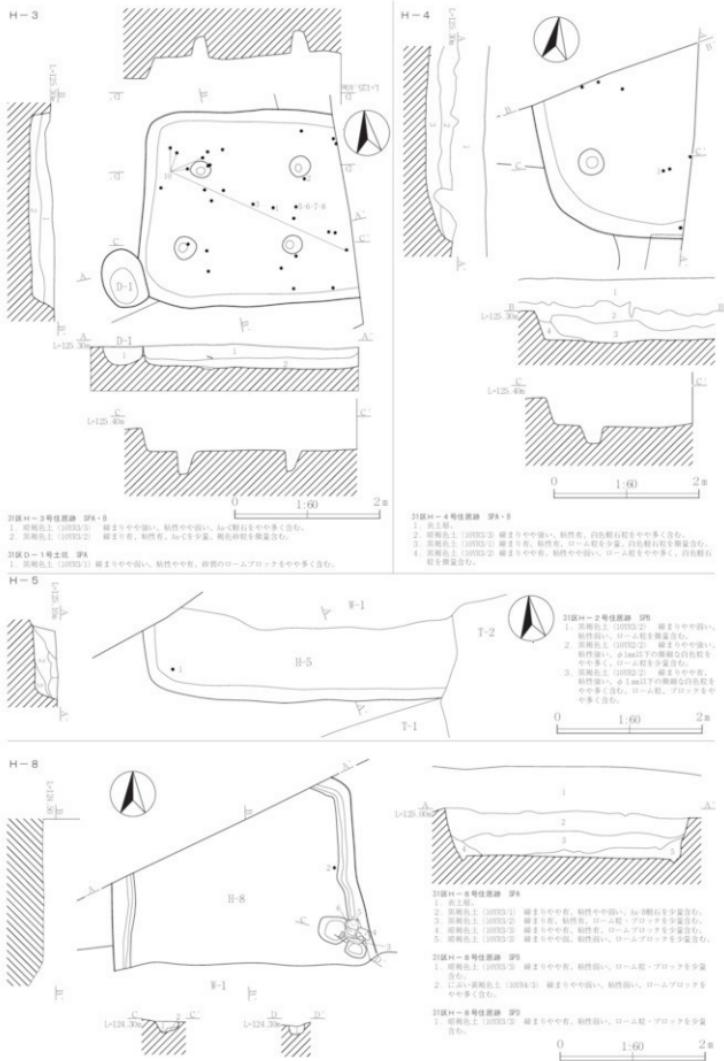


Fig. 10 31区 H-3~5・8号住居跡

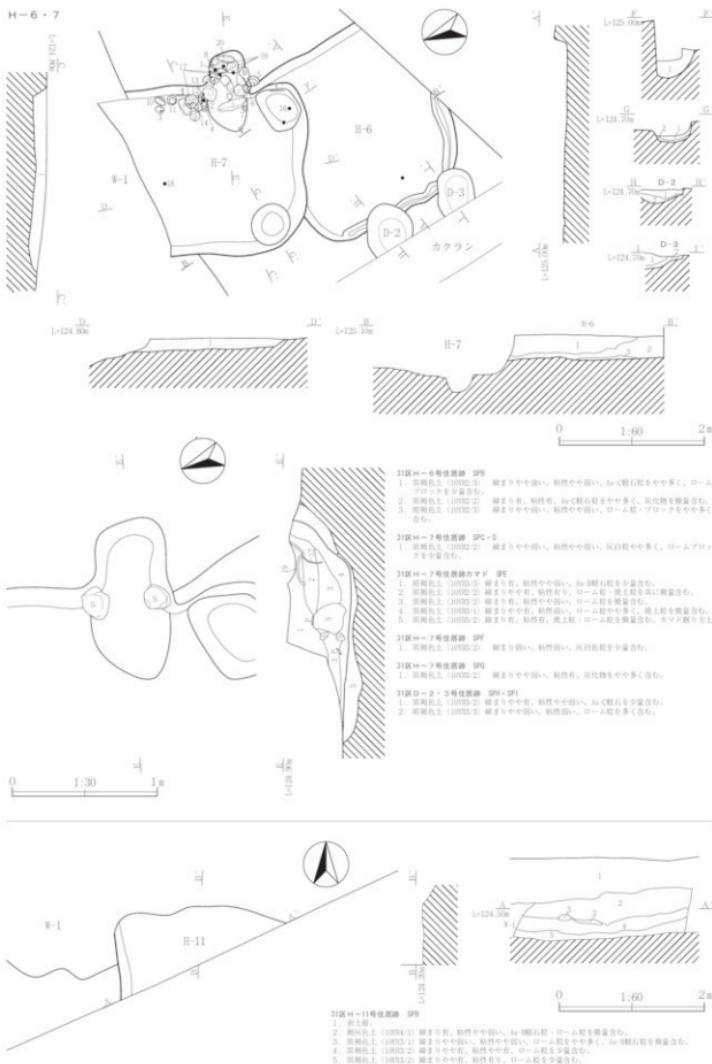


Fig.11 31区 H-6・7・11号住居跡, D-2・3号土壤

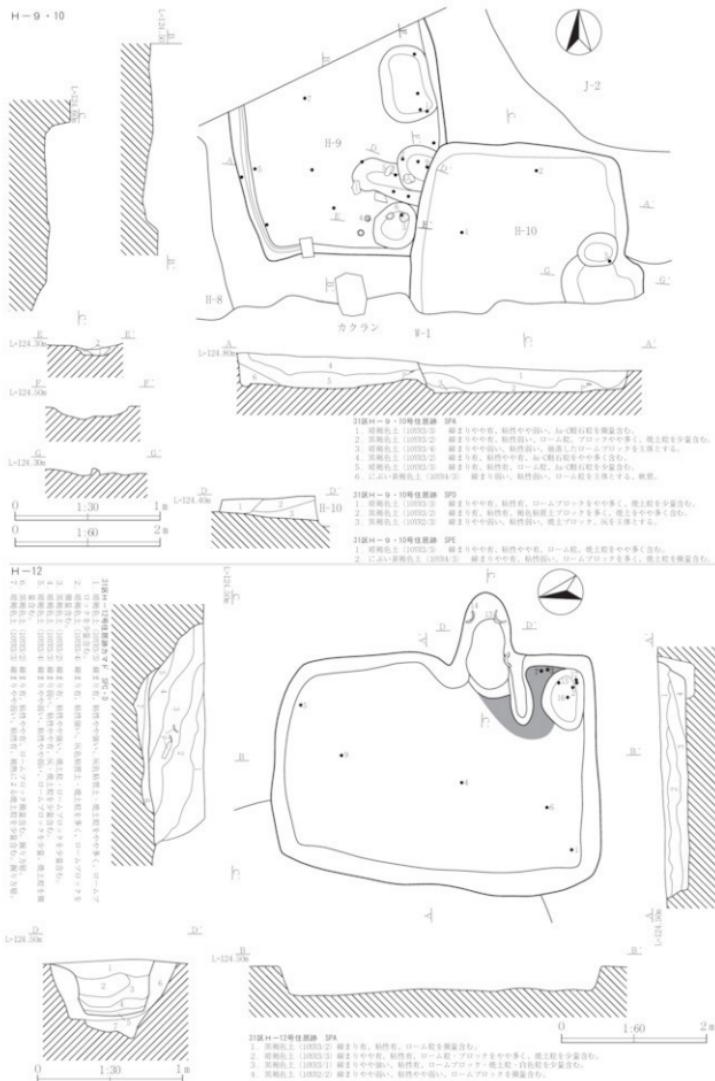
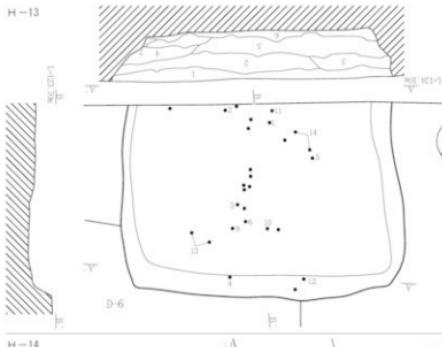


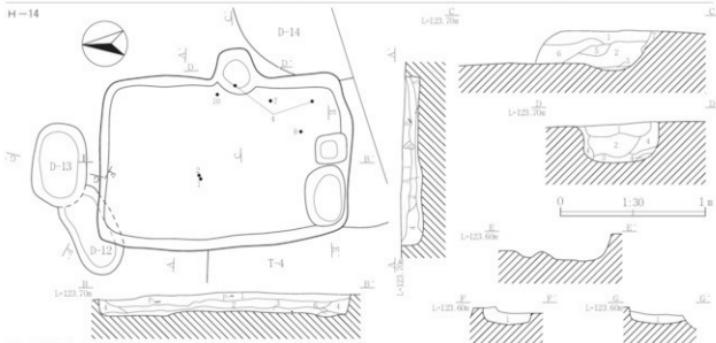
Fig.12 31階 H-9・10・12号住居跡



H-13



H-14



31区 H-14号住居跡 SPK - 9

1. 岩場上. (1052) 1-1 破片あり、粘性土や砂。Av-C(粘石板)少量。壁面プロック10mmを検出。
2. 岩場上. (1052) 1-2 破片あり、粘性土や砂。本底刀を検出。地盤内に瓦片を検出。
3. 岩場上. (1052) 1-3 破片あり、粘性土。Av-C(粘石板)。基礎粘土ブロック5~10mmを少量含む。
4. 岩場上. (1052) 1-4 破片あり、粘性土や砂。Av-C(粘石板)少量含む。基礎粘土上プロック5~10mmを少量含む。
5. 岩場上. (1052) 1-5 破片あり、粘性土や砂。Av-C(粘石板)少量含む。
6. 岩場上. (1052) 1-6 破片あり、粘性土や砂。Av-C(粘石板)少量含む。
7. 岩場上. (1052) 1-7 破片あり、粘性土や砂。基礎粘土上プロック5~10mmを少量含む。

0 1.60 2.8

31区 D-12・13号土坑 SPK - 6

1. 岩場上. (1052) 1-1 破片あり。粘性土や砂。Av-C(粘石板)少量。

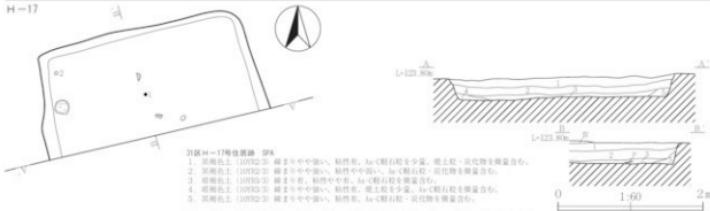


Fig. 13 31区 H-13・14・17号住居跡, D-12・13号土坑

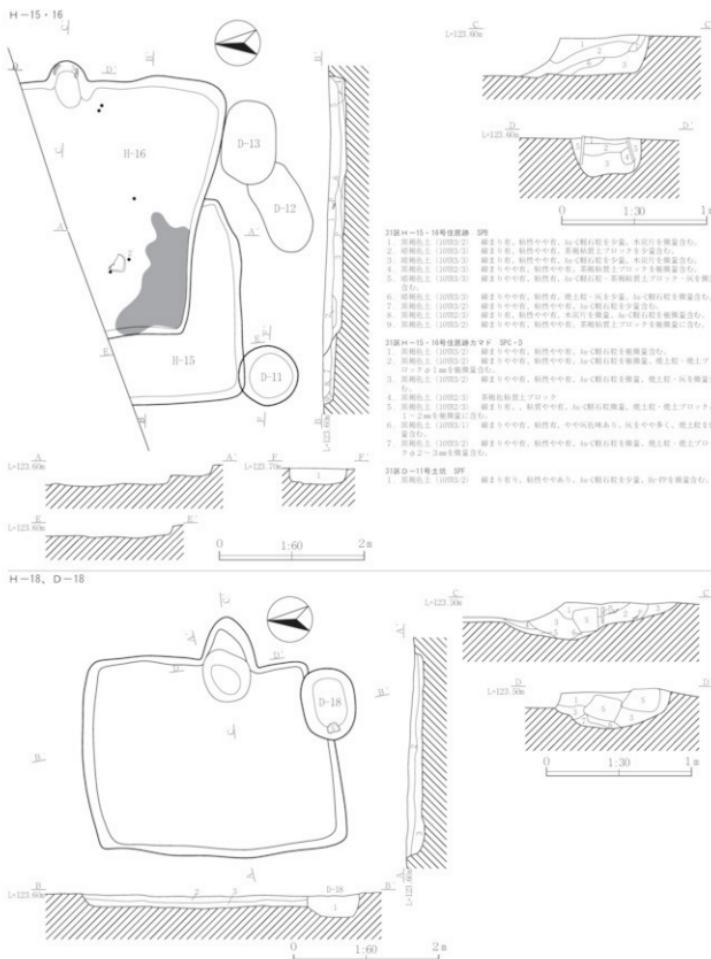


Fig. 14 31区 H-15・16・18号住居跡、D-11・18号土坑

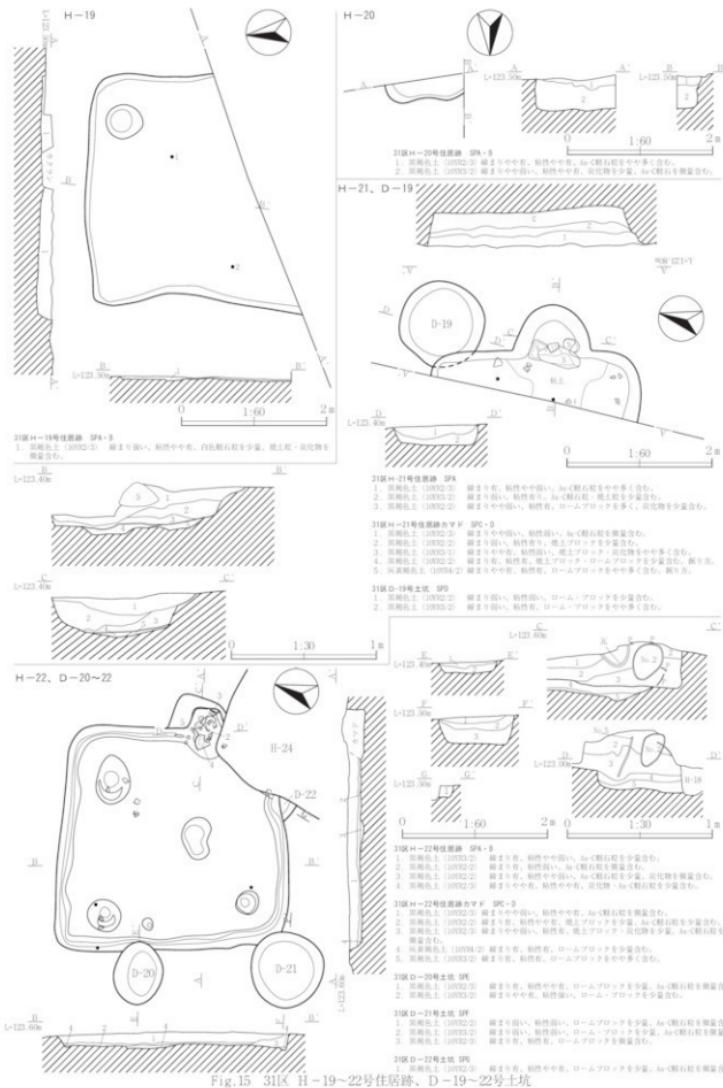


Fig.15 31区 H-19~22号住居跡、D-19~22号土壌

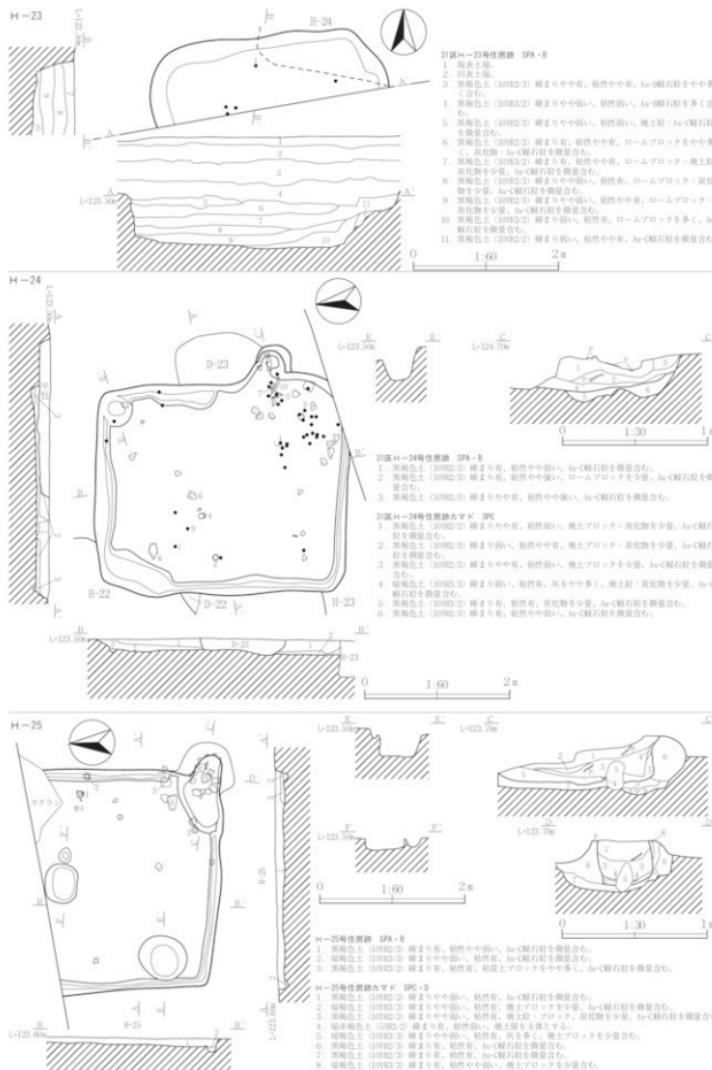


Fig. 16 31区 H-23~25号性路跡

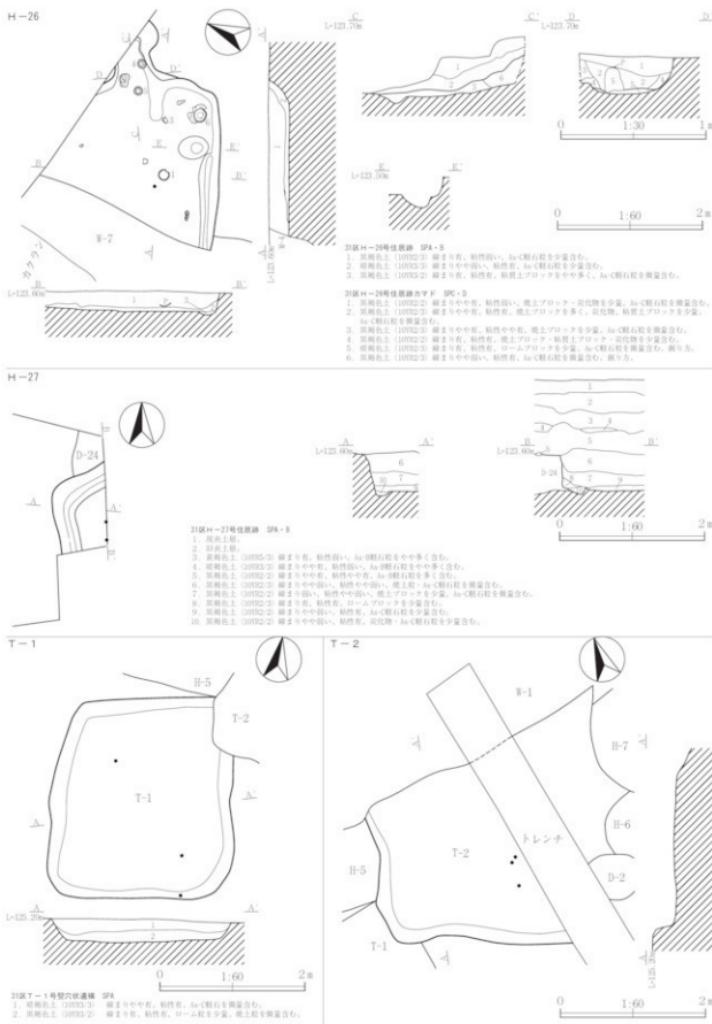


Fig. 17 31区 H-26・27号住居跡。T-1・2号窓穴遺構

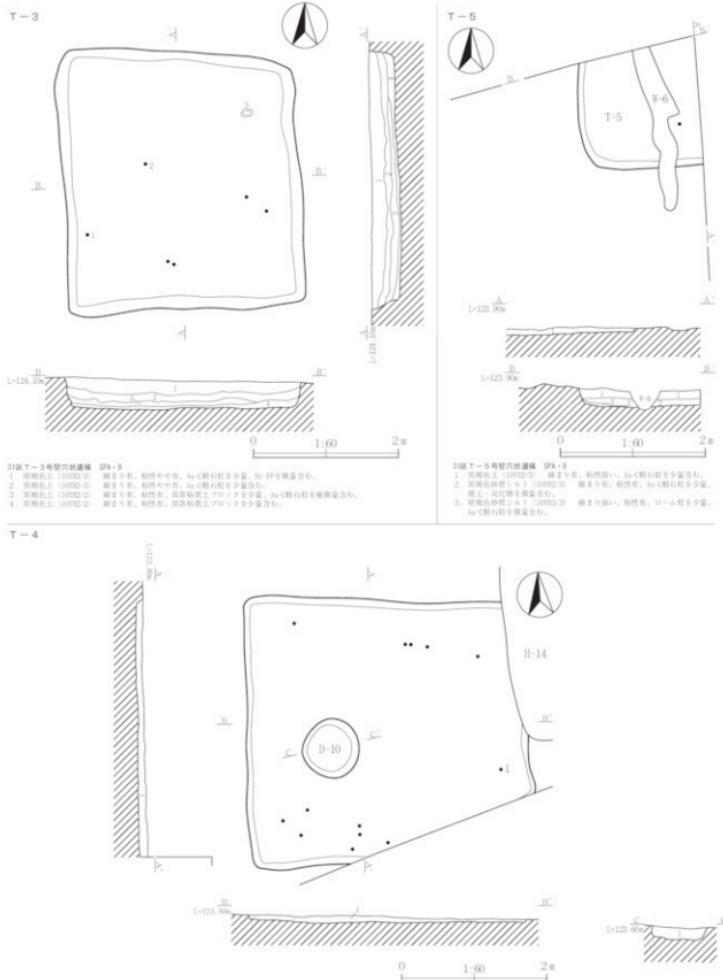


Fig.18 31区 T-3～5号堅穴状造構

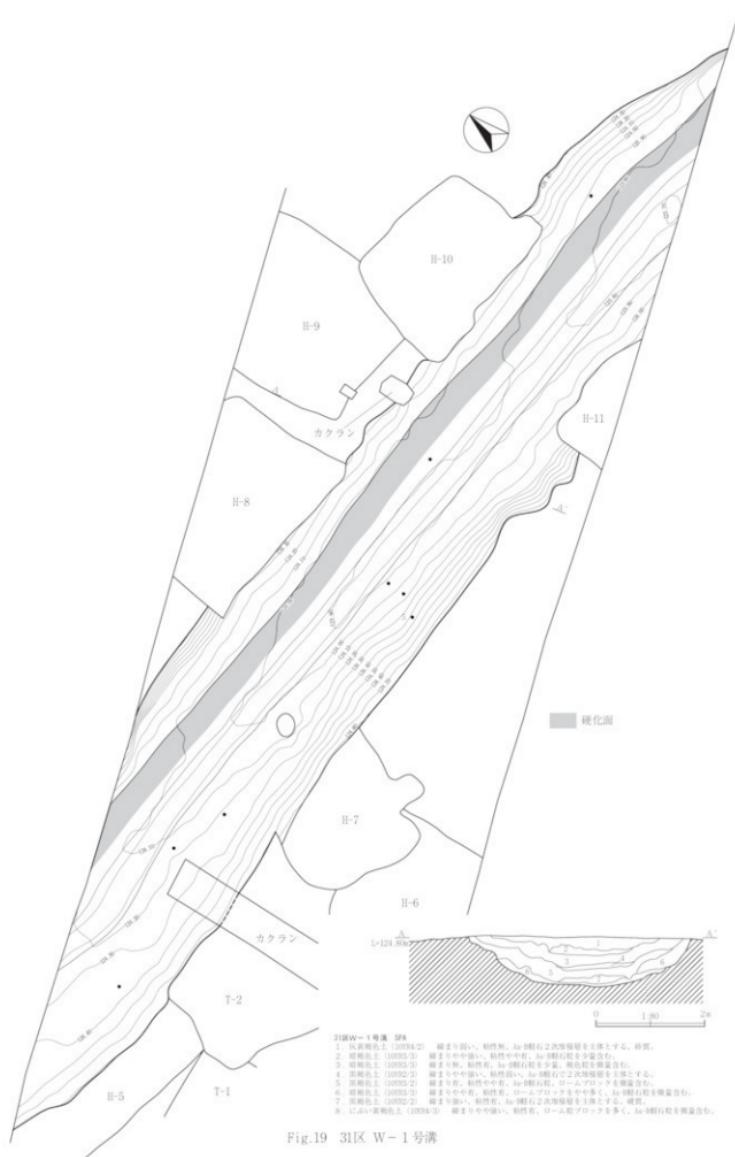
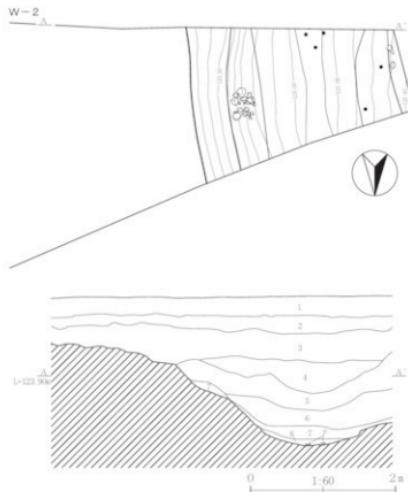


Fig. 19 31区 W-1号溝



- | 31区B - 2号菌 SPA | |
|-------------------|-----------------------------------|
| 1. ふるい目 | |
| 2. 銀鏡毛虫 (10/23-3) | 細まり有。粘性小中有。ba-C斜毛虫を少量含む。 |
| 3. 銀鏡毛虫 (10/23-3) | 細まり有。粘性小中有。ba-C斜毛虫をや多く含む。 |
| 4. 銀鏡毛虫 (10/23-3) | 細まり有。粘性小中有。レーピークリーク ba-C斜毛虫を微量含む。 |
| 5. 銀鏡毛虫 (10/23-2) | 細まり有。粘性小中有。ba-C斜毛虫を微量含む。 |
| 6. 銀鏡毛虫 (10/23-2) | 細まり有。粘性小中有。ba-C斜毛虫を微量含む。 |
| 7. 黒毛虫 (10/23-2) | 細まり有。粘性有。ba-C斜毛虫 ロームブリックア化物を微量含む。 |
| 8. 黒毛虫 (10/23-2) | 細まり有。粘性有。ba-C斜毛虫 ロームブリックア化物を微量含む。 |

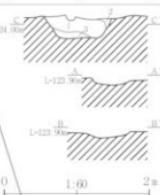
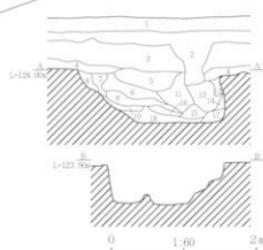
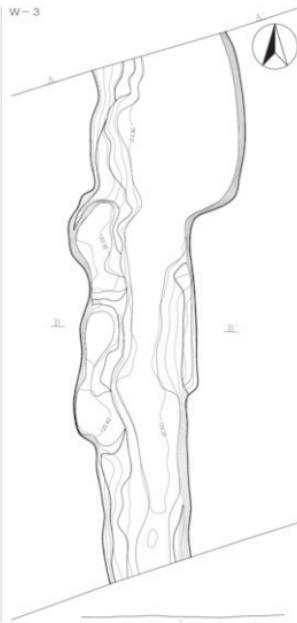
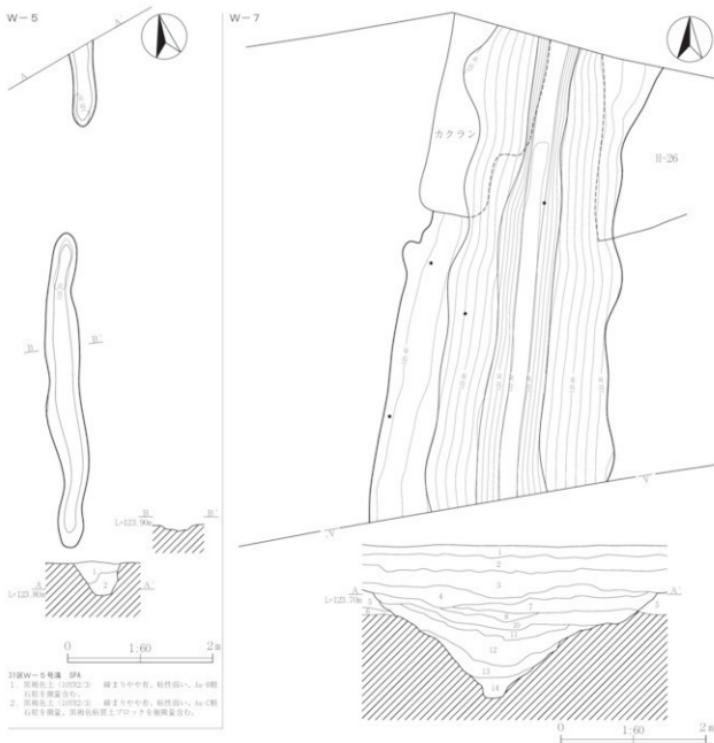


Fig.20 31区 W-2~4号溝



318WV-5号満 SPA

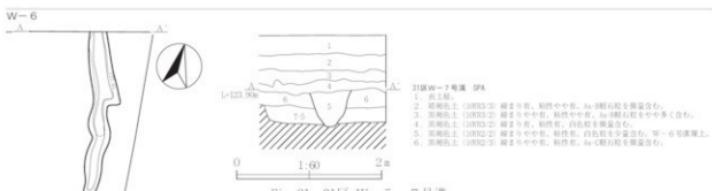
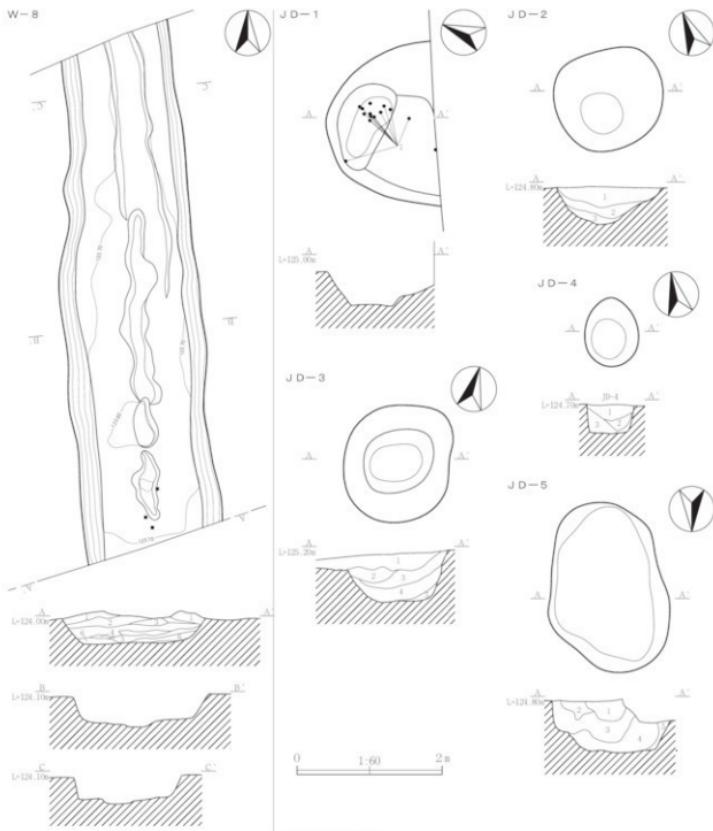


Fig.21 31区 W-5~7号溝



31区W-8号溝 SPK

1. 前期丸土 (10932-3) 繁まり有り、粘性有り。Jc付石炭を微量含む。
2. 前期丸土 (10932-2) 繁まり有り、粘性有り。Jc付石炭を微量含む。
3. 前期丸土 (10932-1) 繁まり有り、粘性有り。Jc付石炭を微量含む。
4. 前期丸土 (10932-1) 繁まり有り、粘性有り。Jc付石炭を微量含む。
5. 開拓土 (10932-2) 繁まり有り、粘性有り。Jc付石炭を微量含む。
6. 前期丸土 (10932-2) 繁まり有り、粘性有り。基盤粘土上プロック (厚10~20cm) をやや多く、砂を少許含む。

31区J D - 2号坑壁 SPK

1. 前期丸土 (10932-4) 繁まり有り、粘性有り。ローム粘土を微量含む。
2. 前期丸土 (10932-3) 繁まり有り、粘性有り。ローム粘土を微量含む。
3. 前期丸土 (10932-2) 繁まり有り、粘性有り。ローム粘土を微量含む。

3. 以古く黄褐色土 (10932-2)

繩まり有り、粘性有り。ローム粘土を微量含む。

31区J D - 3号坑壁 SPK

1. 前期丸土 (10932-4) 繁まり有り、粘性有り。ローム粘土を微量含む。
2. 前期丸土 (10932-2) 繁まり有りや少く、粘性有り。洪積土を主とし、ロームプロックを少許含む。
3. 前期丸土 (10932-4)

31区J D - 4号坑壁 SPK

1. 前期丸土 (10932-3) 繁まり有り、粘性有り。ローム粘土を微量含む。
2. 前期丸土 (10932-2) 繁まり有りや少く、粘性有り。洪積土を主とし、ロームプロックを少許含む。
3. にじく黄褐色土 (10932-2) 繁まり有りや少く、粘性有り。洪積土を主とし、ローム粘土を微量含む。
4. 黄褐色土 (10934-4)

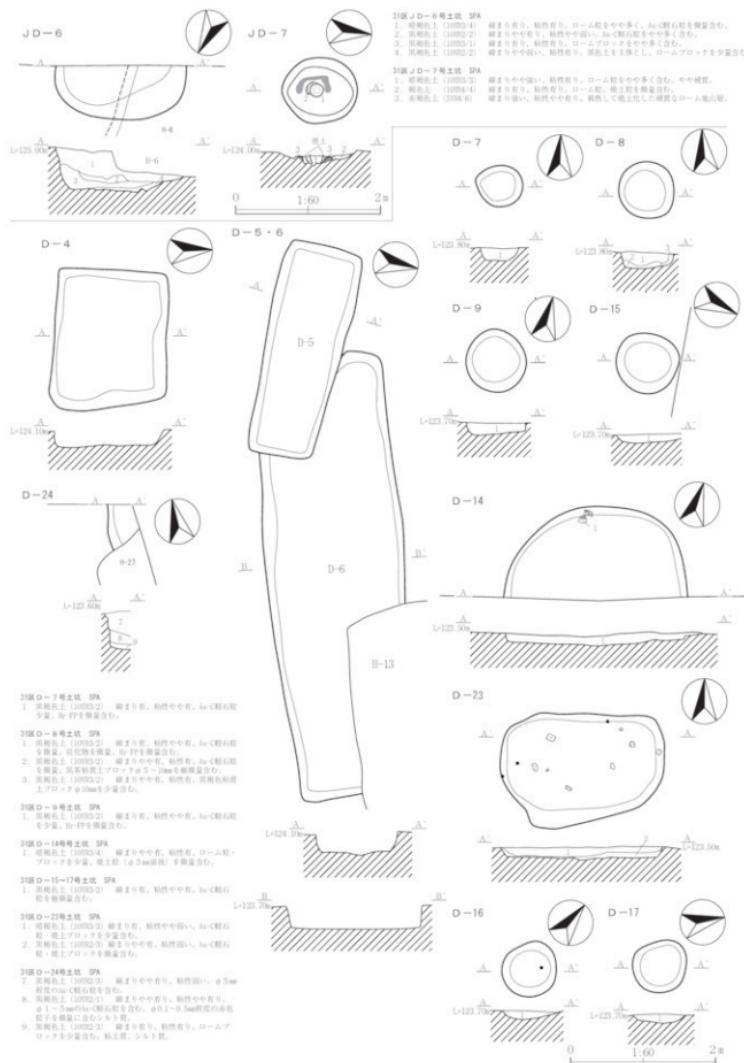
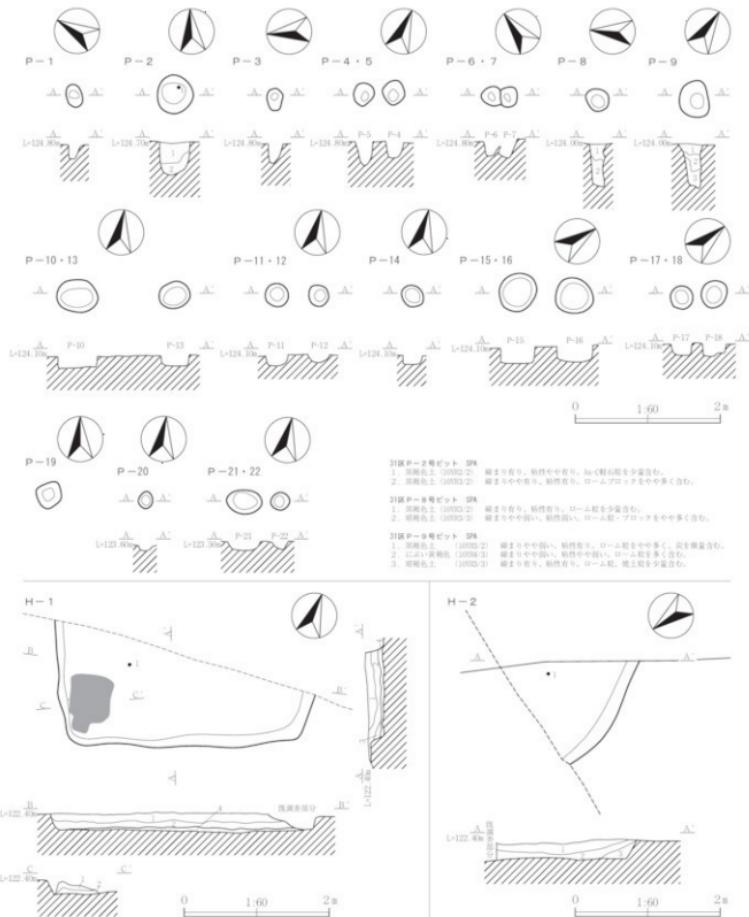


Fig.23 31区 JD-6~7、D-4~9·14~17·23号土堆



32区H - 1号住居 SPA

1. 黒面土 (10922-2) 繊毛りやや有り。粘性弱い。*3a*-c断面石粉を少量含む。
2. 黑面土 (10932-2) 繊毛りやや有り。粘性弱い。ローム粒。*3a*-c断面石粉を少量含む。
3. 黑面土 (10932-4) 繊毛り有り。粘性弱い。ローム粒を微量含む。
4. 黑面土 (10932-5) 繊毛り有り。粘性やや弱い。ローム粒・砂を微量含む。

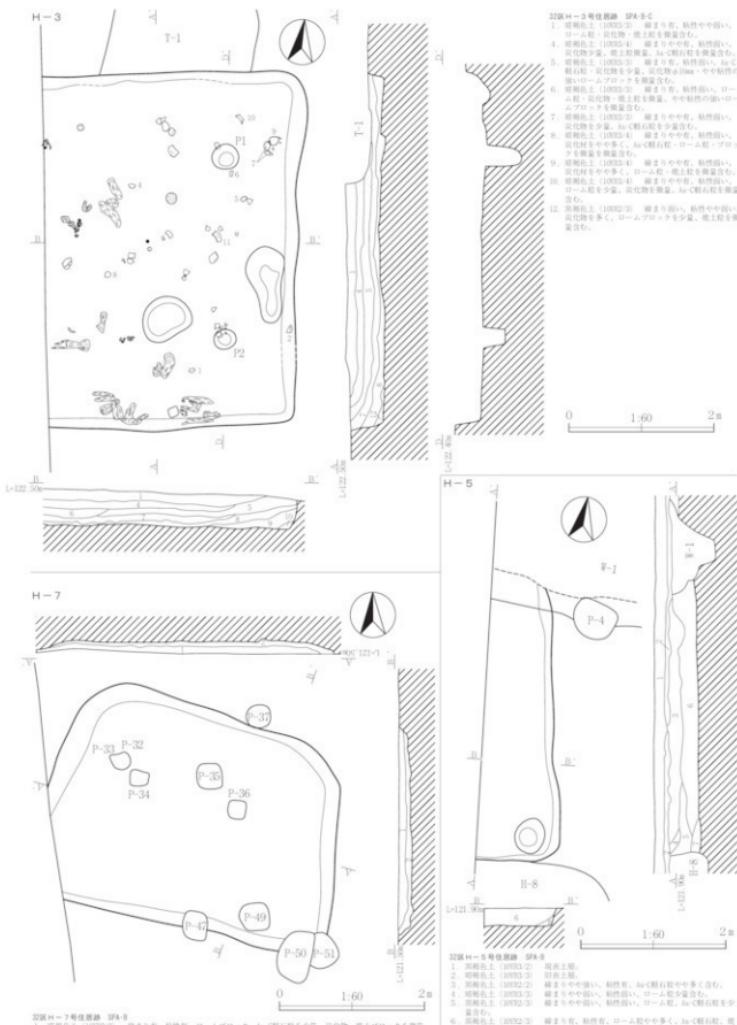
32区H - 1号住居 SPA

1. 黒面土 (10922-2) 繊毛り有り。粘性弱い。泥質を微量含む。
2. 黑面土 (10932-3) 繊毛りやや有り。粘性弱い。ローム粒。泥質を微量含む。

32区H - 1号住居 SPA

1. 黒面土 (10922-2) 繊毛りやや有り。粘性弱い。ローム粒・ブロックを少量含む。
2. 黑面土 (10933-3) 繊毛り有り。粘性弱い。ローム粒。泥質を微量含む。
3. 黑面土 (10922-3) 繊毛り弱い。粘性弱い。ローム粒。*3a*-c断面石粉を微量含む。

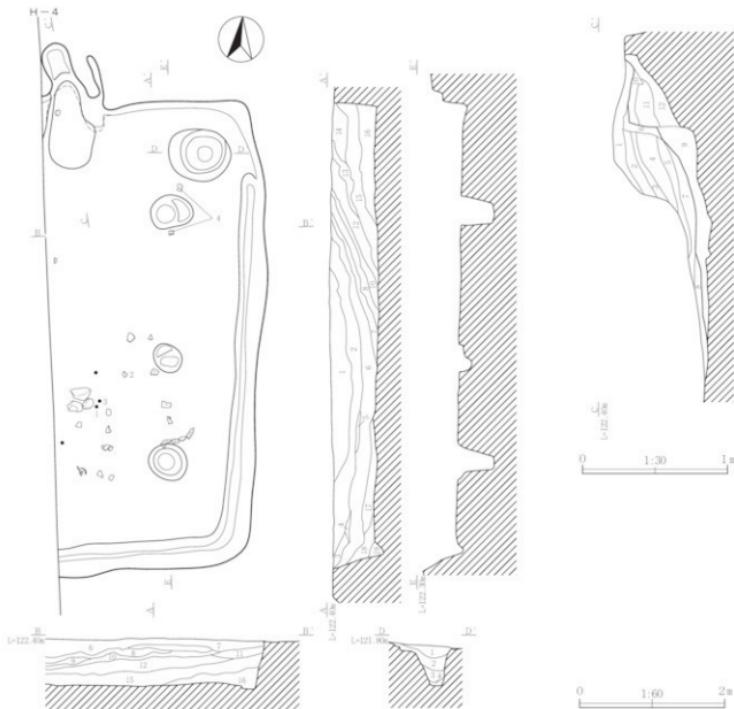
Fig. 24 31区 P - 1~22号ビット、32区H - 1・2号住居



32区 H-7 葵住居跡 SPA-B

- 明褐色土 (10Y3/3) 繊毛り有、粘性無。ロームブロック・As-C輕石粒を少量、炭化物・地上ブロックを含む。
- 明褐色土 (10Y3/4) 繊毛りや有、粘性無、ローム粒を少量、ロームブロック・As-C輕石粒を微量含む。

Fig.25 32区 H-3·5·7号住居跡



図版H-4 4号住跡 SP-A

1. 破壊柱 (10023-2) 破壊柱や少く、ロームブロック、ローム柱、地土柱を構成含む。
2. 破壊柱 (10023-3) 破壊柱や少く、地性柱や少く、ローム柱を多量含む。
3. 破壊柱 (10023-4) 破壊柱や少く、地性柱や少く、ロームブロック、ローム柱、地土柱を構成含む。
4. 破壊柱 (10023-5) 破壊柱や少く、地性柱や少く、ローム柱を多量含む。
5. 破壊柱 (10023-6) 破壊柱や少く、地性柱や少く、ローム柱を多量含む。
6. 破壊柱 (10023-7) 破壊柱や少く、地性柱や少く、ロームブロック、ローム柱、地土柱を構成含む。
7. 破壊柱 (10023-8) 破壊柱や少く、地性柱や少く、ローム柱を多量含む。
8. 破壊柱 (10023-9) 破壊柱や少く、地性柱や少く、ローム柱を多量含む。
9. 破壊柱 (10023-10) 破壊柱や少く、地性柱や少く、ローム柱を多量含む。
10. 破壊柱 (10023-11) 破壊柱や少く、地性柱や少く、ローム柱を多量含む。
11. 破壊柱 (10023-12) 破壊柱や少く、地性柱や少く、ローム柱を多量含む。
12. 破壊柱 (10023-13) 破壊柱や少く、地性柱や少く、ローム柱を多量含む。
13. 破壊柱 (10023-14) 破壊柱や少く、地性柱や少く、ローム柱を多量含む。
14. 破壊柱 (10023-15) 破壊柱や少く、地性柱や少く、ローム柱を多量含む。
15. 破壊柱 (10023-16) 破壊柱や少く、地性柱や少く、ローム柱を多量含む。
16. 破壊柱 (10023-17) 破壊柱や少く、地性柱や少く、ローム柱を多量含む。
17. 破壊柱 (10023-18) 破壊柱や少く、地性柱や少く、ローム柱を多量含む。
18. 破壊柱 (10023-19) 破壊柱や少く、地性柱や少く、ローム柱を多量含む。
19. 破壊柱 (10023-20) 破壊柱や少く、地性柱や少く、ローム柱を多量含む。

図版H-4 4号住跡 SP-C

1. 破壊柱 (10023-1) 破壊柱や少く、地性柱や少く、ローム柱、地土柱を構成含む。
2. 破壊柱 (10023-2) 破壊柱や少く、地性柱や少く、地土柱や少く、ロームブロックを構成含む。
3. 破壊柱 (10023-3) 破壊柱や少く、地性柱や少く、地土柱や少く、ロームブロックを構成含む。
4. 破壊柱 (10023-4) 破壊柱や少く、地性柱や少く、地土柱や少く、ロームブロックを構成含む。
5. 破壊柱 (10023-5) 破壊柱や少く、地性柱や少く、地土柱や少く、ロームブロックを構成含む。
6. 破壊柱 (10023-6) 破壊柱や少く、地性柱や少く、地土柱や少く、ロームブロックを構成含む。
7. 破壊柱 (10023-7) 破壊柱や少く、地性柱や少く、地土柱や少く、ロームブロックを構成含む。
8. 破壊柱 (10023-8) 破壊柱や少く、地性柱や少く、地土柱や少く、ロームブロックを構成含む。
9. 破壊柱 (10023-9) 破壊柱や少く、地性柱や少く、地土柱や少く、ロームブロックを構成含む。
10. 破壊柱 (10023-10) 破壊柱や少く、地性柱や少く、地土柱や少く、ロームブロックを構成含む。
11. 破壊柱 (10023-11) 破壊柱や少く、地性柱や少く、地土柱や少く、ロームブロックを構成含む。

図版H-4 4号住跡跡穴 SP-D

1. 破壊柱 (10023-1) 破壊柱や少く、地性柱や少く、ローム柱、地土柱を構成含む。
2. 破壊柱 (10023-2) 破壊柱や少く、地性柱や少く、地土柱や少く、ローム柱を構成含む。
3. 破壊柱 (10023-3) 破壊柱や少く、地性柱や少く、地土柱や少く、ローム柱を構成含む。
4. 破壊柱 (10023-4) 破壊柱や少く、地性柱や少く、地土柱や少く、ローム柱を構成含む。

Fig. 26 321 H - 4号住跡跡



H-6・10

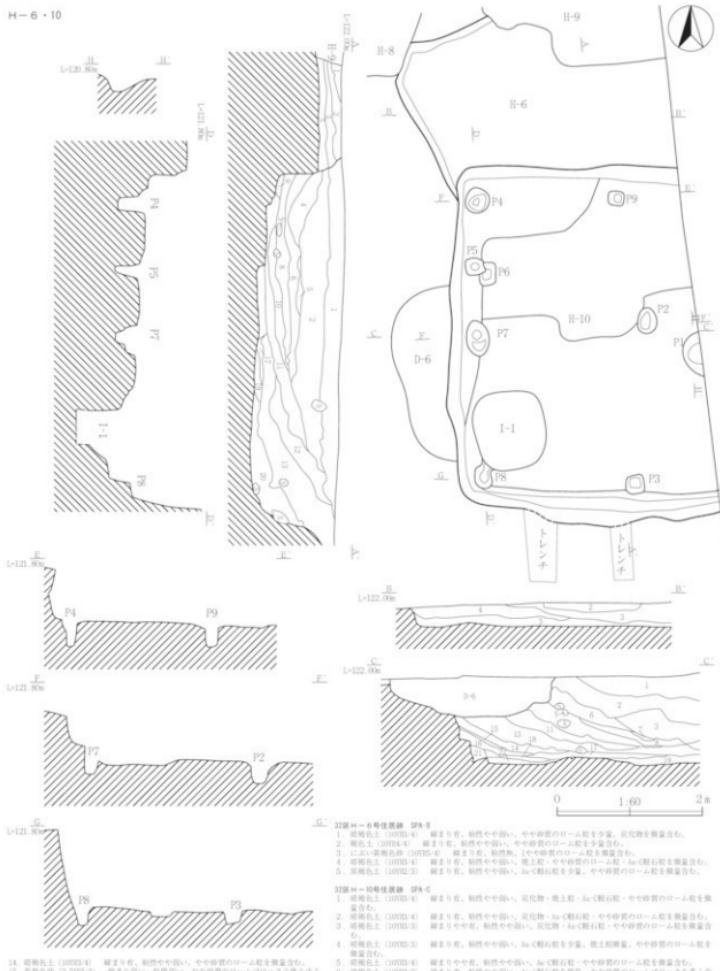
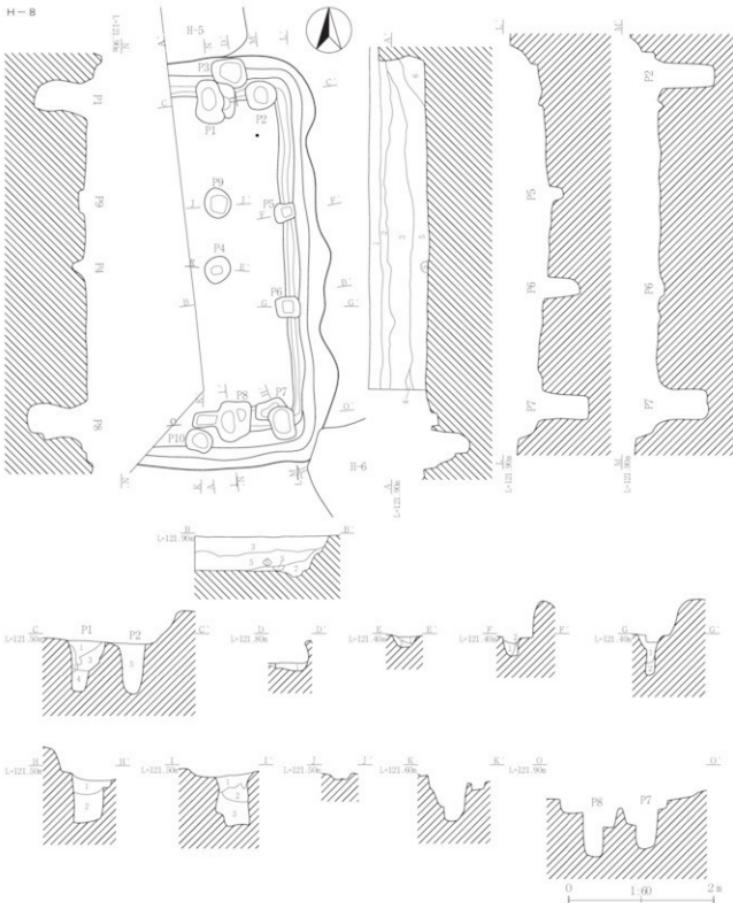


Fig.27 32区 H-6・10号居住跡



図版H-8号住居断面 SP-9

1. 玄土壁。
2. 砂上層。
3. 塗瓦上層 (10032-2) 磨きやわらか、粘性中等の砂土、阮乳粘土質土多く含む。
4. 塗瓦上層 (10032-3) 磨きやわらか、粘性質、阮乳粘土質土多く含む。
5. 塗瓦上層 (10032-1) 磨きやわらか、粘性中等の砂土、阮乳粘土質土多く含む。
6. 塗瓦上層 (10032-2) 磨きやわらか、粘性中等の砂土、阮乳粘土質土多く含む。
7. 塗瓦上層 (10032-1) 磨きやわらか、粘性中等の砂土、阮乳粘土質土多く含む。軟質。

図版H-8号住居断面P1-P2 SP-9

1. 塗瓦上層 (10032-2) 磨きやわらか、粘性固い、阮乳粘土質土を多く含む。
2. じごん土層 (10034-1) 磨きやわらか、阮乳粘土質土を多く含む。
3. 塗瓦上層 (10032-1) 磨きやわらか、阮乳粘土質土を多く含む。
4. 塗瓦上層 (10032-2) 磨きやわらか、阮乳粘土質土、ローム粘土を多く含む。
5. 塗瓦上層 (10032-1) 磨きやわらか、阮乳粘土質土、阮乳粘土を多く含む。

図版H-8号住居断面 P1-P2 SP-9

1. 阮乳粘土 (10032-2) 磨きやわらか、粘性質、ローム粘土を微量含む。

図版H-8号住居断面 P1-P2 SP-9

1. 阮乳粘土 (10032-2) 磨きやわらか、粘性質。
2. 阮乳粘土 (10034-1) 磨きやわらか、阮乳粘土、阮乳粘土質土を微量含む。
3. 阮乳粘土 (10033-3) 磨きやわらか、粘性やや弱い、阮乳粘土質土を多く含む。

図版H-8号住居断面 P1-P2 SP-9

1. 阮乳粘土 (10032-2) 磨きやわらか、阮乳粘土、阮乳粘土質土を微量含む。
2. 阮乳粘土 (10032-2) 磨きやわらか、粘性質、ローム粘土、阮乳粘土質土を微量含む。
3. 阮乳粘土 (10033-3) 磨きやわらか、阮乳粘土質土を多く含む。

Fig. 28 321K H-8号住居跡



H-9

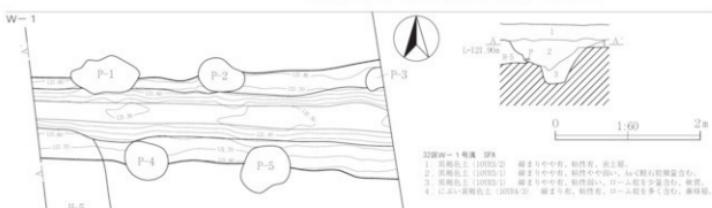
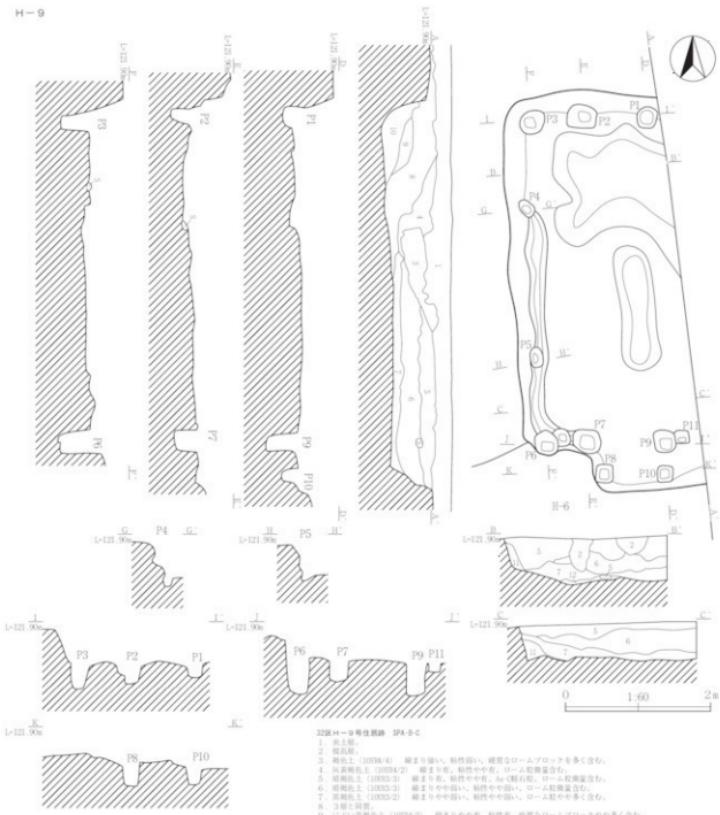
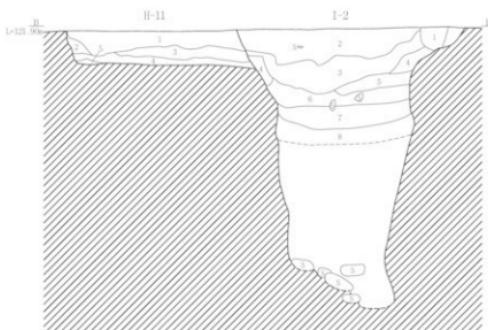
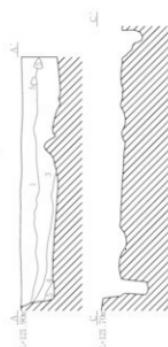
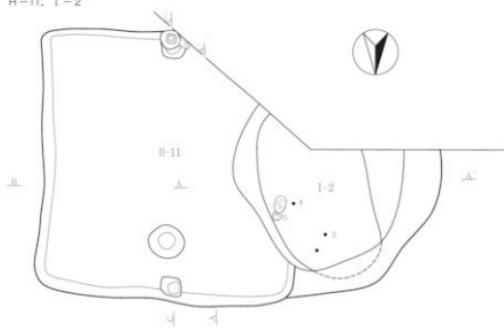


Fig. 29 32K H-9号住居跡・W-1号溝



H-11、I-2

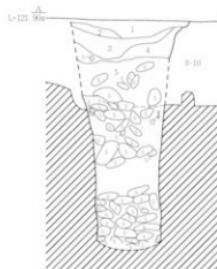
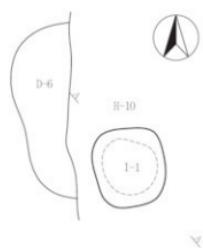


図版H-1号井戸 SPA-2
1. 沈積粘土上 (100cm-2) 線まりやや硬い、粘性有。Ar-C (軽石)
2. 沈積粘土上 (100cm-4) 線まりやや硬い、粘性有。Ar-C (軽石)と
砂利を含む。
3. 沈積粘土上 (100cm-2) 線まりやや硬い、粘性有。鉄質なローム
を多く含む。
4. 沈積粘土上 (100cm-2) 線まりやや硬い、粘性有。鉄質なローム
を多く含む。
5. 沈積粘土上 (100cm-2) 線まりやや硬い、粘性有。ローム層を少
量含む。

図版I-2号井戸 SPA
1. 沈積粘土上 (100cm-2) 線まりやや硬い、粘性有。Ar-C (軽石)と
砂利を含む。中砂有。
2. 沈積粘土上 (100cm-3) 線まり有。粘性有。Ar-C (軽石)と少量の
砂利を含む。
3. 沈積粘土上 (100cm-3) 線まり有。粘性有。ロームプロックを
多く含む。
4. 沈積粘土上 (100cm-2) 線まりやや硬い、粘性有。Ar-C (軽石)
と砂利を含む。
5. 沈積粘土上 (100cm-2) 線まりやや硬い、粘性有。Ar-C (軽石)
と砂利を含む。
6. 沈積粘土上 (100cm-2) 線まりやや硬い、粘性有。Ar-C (軽石)
と砂利を含む。
7. 沈積粘土上 (100cm-3) 線まり有。粘性やや硬い。中砂有。
8. 沈積粘土上 (100cm-2) 線まり有。粘性有。ローム層を少含
む。

0 1.60 2m

I-1



図版I-1号井戸 SPA

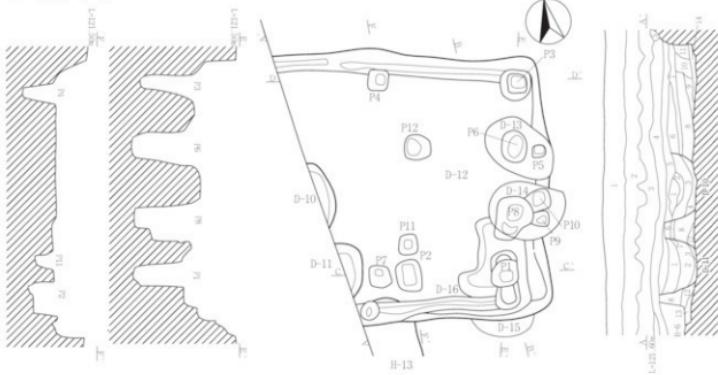
1. 沈積粘土上 (100cm-2) 線まりやや硬い、粘性有。Ar-C (軽石)を
多く含む。
2. 沈積粘土上 (100cm-3) 線まりやや硬い、粘性有。Ar-C (軽石)と
砂利を含む。
3. 沈積粘土上 (100cm-2) 線まり有。粘性有。ロームプロックを
多く含む。
4. 沈積粘土上 (100cm-2) 線まり有。粘性やや硬い。Ar-C (軽石)の
砂利を多く含む。
5. 沈積粘土上 (100cm-2) 線まりやや硬い、粘性有。鉄質した粘土層
の間に隔離される。

0 1.60 2m

Fig.30 32区 H-11号住居跡、I-1・2号井戸



H-12、D-10・11

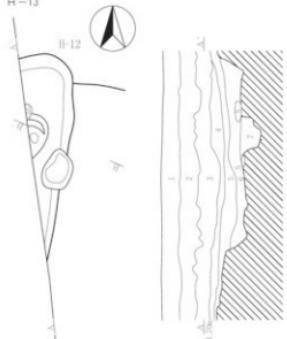


21図 H-12号住居跡 SPA

1. 砂質土。
2. 剥離層上 (1003/2) 破まり有り、粘性やや有り。lo 岩碎石を少々含む。
3. 剥離層上 (1003/3) 破まり有り、粘性無く、lo 岩碎石をやや含む。
4. 剥離層上 (1003/4) 破まり有り、粘性弱い。lo 岩碎石を少々含む。
5. 剥離層上 (1003/5) 破まり有り、粘性弱い。lo 岩碎石を少々含む。
6. 剥離層上 (1003/6) 破まり有り、粘性弱い。lo 岩碎石を少々含む。
7. 剥離層上 (1003/7) 破まり有り、粘性弱い。lo 岩碎石を少々含む。
8. 剥離層上 (1003/8) 破まり有り、粘性弱い。頁岩化物、やや砂質のロームを少量含む。
9. 剥離層上 (1003/9) 破まり有り、粘性弱い。頁岩化物、やや砂質のロームを少量含む。
10. 剥離層上 (1003/10) 破まり有り、粘性弱い、やや砂質のロームを少量含む。
11. 剥離層上 (1003/11) 破まり有り、粘性弱い。頁岩化物を含む。白色粘土、やや砂質のロームを少量含む。
12. 剥離層上 (1003/12) 破まり有り、粘性弱い。頁岩化物、やや砂質のロームを少量含む。
13. 剥離層上 (1003/13) 破まりやや弱い、粘性あり。崩落した塊状の頁岩化物を含む。
14. 剥離層上 (1003/14) 破まりやや有り、粘性やや弱い。崩落した塊状の頁岩化物を含む。

L-121.50m

H-13



21図 H-13号住居跡 SPA-S

1. 砂質土。
2. 剥離層上 (1003/2) 破まり有り、粘性やや有り。lo 岩碎石を少々含む。
3. 剥離層上 (1003/3) 破まり有り、粘性弱い。lo 岩碎石を少々含む。
4. 剥離層上 (1003/4) 破まりやや有り、粘性弱い。lo 岩碎石を少々含む。
5. 剥離層上 (1003/4) 破まりやや有り、粘性弱い。ロームフリット、lo 岩碎石を少々含む。
6. 剥離層上 (1003/5) 破まりやや有り、粘性弱い。頁岩化物を含む。白色粘土、やや砂質のロームを少量含む。
7. 剥離層上 (1003/6) 破まりやや有り、粘性弱い。ロームフリット、lo 岩碎石を少々含む。

L-121.50m L-13 L-1'

0 1.60 2m

Fig. 31 32区 H-12・13号住居跡、D-10・11号土塙

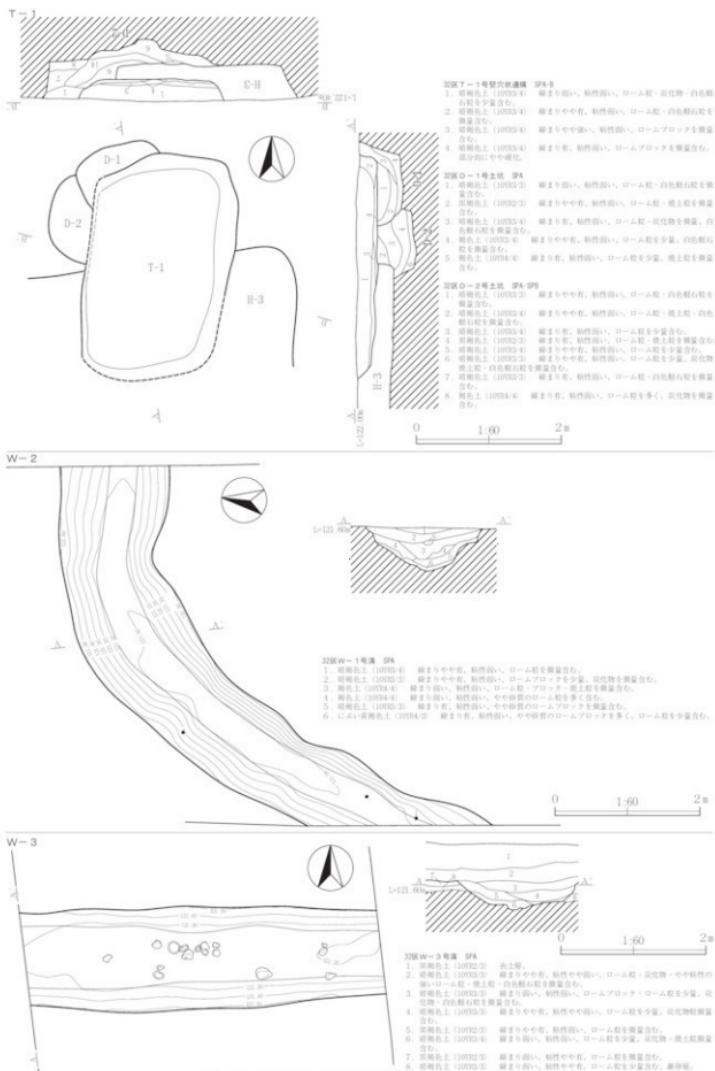


Fig. 32 32区 T-1号窓穴状構造、W-2・3号窓

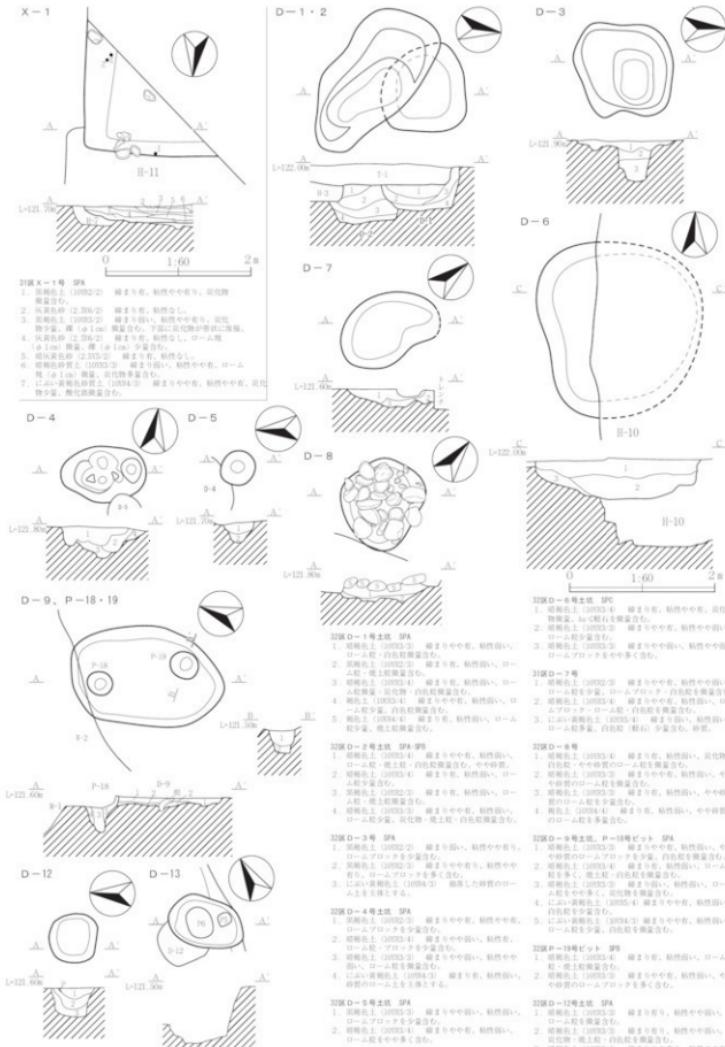
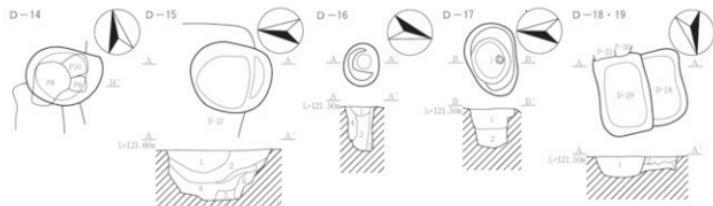


Fig. 33. 32区 Y=1量跡 D=1~9, 12, 13量±傾 R=18, 19号ピット



32号D-15号土坑 SPA

1. 布鳴れ土 (1203.0)
2. 布鳴れ土 (1203.2)
3. 布鳴れ土 (1203.2)
4. 布鳴れ土 (1203.4)
5. 布鳴れ土 (1203.4)
6. 布鳴れ土 (1203.4)

32号D-16号土坑 SPA

1. 布鳴れ土 (1203.0)
2. 布鳴れ土 (1203.2)
3. 布鳴れ土 (1203.2)
4. 布鳴れ土 (1203.4)
5. 布鳴れ土 (1203.4)
6. 布鳴れ土 (1203.4)

32号D-17号土坑 SPA

1. 二三八-1号地土 (1203.0)
2. 布鳴れ土 (1203.4)

32号D-18号土坑 SPA

1. 布鳴れ土 (1203.0)
2. 布鳴れ土 (1203.2)
3. 布鳴れ土 (1203.2)
4. 布鳴れ土 (1203.4)

32号D-19号土坑 SPA

1. 布鳴れ土 (1203.0)
2. 布鳴れ土 (1203.2)
3. 布鳴れ土 (1203.2)
4. 布鳴れ土 (1203.4)
5. 布鳴れ土 (1203.4)

32号P-1号ビット SPA

1. 布鳴れ土 (1203.0)
2. 布鳴れ土 (1203.2)
3. 布鳴れ土 (1203.2)
4. 布鳴れ土 (1203.4)
5. 布鳴れ土 (1203.4)

32号P-2号ビット SPA

1. 布鳴れ土 (1203.0)
2. 布鳴れ土 (1203.2)
3. 布鳴れ土 (1203.2)
4. 布鳴れ土 (1203.4)
5. 布鳴れ土 (1203.4)

32号P-3号ビット SPA

1. 布鳴れ土 (1203.0)
2. 布鳴れ土 (1203.2)
3. 布鳴れ土 (1203.2)
4. 布鳴れ土 (1203.4)
5. 布鳴れ土 (1203.4)

32号P-4号ビット SPA

1. 布鳴れ土 (1203.0)
2. 布鳴れ土 (1203.2)
3. 布鳴れ土 (1203.2)
4. 布鳴れ土 (1203.4)
5. 布鳴れ土 (1203.4)

32号P-5号ビット SPA

1. 布鳴れ土 (1203.0)
2. 布鳴れ土 (1203.2)
3. 布鳴れ土 (1203.2)
4. 布鳴れ土 (1203.4)
5. 布鳴れ土 (1203.4)

32号P-6号ビット SPA

1. 布鳴れ土 (1203.0)
2. 布鳴れ土 (1203.2)
3. 布鳴れ土 (1203.2)
4. 布鳴れ土 (1203.4)
5. 布鳴れ土 (1203.4)

32号P-7号ビット SPA

1. 布鳴れ土 (1203.0)
2. 布鳴れ土 (1203.2)
3. 布鳴れ土 (1203.2)
4. 布鳴れ土 (1203.4)
5. 布鳴れ土 (1203.4)

32号P-8号ビット SPA

1. 布鳴れ土 (1203.0)
2. 布鳴れ土 (1203.2)
3. 布鳴れ土 (1203.2)
4. 布鳴れ土 (1203.4)
5. 布鳴れ土 (1203.4)

32号P-9号ビット SPA

1. 布鳴れ土 (1203.0)
2. 布鳴れ土 (1203.2)
3. 布鳴れ土 (1203.2)
4. 布鳴れ土 (1203.4)
5. 布鳴れ土 (1203.4)

32号P-10号ビット SPA

1. 布鳴れ土 (1203.0)
2. 布鳴れ土 (1203.2)
3. 布鳴れ土 (1203.2)
4. 布鳴れ土 (1203.4)
5. 布鳴れ土 (1203.4)

32号P-11号ビット SPA

1. 布鳴れ土 (1203.0)
2. 布鳴れ土 (1203.2)
3. 布鳴れ土 (1203.2)
4. 布鳴れ土 (1203.4)
5. 布鳴れ土 (1203.4)

32号P-12号ビット SPA

1. 布鳴れ土 (1203.0)
2. 布鳴れ土 (1203.2)
3. 布鳴れ土 (1203.2)
4. 布鳴れ土 (1203.4)
5. 布鳴れ土 (1203.4)

32号P-13号ビット SPA

1. 布鳴れ土 (1203.0)
2. 布鳴れ土 (1203.2)
3. 布鳴れ土 (1203.2)
4. 布鳴れ土 (1203.4)
5. 布鳴れ土 (1203.4)

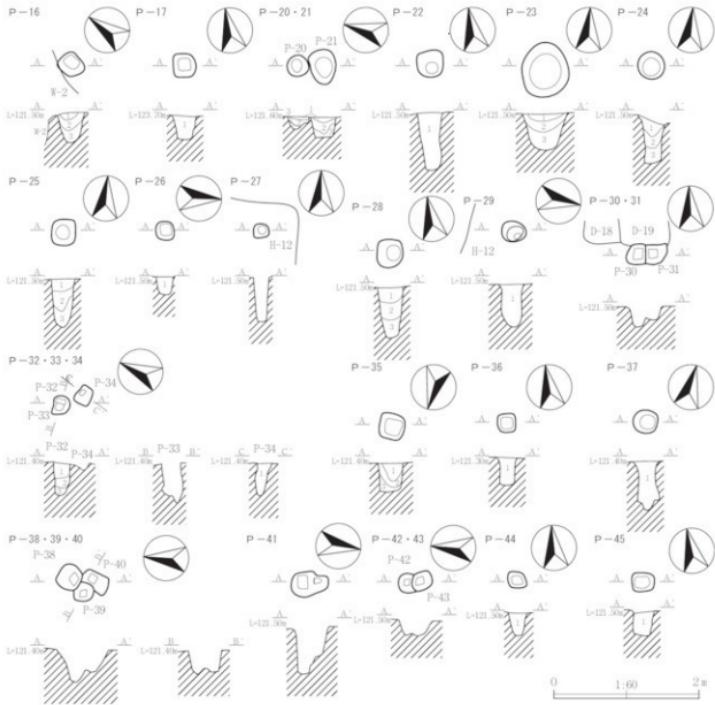
32号P-14号ビット SPA

1. 布鳴れ土 (1203.0)
2. 布鳴れ土 (1203.2)
3. 布鳴れ土 (1203.2)
4. 布鳴れ土 (1203.4)
5. 布鳴れ土 (1203.4)

32号P-15号ビット SPA

1. 布鳴れ土 (1203.0)
2. 布鳴れ土 (1203.2)
3. 布鳴れ土 (1203.2)
4. 布鳴れ土 (1203.4)
5. 布鳴れ土 (1203.4)

Fig.34 32号 D-14~20号土坑、P-1~15号ビット



32区P-16号ピット SPK

1. 岩相色土上 (100%) (3) 線まりやや有。粘性弱い。ローム粒微量。塵土粒微量。白色粘土。
2. にかみ黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。白色粘土微量。
3. 黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。粘性弱い。やや砂質のローム粒を少量含む。

32区P-17号ピット SPK

1. 黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。粘性弱い。やや砂質のローム粒を微量含む。

32区P-20号ピット SPK

1. 岩相色土上 (100%) (3) 線まりやや有。粘性弱い。白色粘土微量含む。白色粘土。
2. 黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。粘性弱い。白色粘土微量含む。白色粘土。
3. にかみ黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。粘性弱い。ローム粒を少量含む。

32区P-22号ピット SPK

1. 黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。粘性弱い。ローム粒。白色粘土微量含む。
2. 黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。粘性弱い。白色粘土微量含む。白色粘土。
3. 黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。粘性弱い。白色粘土。ローム粒微量含む。

32区P-24号ピット SPK

1. にかみ黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。粘性弱い。白色粘土微量含む。
2. にかみ黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。粘性弱い。白色粘土微量含む。
3. 黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。粘性弱い。やや砂質のローム粒を微量含む。

32区P-25号ピット SPK

1. にかみ黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。粘性弱い。白色粘土微量含む。
2. にかみ黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。粘性弱い。白色粘土微量含む。
3. 黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。粘性弱い。やや砂質のローム粒を微量含む。

32区P-26号ピット SPK

1. にかみ黄褐色土上 (100%) (3) 線まりやや有。粘性弱い。ゼム粒。塵土粒。白色粘土微量含む。

32区P-27号ピット SPK

1. 黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。粘性弱い。ローム粒微量。白色粘土微量含む。
2. 黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。粘性弱い。白色粘土微量含む。やや砂質のローム粒を微量含む。

32区P-28号ピット SPK

1. 黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。粘性弱い。白色粘土微量含む。

32区P-29号ピット SPK

1. 黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。白色粘土微量含む。

32区P-30号ピット SPK

1. 黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。白色粘土微量含む。

32区P-31号ピット SPK

1. 黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。白色粘土微量含む。

32区P-32号ピット SPK

1. 黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。白色粘土微量含む。

32区P-33号ピット SPK

1. 黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。白色粘土微量含む。

32区P-34号ピット SPK

1. 黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。白色粘土微量含む。

32区P-35号ピット SPK

1. 黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。白色粘土微量含む。

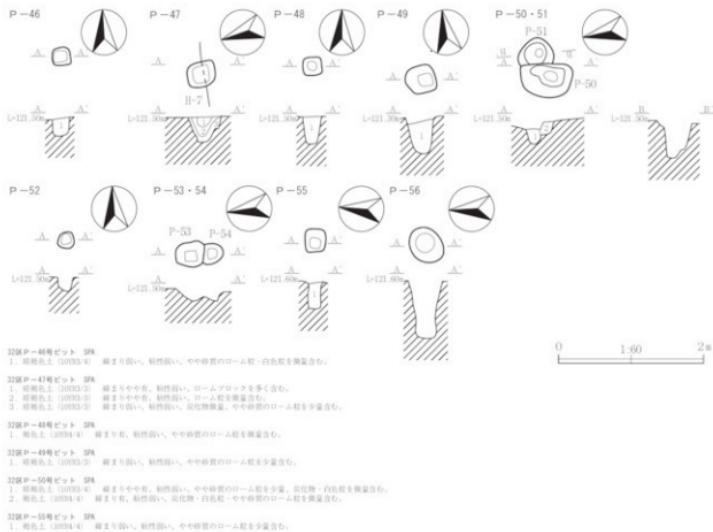
32区P-36号ピット SPK

1. 黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。白色粘土微量含む。

32区P-37号ピット SPK

1. 黄褐色土 (100%) (3) 線まりやや有。白色粘土微量含む。

Fig.35 32区 P-16・17・20~45号ピット



0 1.60 2

Fig.36 32X P-46~56号ビット



Fig.37 31区 J-1・2号住居跡出土遺物

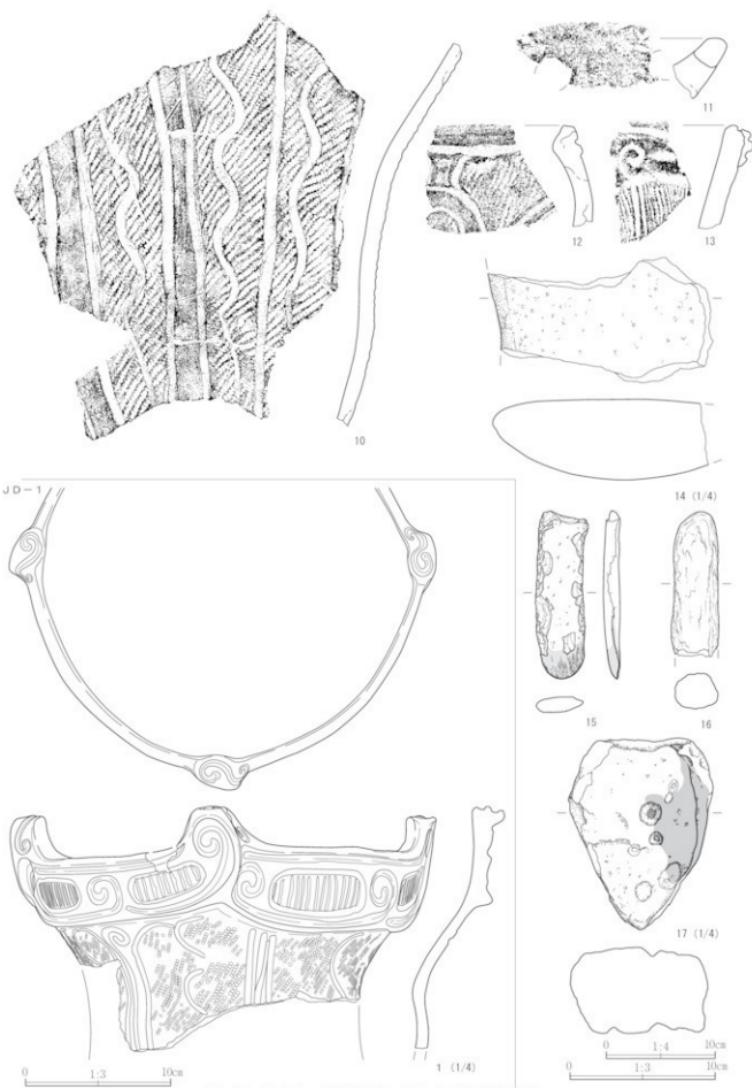


Fig.38 31区 J-2号住居跡、JD-1号土坑出土遺物

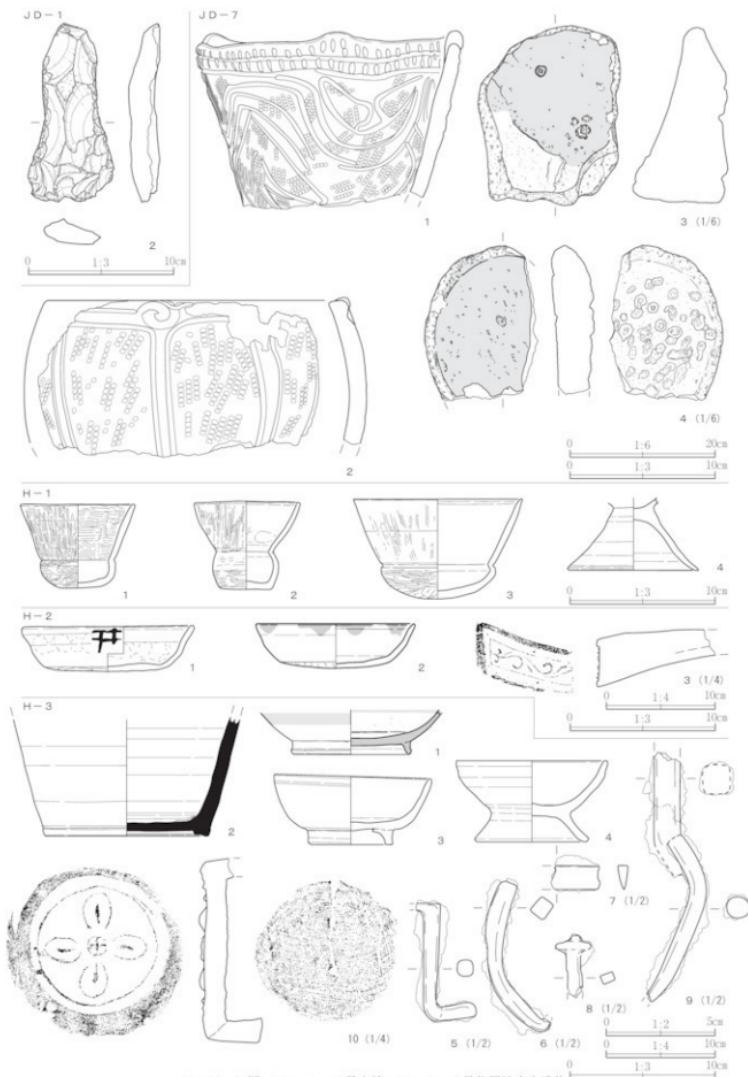


Fig. 39 31区 JD-1 ~ 7号土坑、H-1 ~ 3号住居跡出土遺物

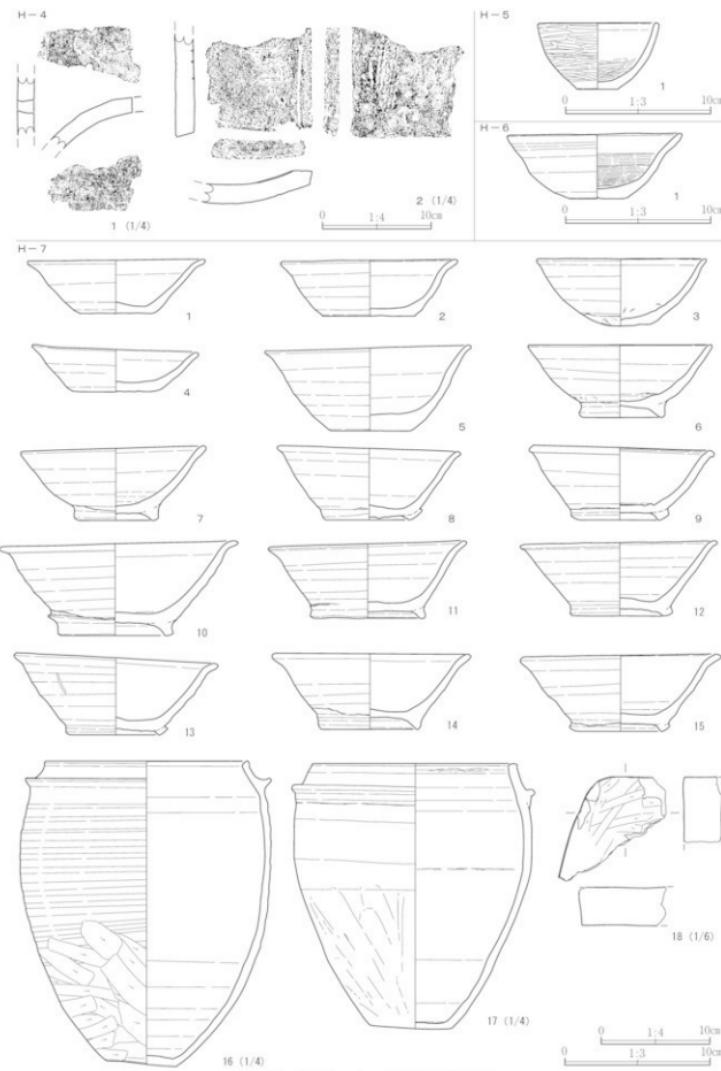


Fig.40 31区 H-4 ~ 7号住居跡出土遺物

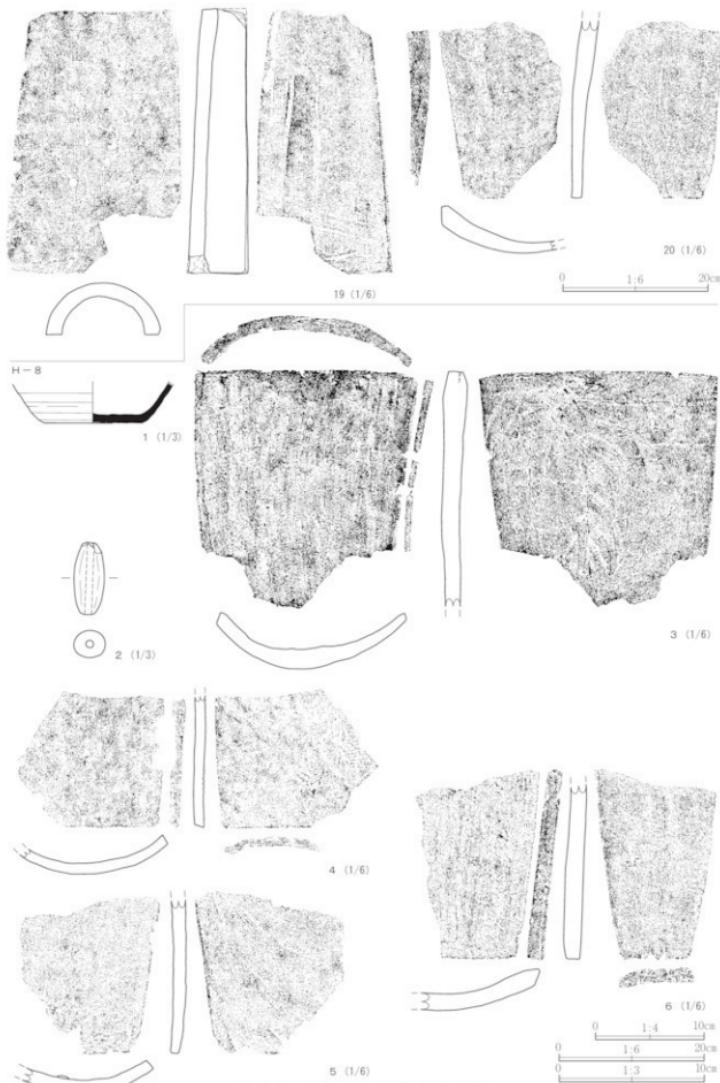


Fig. 41 31[X] H-7 · 8号住居跡出土遺物

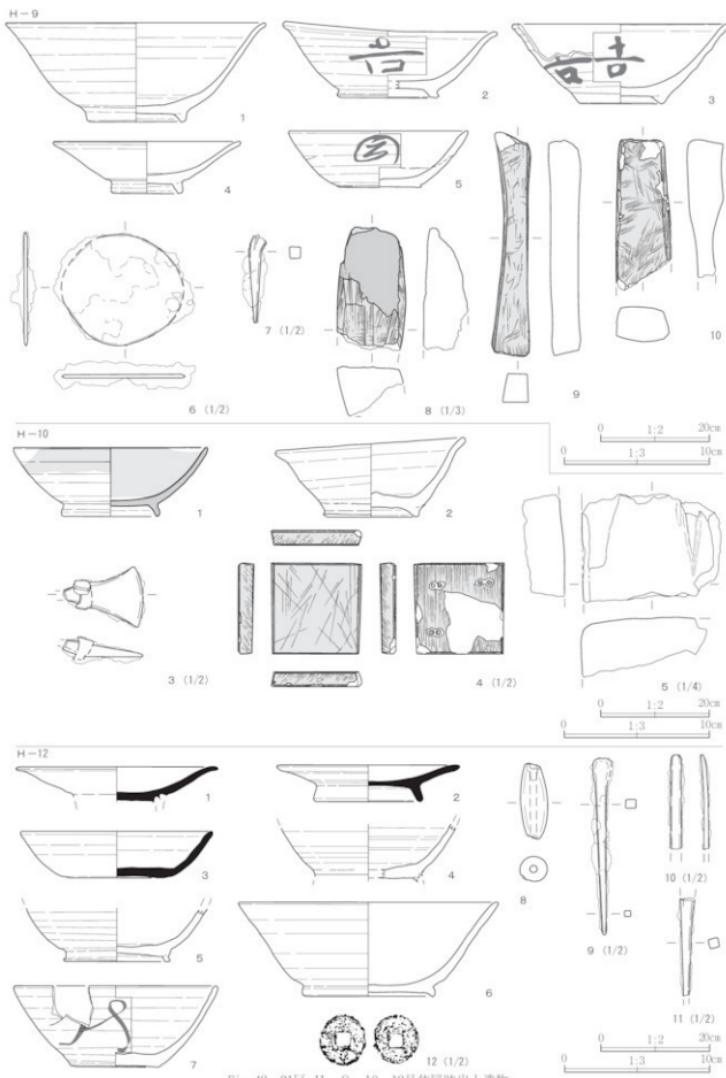
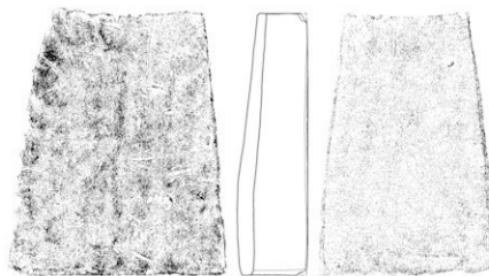
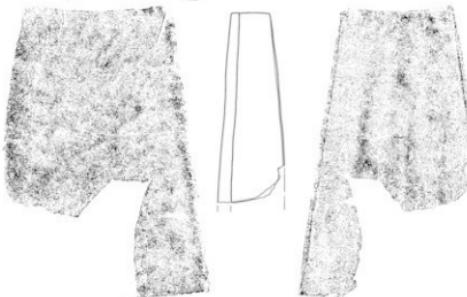


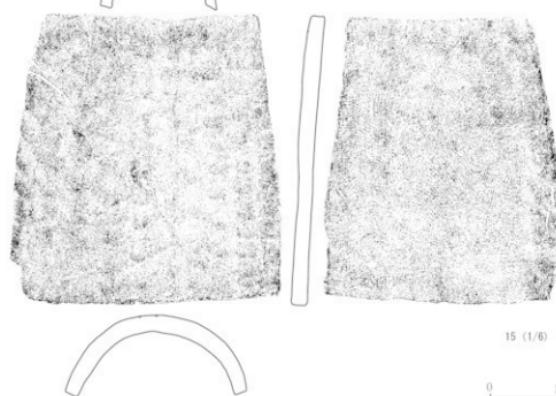
Fig.42 31区 H-9·10·12号住居跡出土遺物



13 (1/6)



14 (1/6)



15 (1/6)

0 1·6 20cm

Fig. 43 31区 H-12号住居跡出土遺物

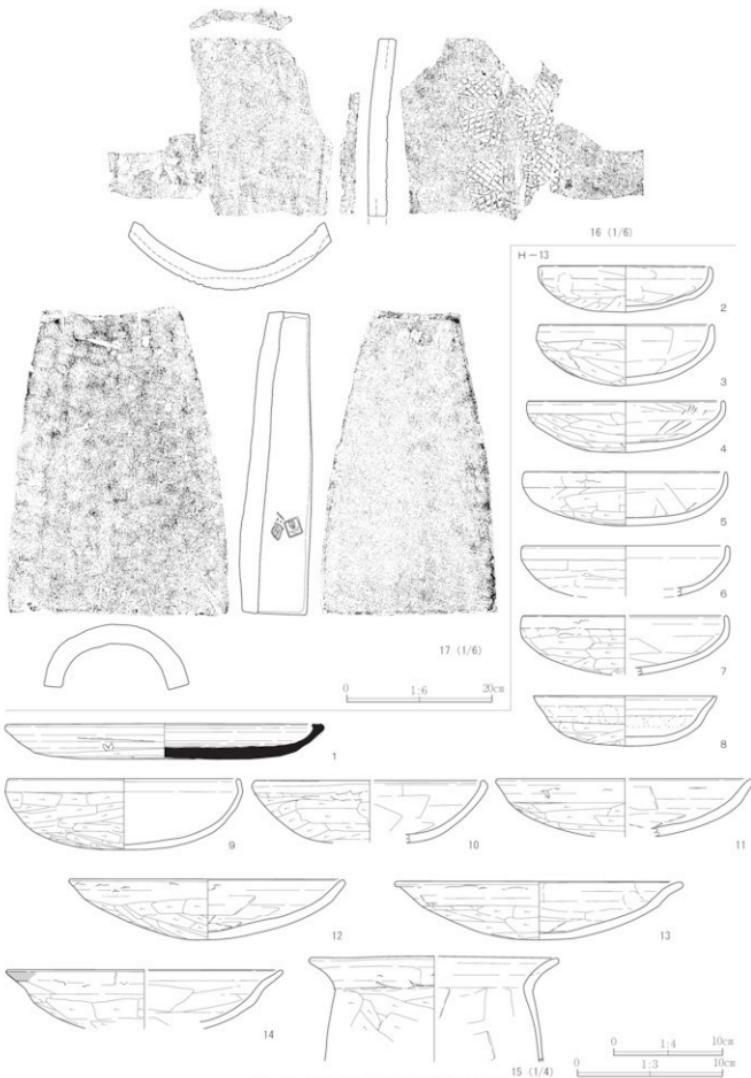


Fig.44 31区 H-12·13号住房跡出土遺物

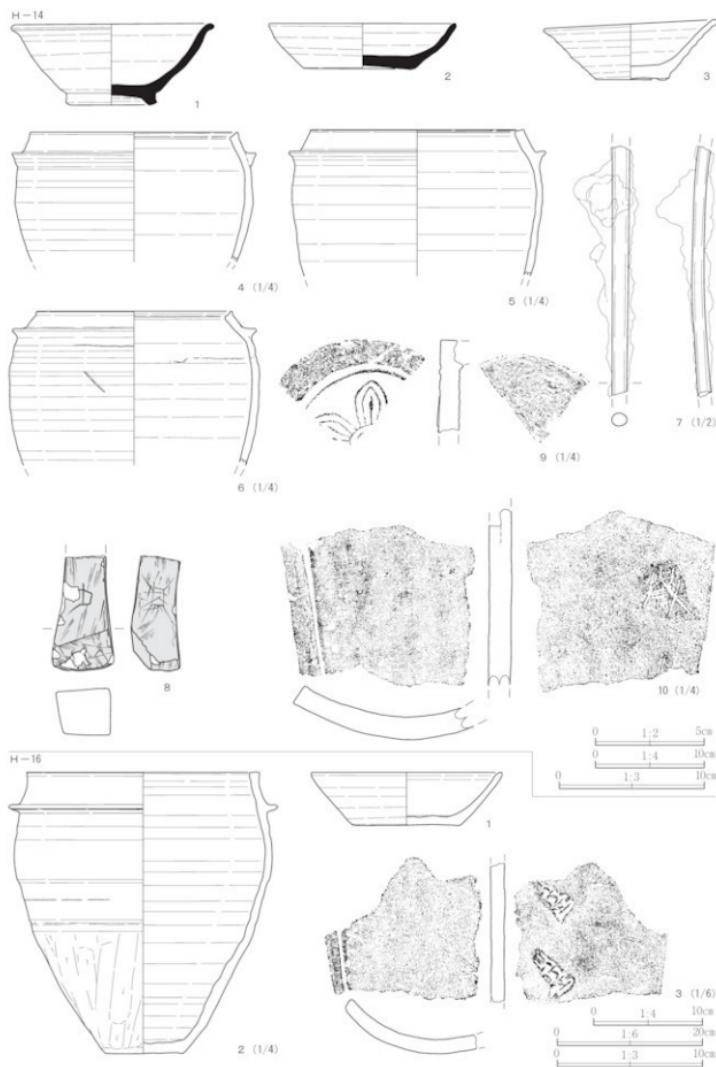


Fig.45 31区 H-14·16号住居跡出土遺物

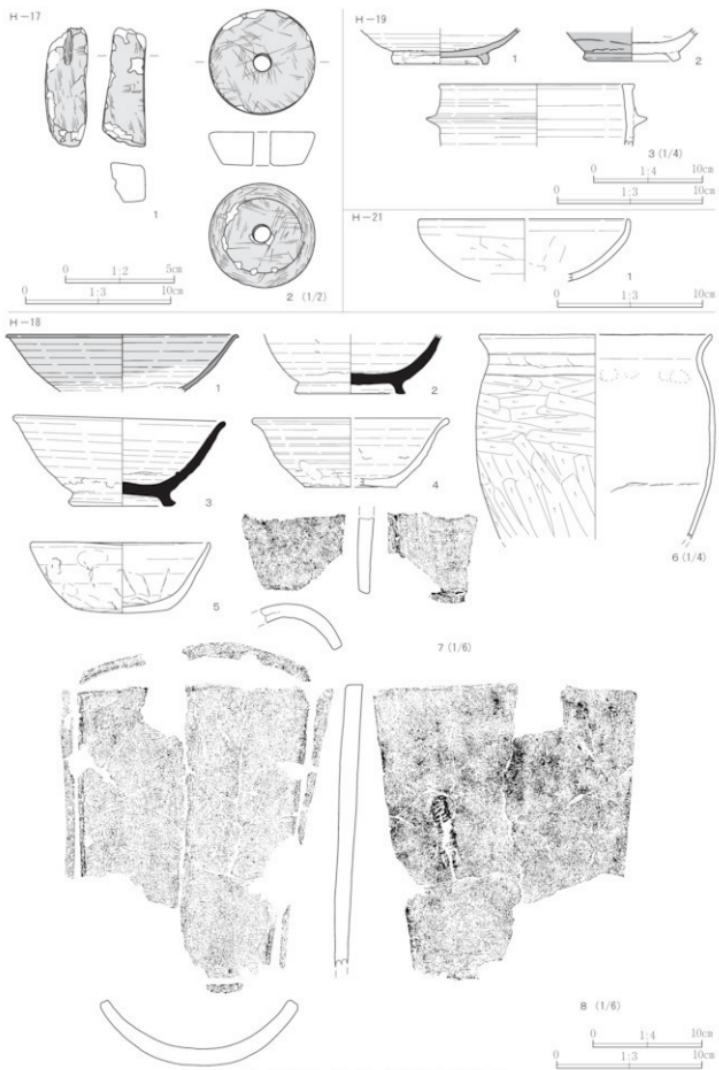


Fig. 46 31区 H-17~19・21号住居跡出土遺物



H-22

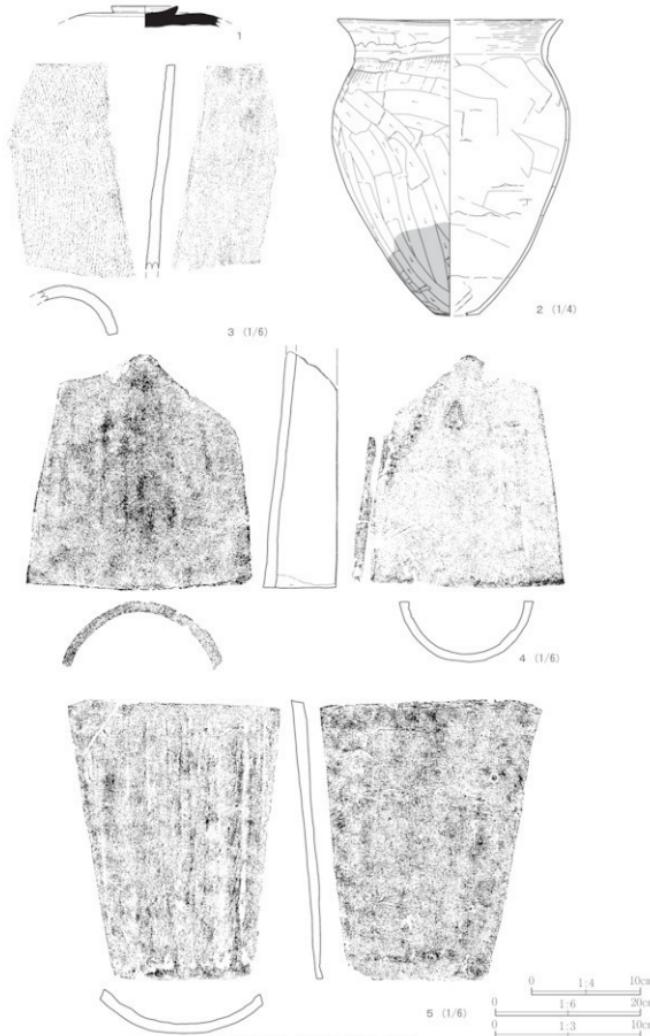


Fig.47 31区 H-22号住居跡出土遺物

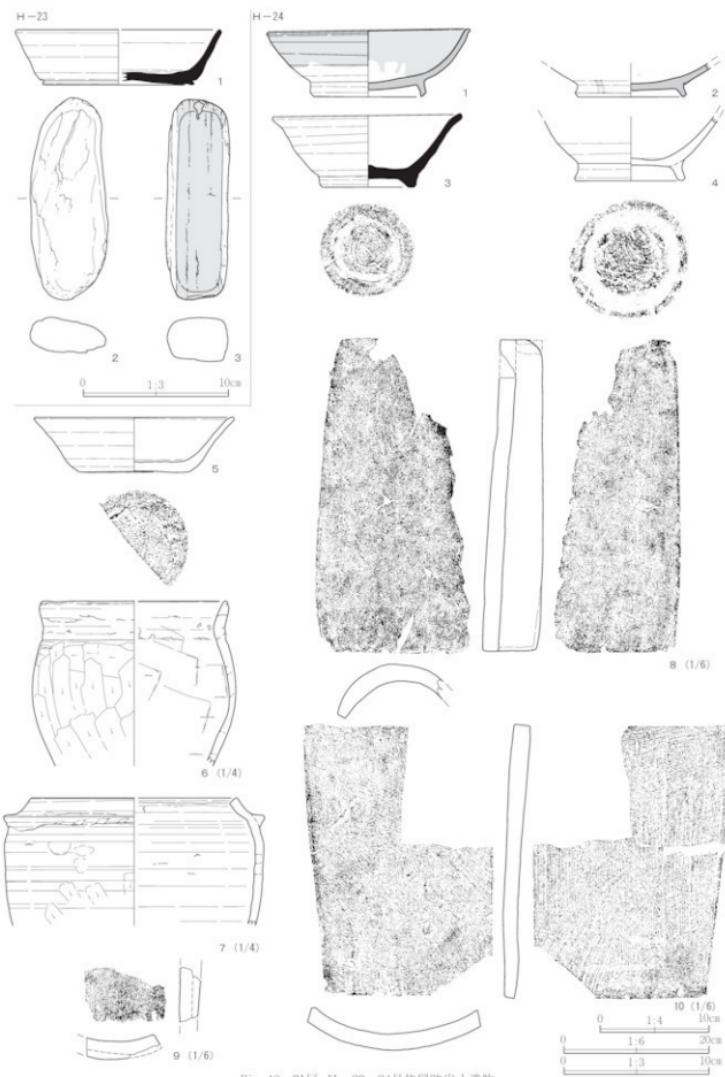


Fig.48 31区 H-23·24号住居跡出土遺物

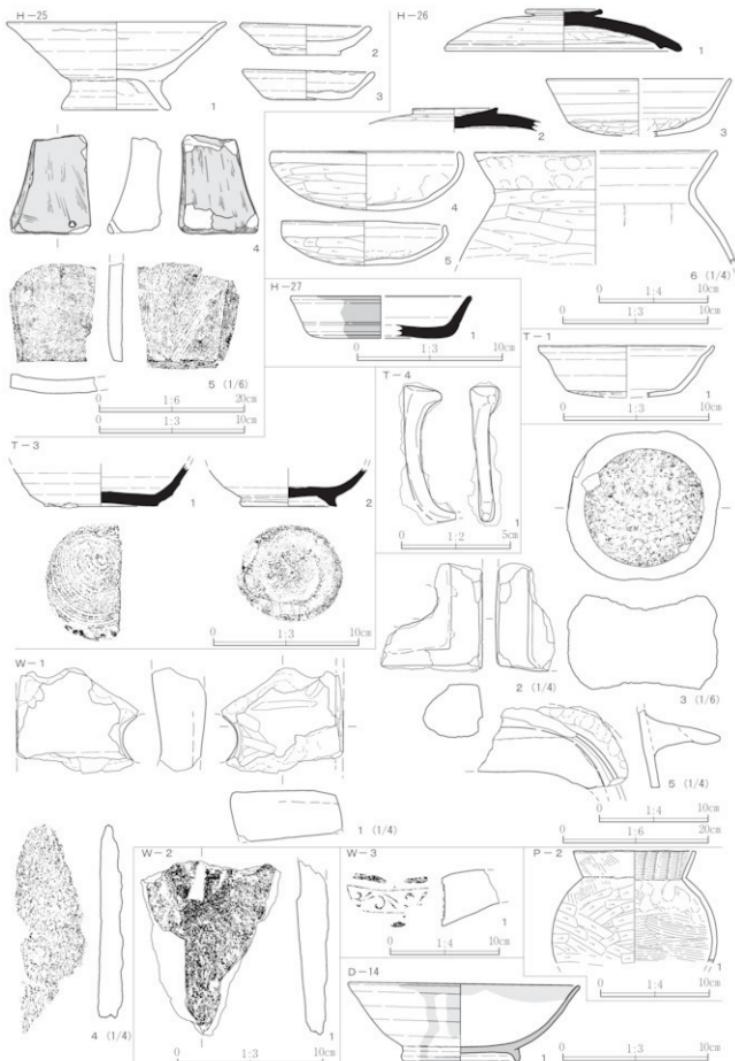




Fig. 50 31区 道標外出土遺物

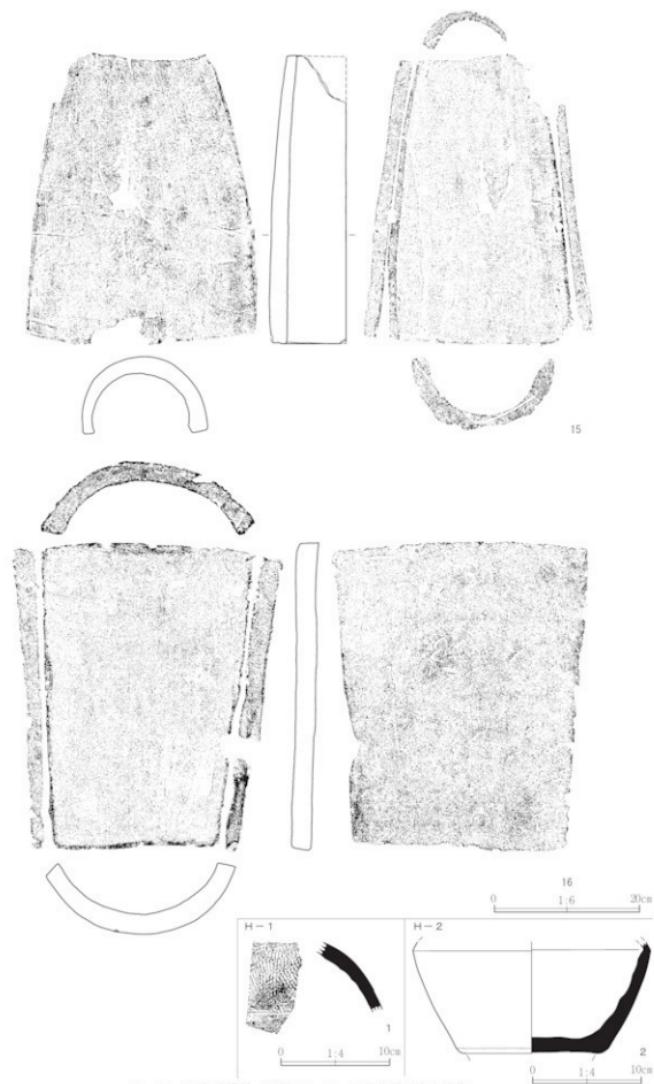


Fig. 51 31区 遗物外、32区 H-1・2号住居跡出土遺物

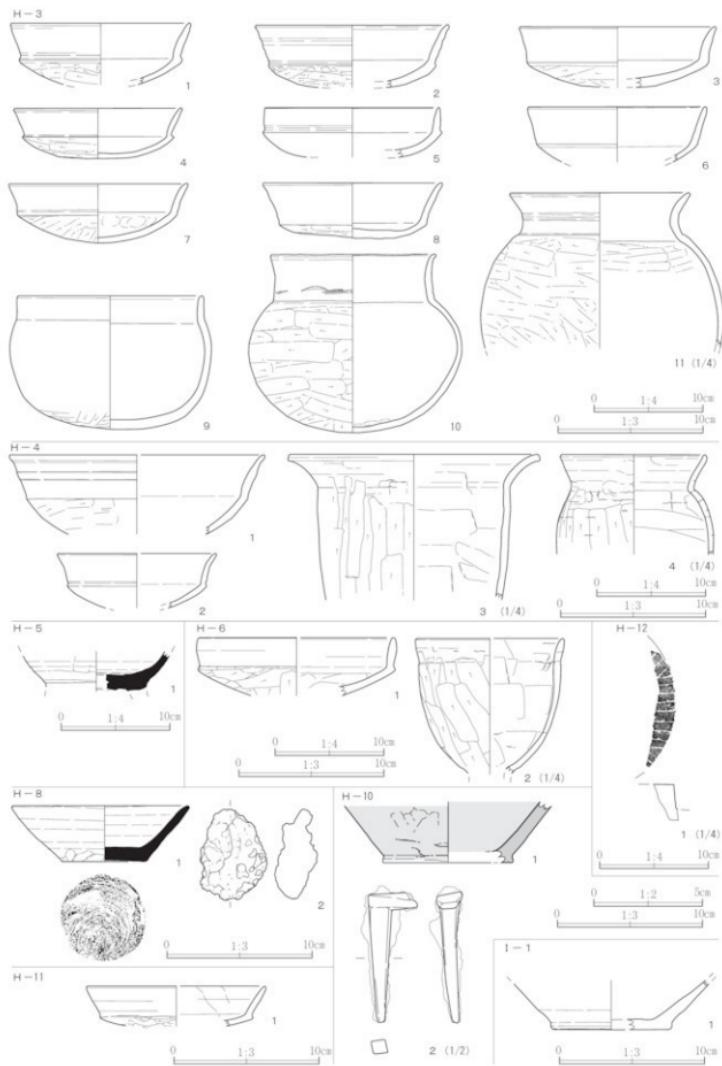


Fig.51 31区 遺構外、32区 H-1～3号住居跡出土遺物

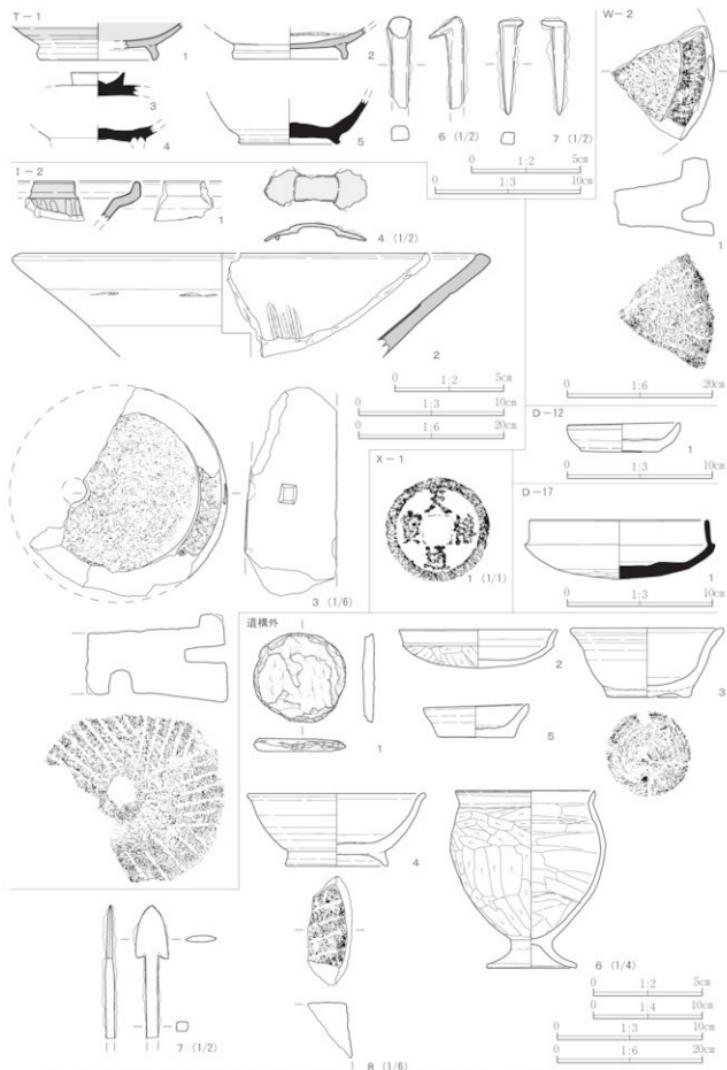


Fig. 52 32区 T-1号整穴状遗構、W-2号溝、I-2号井戸、X-1号、D-12-17、遺構外出土遺物



PL. 1



31区西端部調査区全景（南から）



31区西側調査区全景（西から）



PL. 2



31区中央部調査区全景（下が南）



31区東側調査区全景（下が南）



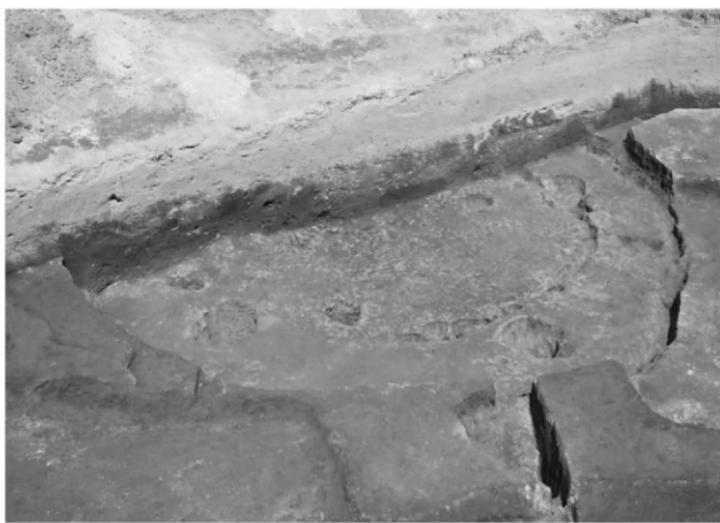
PL. 3



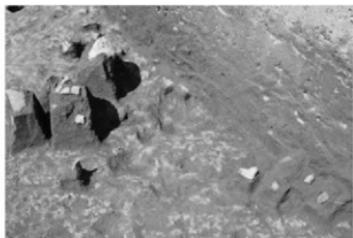
31区西端部 J-1号住居跡全景（東から）



31区西側 J-1号住居跡遺物出土状況（西から）



31区西側 J-2号住居跡全景（南から）



31区西側 J-2号住居跡全景（東から）



31区西端部 H-1号住居跡遺物全景（東から）



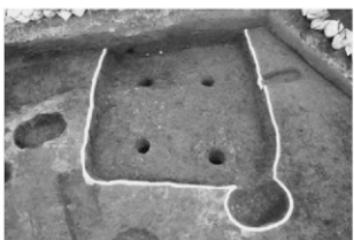
PL. 4



31区西端 H-1号住居跡断面（南から）



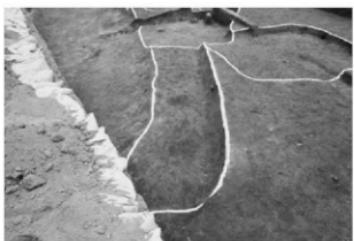
31区西端部 H-2号住居跡全景（北から）



31区西端部 H-3号住居跡全景（西から）



31区西端部 H-4号住居跡全景（南から）



31区西侧 H-5号住居跡全景（西から）



31区西侧 H-6・7号住居跡全景（西から）



31区西侧 H-7号住居跡遺物出土状況（西から）



31区西侧 H-8号住居跡全景（西から）



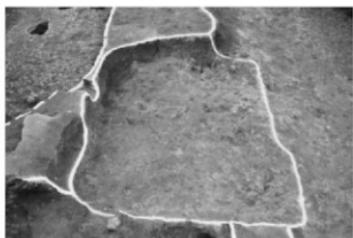
PL.5



31区西侧 H-8号居住跡出土物出土状況（南西から）



31区西侧 H-9号居住跡全景（西から）



31区西侧 H-10号居住跡全景（西から）



31区西侧 H-11号居住跡全景（東から）



31区西侧 H-12号居住跡全景（西から）



PL. 6



31区西側 H-12号住居跡全景（西から）



31区西側 H-12号住居跡貯藏穴遺物出土状況（西から）



31区中央部 H-13号住居跡遺物出土状況（南から）



31区中央部 H-14号住居跡全景（西から）



31区中央部 H-15・16号住居跡全景（南から）



31区中央部 H-17号住居跡全景（北から）



31区中央部 H-18号住居跡全景（西から）



31区中央部 H-18号住居跡遺物出土状況（西から）



PL. 7



31区中央部 H-19号住居跡全景（北から）



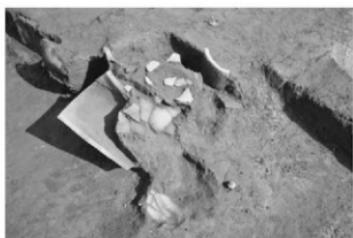
31区東側 H-20号住居跡全景（北東から）



31区東側 H-21号住居跡全景（西から）



31区東側 H-22号住居跡全景（西から）



31区東側 H-22号住居遺物出土状況①（北西から）



31区東側 H-22号遺物出土状況②（南東から）



31区東側 H-23号住居跡全景（西から）



31区東側 H-24号住居跡全景（西から）



PL. 8



31区東側 H-24号住居跡遺物出土状況（西から）



31区東側 H-25号住居跡全景（西から）



31区東側 H-25号住居跡遺物出土状況（西から）



31区東側 H-26号住居跡全景（西から）



31区東側 H-27号住居跡・D-24号土坑全景（南から）



31区西側 W-1号溝全景（東から）



31区西側 W-1号溝断面（西から）



31区東側 W-7号溝全景（北から）



PL. 9



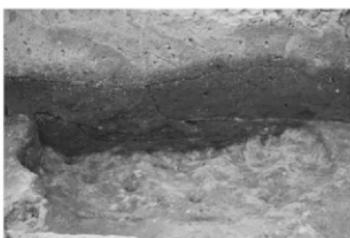
31区東側 W-7号溝セクション (北から)



31区西側 P-1~5、JD-4検出状況 (南から)



31区西側 JD-5号土坑全景 (北から)



31区西側 JD-6号土坑全景 (北から)



31区東側 JD-7号土坑全景 (東から)



31区東側 JD-7号土坑遺物出土状況 (東から)



31区中央部調査風景 (東から)



31区東側調査風景 (西から)



PL. 10



32区北側調査区全景（下が西）



32区南側調査区全景（下が西）



PL. 11



32区北側 H-1号住居跡全景 (南から)



32区北側 H-2号住居跡全景 (南西から)



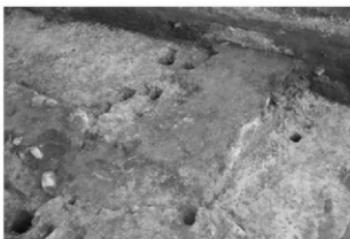
32区北側 H-3号住居跡全景 (東から)



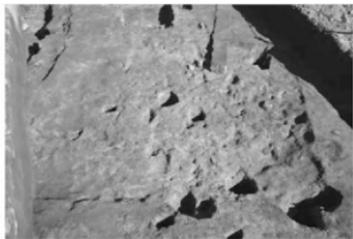
32区北側 H-4号住居跡全景 (南から)



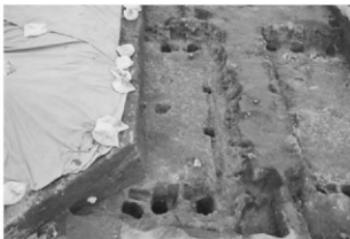
32区南側 H-5号住居跡全景 (東から)



32区南側 H-6号住居跡全景 (西から)



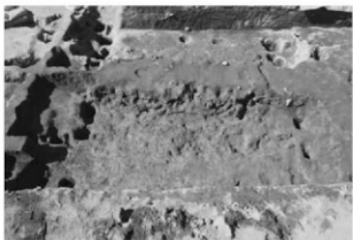
32区南側 H-7号住居跡全景 (南から)



32区南側 H-8号住居跡全景 (南から)



PL. 12



32区南側 H-9号住居跡全景（西から）



32区南側 H-10号住居跡全景（西から）



32区南側 H-11号住居跡全景（東から）



32区南側 H-12号住居跡全景（東から）



32区南側 W-1号溝全景（西から）



32区南側 W-2号溝全景（南から）



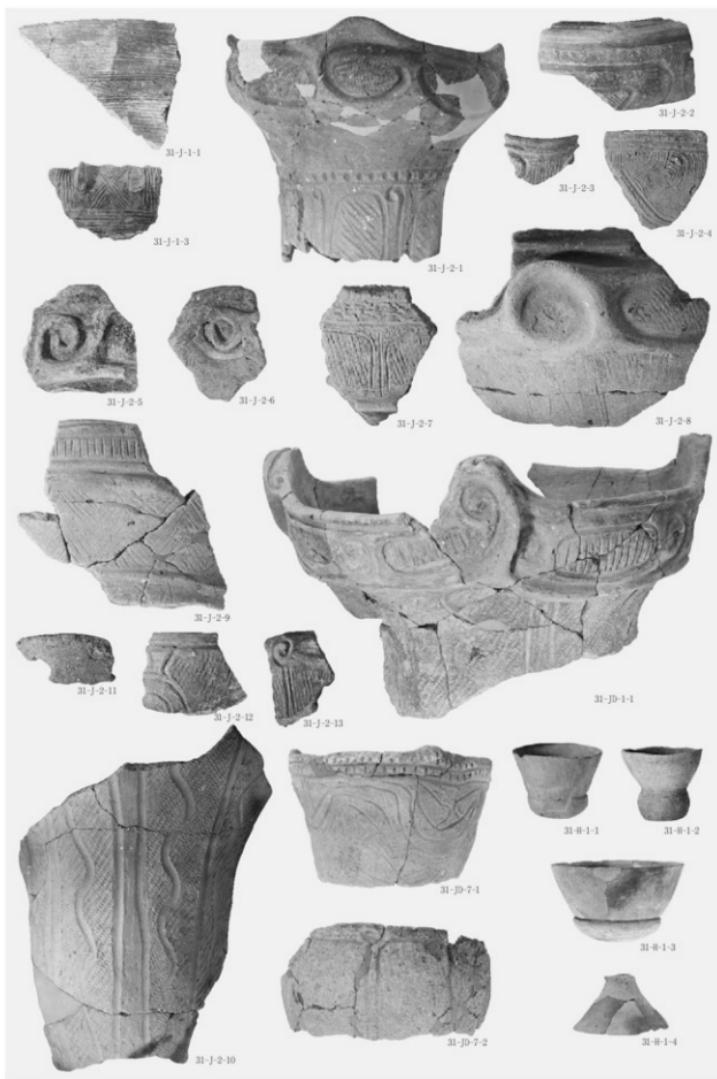
32区南側 I-2号井戸全景（南から）



32区南側調査風景（北西から）

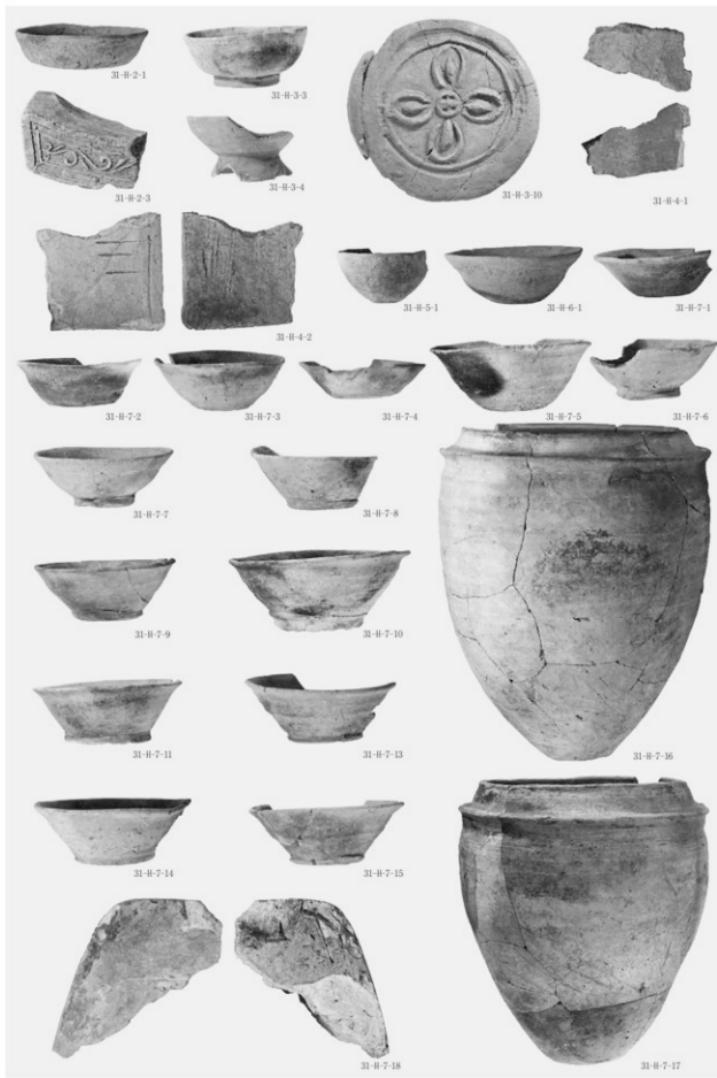


PL. 13



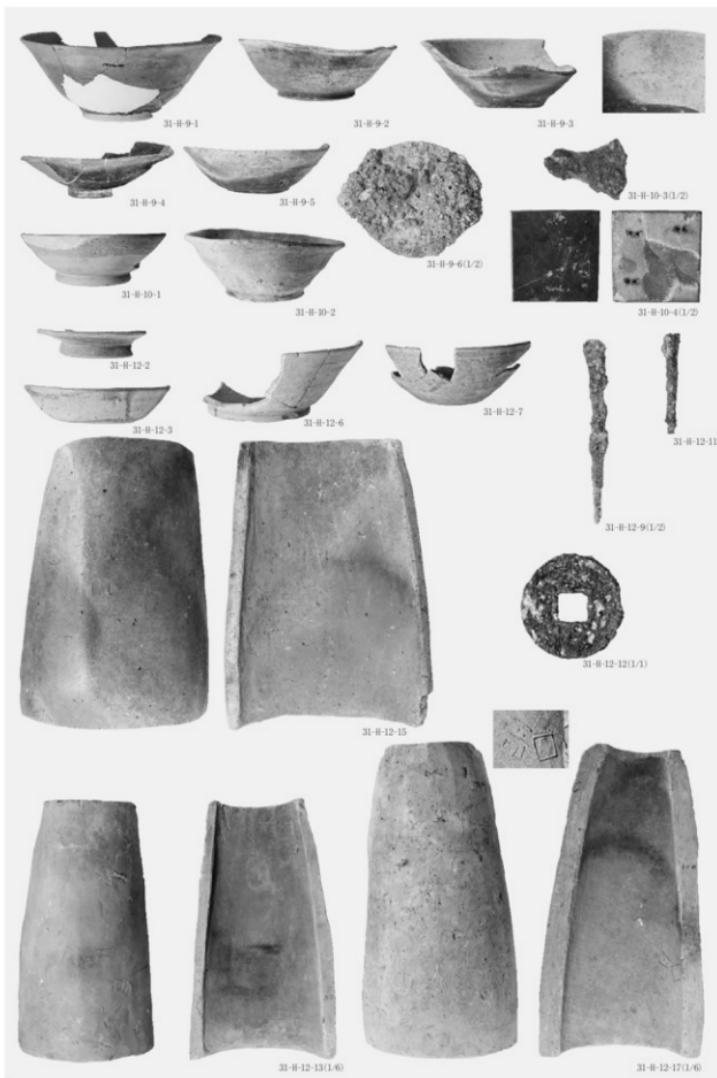


PL. 14



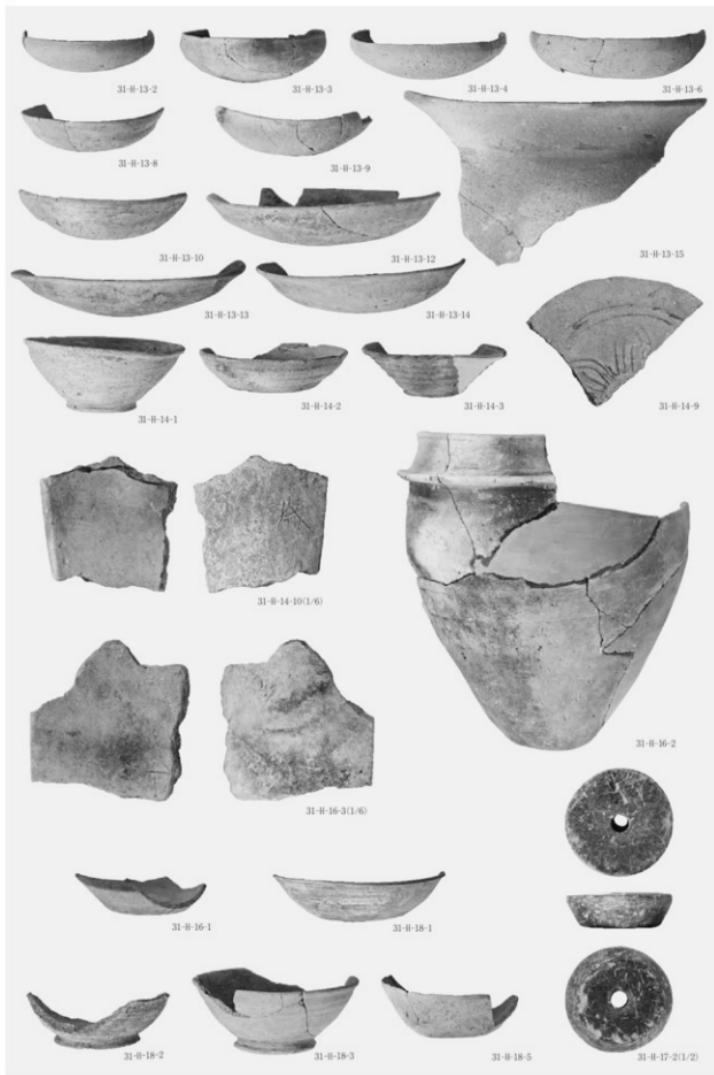


PL. 15



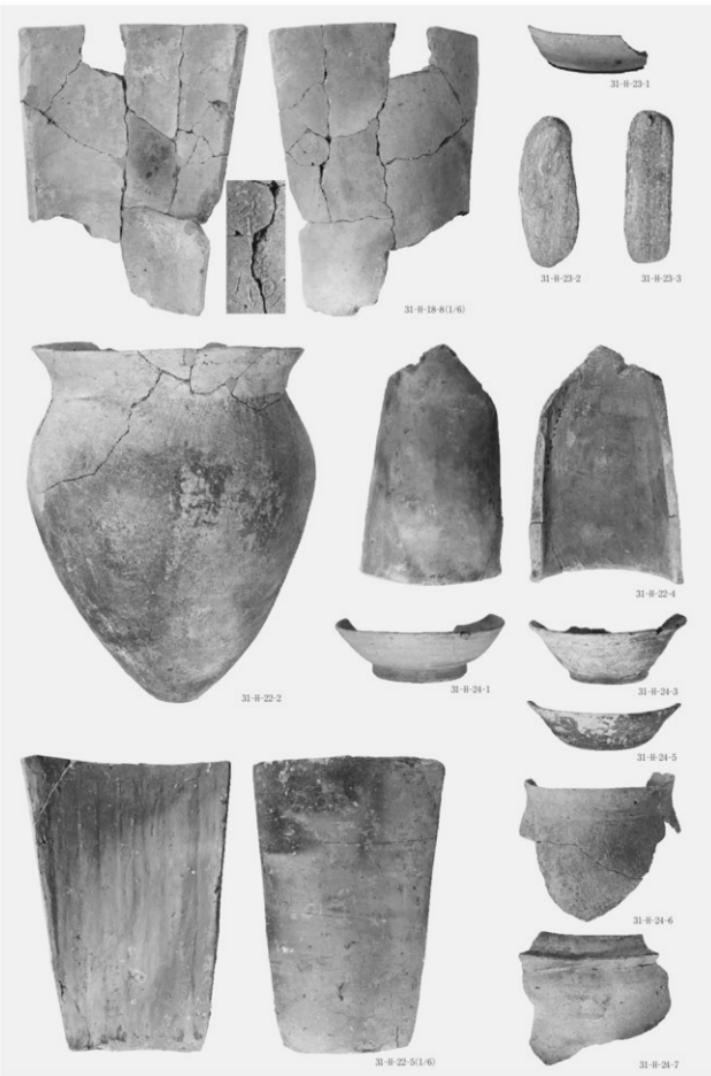


PL. 16



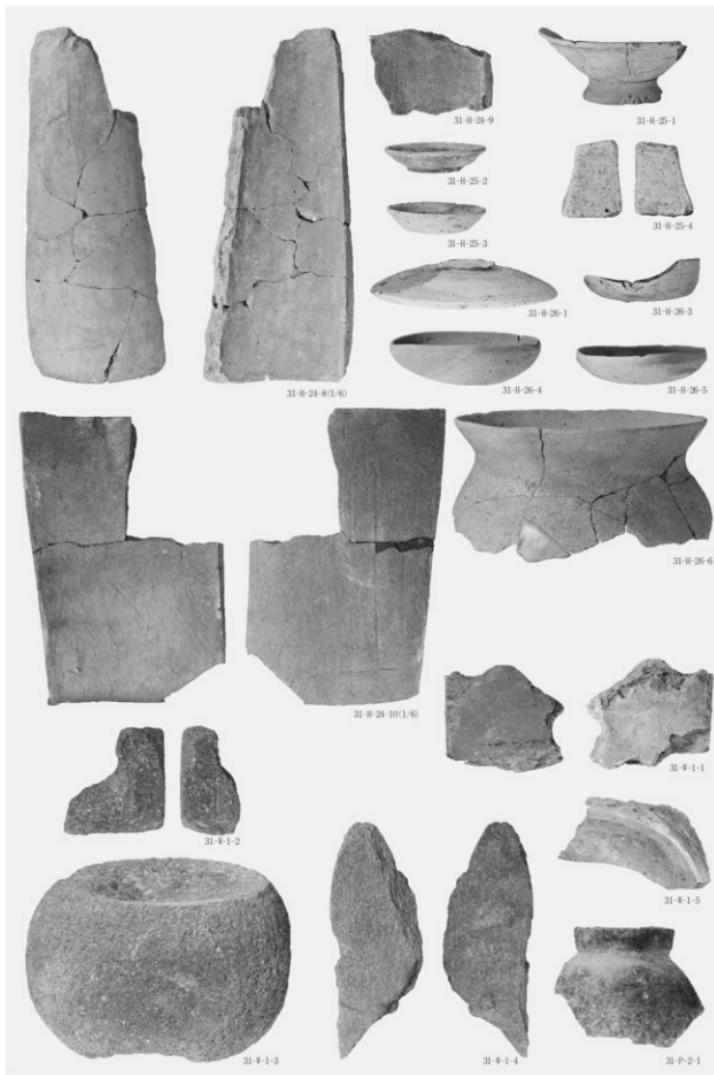


PL. 17



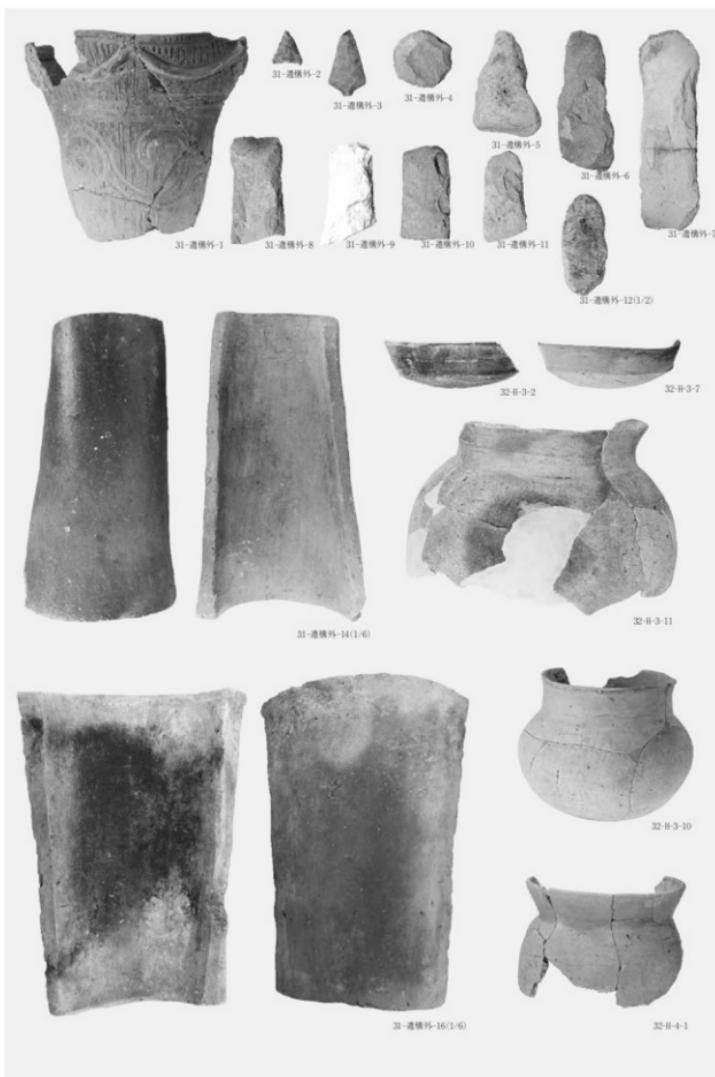


PL. 18



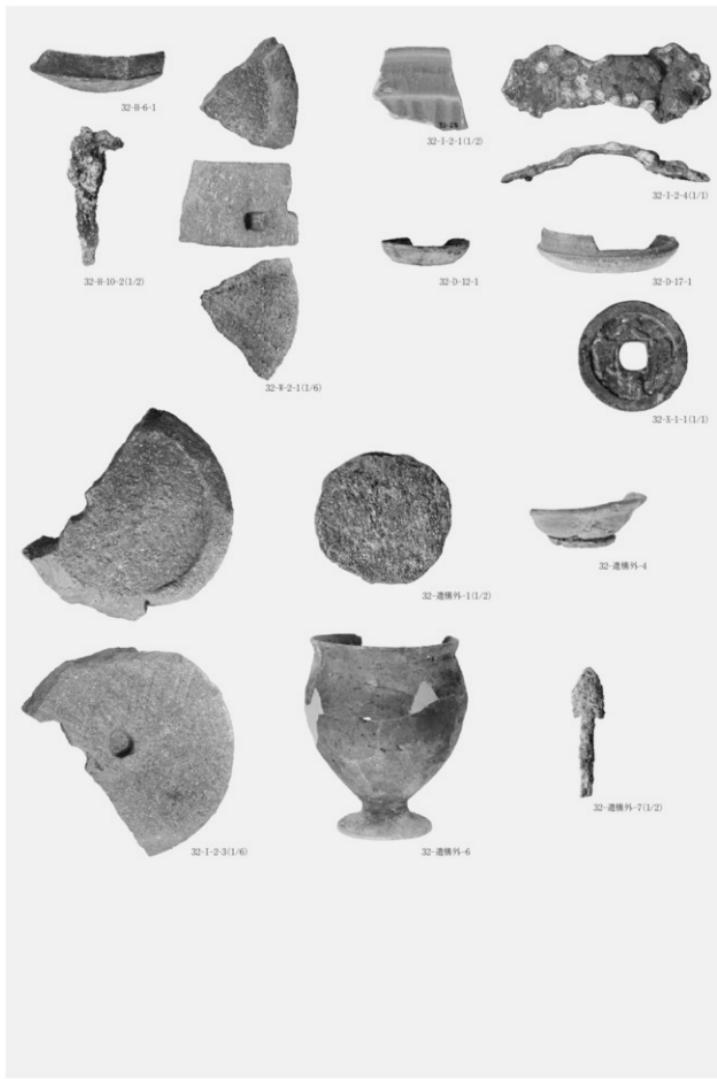


PL. 19





PL. 20





報告書抄録

フリガナ	モトツウジヤオウミイセキダン (24)
書名	元総社蒼海遺跡群 (24)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	山下廣信、前田和昭
編集機関	技研測量設計株式会社
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
発行機関所在地	前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2009年3月19日

フリガナ	フリガナ	コード	位置			調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号	北緯	東經			
元総社蒼海遺跡群 (24)	前橋市元総社町 1715-2ほか	10201	20A130-24	36°23'25"	139°01'52"	20090106 20090211	約1.665m ²	前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 (24)	集落跡	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代	堅穴住居跡2軒、土坑7基 堅穴住居跡5軒 堅穴住居跡27軒 堅穴状遺構6軒 溝跡7条、土坑64基	縄文土器、石器 土師器、須恵器 土師器、須恵器、灰釉陶器 鉄製品、石製品、皇朝十二錢	
		中世	方形堅穴5軒、井戸2基、溝4条	銅製品、石製品、北宋錢	

元総社蒼海遺跡群 (24)

2009年3月16日 印刷
2009年3月19日 発行

発 行

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町2丁目10-2
TEL. 027-231-9531
朝日印刷工業株式会社
前橋市元総社町67

印 刷









